

熊本県文化財調査報告 第326集

上南部遺跡

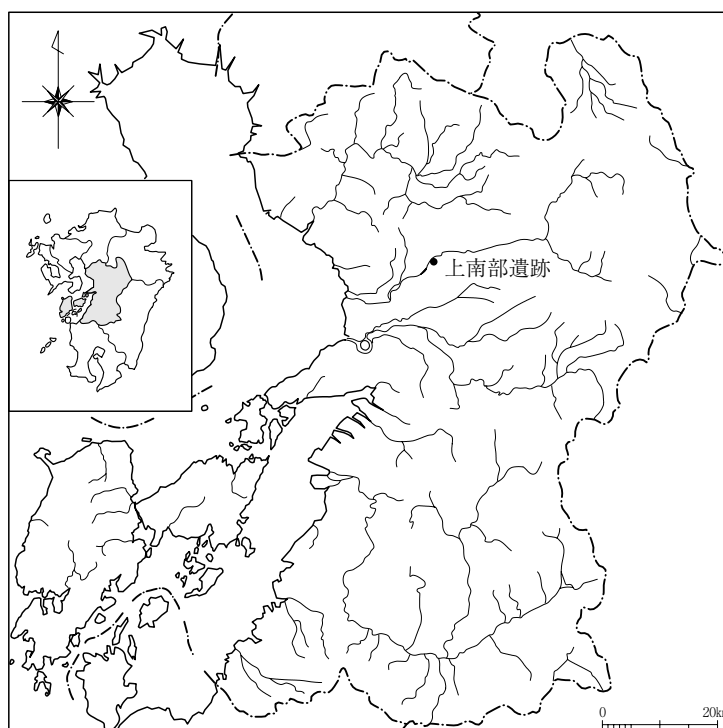
白川河川激甚災害対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)

2017.3

熊本県教育委員会

上南部遺跡

白川河川激甚災害対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)



2017.3

熊本県教育委員会



空撮 1 白川上流側から下流側を望む



空撮 2 上南部遺跡の西方・龍田方面



空撮 3 上南部遺跡の北方・武蔵ヶ丘方面



空撮 4 上南部遺跡全景

1 区



2 区



3 区



空撮 5 上南部遺跡各調査区



1～3号甕棺墓出土状況及び出土甕棺

序 文

熊本県教育委員会では、白川河川激甚災害対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、平成27年度に熊本市東区上南部に所在する上南部遺跡の発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、上南部遺跡では縄文時代後期から晩期の土坑、弥生時代中期から後期にかけての竪穴建物、弥生時代中期の甕棺墓が確認されました。特に今回検出された竪穴建物と甕棺墓は、白川中流域にて営まれた弥生時代の居住域と墓域の様相を垣間見ることができるものです。

この報告書が、広く県民の皆様の埋蔵文化財に対する認識と理解を深め、さらには学術研究の進展にいささかでも寄与できれば、誠に喜びに堪えません。

なお、本調査を実施するにあたり、文化財保護の観点から多大なご協力をいただいた県土木部河川課、県央広域本部土木部災害対策課、熊本市埋蔵文化財調査室及び地元関係者の皆様、またご指導、ご助言をいただきました諸先生方に深く感謝申しあげたいと思います。

平成29年3月24日

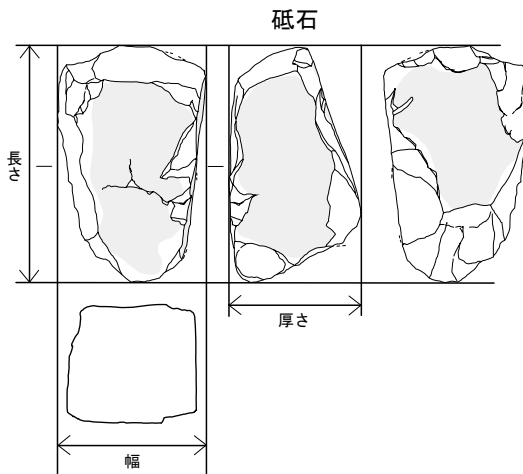
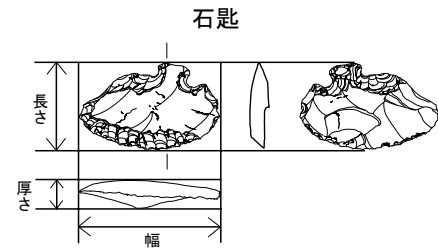
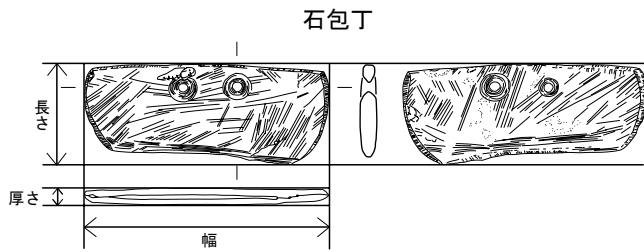
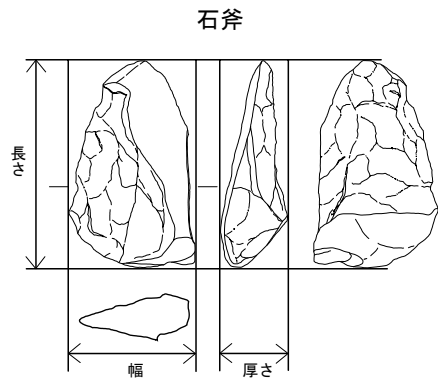
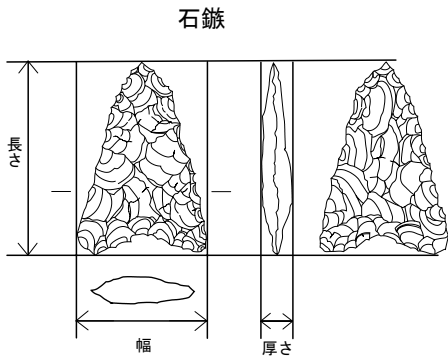
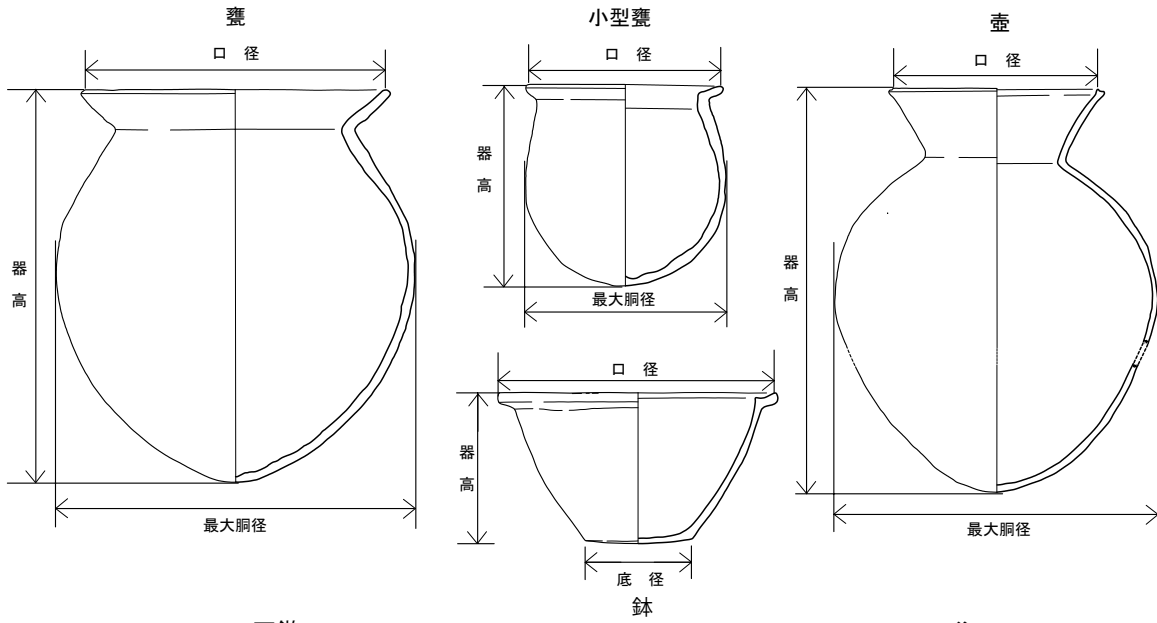
熊本県教育長 宮尾 千加子

例 言

1. 本書は、白川河川激甚災害対策特別緊急事業に伴い実施した白川河川中流域に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、熊本県土木部の依頼を受け、平成27年から28年にかけて熊本県教育庁教育総務局文化課が実施した。
3. 各調査区の4級基準点測量及びメッシュ杭設置作業は、株式会社十八測量に委託した。
4. 遺構実測は、尾崎潔久、宮本 大、北原美和子、師富成香が担当した。
5. 遺物実測は、嵐 英隆、鍋田浩子、橋口冬美、前田憲一郎、松本裕子が担当した。甕棺及び土器と石器の実測を九州文化財研究所に委託した。
6. 遺構及び遺物の製図は、嵐、中川 治、立石美代子、鍋田、橋口、濱崎清子、春川香子、前田、松本が担当した。
7. 遺構等の現場撮影は、尾崎、宮本、北原、師富が担当した。遺跡の空中写真撮影は、九州航空株式会社熊本営業所に委託した。
8. 遺物の撮影は、村田百合子、松本智子、野下智美、尾崎、松本、橋口が担当した。
9. 金属器の透過X線撮影には福岡市埋蔵文化財センターの協力を得た。
10. 金属器の保存処理は大塚トシ子、小野美香、花田美佳が担当した。
11. 本文の執筆は、尾崎潔久、師富成香が担当した。
12. 本書の編集は、尾崎を中心に行い橋口、松本が補助した。
13. 本書に掲載した資料は、熊本県文化財資料室で保管している。

凡 例

1. 遺跡の座標については、世界測地系を使用している。方位については、座標軸を基準とした北を指している。
2. 現地での遺構の実測は、原則10分の1又は、20分の1の縮尺で行った。
掲載した実測図の主な縮尺は以下の通りで、その他は個別に表記している。
 竪穴建物1/60、土坑1/10・1/20・1/40・1/60、甕棺墓1/20、溝1/60等
3. 遺構図中の硬化面・焼土・粘土等はアミかけや斜線で凡例を表記している。
4. 遺物の実測は原寸で行い、掲載した実測図及び拓本の縮尺は挿図中に示している。
5. 遺物の赤彩や、断面図中の土器・石器はトーンの濃淡で表現している。
6. 挿図土層断面中に示される遺物出土地点は見通しのドット（●・★・■）で表現している。
7. 石器類の磨り痕や使用痕はアミかけで、ガジリは黒塗りで表現している。
8. 遺物写真図版中の(写)は、写真図版のみの掲載である。
9. 色調については遺構・遺物ともに『新版 標準土色帖』（1967年 農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に従った。



遺物計測部模式図(土器・石器)

本文目次

巻頭カラー
序文
例言・凡例
目次

第I章 調査の契機と経過

第1節	調査の経緯と経過	1
第2節	調査及び整理の組織	1
第3節	調査の経過	2

第II章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節	地理的環境	6
第2節	歴史的環境	6

第III章 上南部遺跡の調査

第1節	調査の概要	13
第2節	層序	13
第3節	1区の調査成果	15
第4節	2区の調査成果	28
第5節	3区の調査成果	64

第IV章 総括

1	はじめに	74
2	縄文時代	74
3	弥生時代	75
4	終わりに	78

上南部遺跡遺構一覧表 79

観察表 80

参考文献 86

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 白川河川激甚災害工事計画図……………4	第32図 12号竈穴建物(S203)実測図 及び出土遺物実測図……………43
第2図 上南部遺跡発掘調査位置図……………5	第33図 13・14号竈穴建物(S202・S201)実測図……………44
第3図 熊本市周辺の地質図……………7	第34図 13・14号竈穴建物(S202・S201)出土遺物実測図…45
第4図 白川関連遺跡周辺遺跡分布図……………8	第35図 1号甕棺墓(S230)・2号甕棺墓(S228)・ 3号甕棺墓(S229)実測図……………47
第5図 上南部遺跡調査区基本土層柱状図……………13	第36図 1号甕棺墓(S230)実測図及び断面図……………48
第6図 上南部遺跡全体配置図……………14	第37図 1号甕棺墓(S230)甕棺実測図……………49
第7図 1区 1 Tr. 断面図 ……………15	第38図 2号甕棺墓(S228)実測図及び断面図……………50
第8図 上南部遺跡1区遺構配置図及びグリッド図……………16	第39図 2号甕棺墓(S228)甕棺及び出土遺物実測図……………51
第9図 1号竈穴建物(S107)実測図……………17	第40図 3号甕棺墓(S229)実測図及び断面図……………52
第10図 1号竈穴建物(S107)出土遺物実測図……………18	第41図 3号甕棺墓(S229)甕棺実測図……………53
第11図 2号竈穴建物(S113)実測図……………19	第42図 3号甕棺墓(S229)石蓋実測図……………54
第12図 2号竈穴建物(S113)出土遺物実測図……………20	第43図 3号溝状遺構(S216)実測図……………56
第13図 円形溝溝(S108)実測図及び出土遺物実測図……………21	第44図 4・5号溝状遺構(S217・S214)実測図……………57
第14図 1号溝状遺構(S112)実測図……………22	第45図 4・5・6・7号土坑(S231・S232・S219・S233) 実測図及び出土遺物実測図……………59
第15図 2号溝状遺構(S106)実測図 及び出土遺物実測図……………23	第46図 8・9号土坑(S221・210)実測図 及び出土遺物実測図……………60
第16図 1号土坑(S115)実測図……………25	第47図 10号土坑(S204)実測図 及び出土遺物実測図……………61
第17図 2・3号土坑(S102・104)・ 不明遺構(S101)実測図……………26	第48図 2区包含層出土遺物実測図(1)……………62
第18図 1区包含層出土遺物実測図……………27	第49図 2区包含層出土遺物実測図(2)……………63
第19図 2区 2 Tr.・3 Tr. 断面図 ……………28	第50図 3区 4 Tr.・5 Tr. 断面図 ……………64
第20図 上南部遺跡2区遺構配置図及びグリッド図……………29	第51図 3区 6 Tr. 断面図 ……………65
第21図 3号竈穴建物(S215)実測図……………31	第52図 上南部遺跡3区遺構配置図及びグリッド図……………66
第22図 3号竈穴建物(S215)出土遺物実測図……………32	第53図 11号土坑(S302)実測図……………67
第23図 4号竈穴建物(S222)実測図 及び出土遺物実測図……………33	第54図 11号土坑(S302)出土遺物実測図(1)……………68
第24図 5号竈穴建物(S220)実測図 及び出土遺物実測図……………34	第55図 11号土坑(S302)出土遺物実測図(2) 及び12号(S304)実測図……………69
第25図 6号竈穴建物(S218)実測図 及び出土遺物実測図……………35	第56図 13号土坑(S301)実測図及び出土遺物実測図……………70
第26図 7号竈穴建物(S209)実測図 及び出土遺物実測図……………36	第57図 3区包含層出土遺物実測図(1)……………72
第27図 8号竈穴建物(S208)実測図 及び出土遺物実測図……………38	第58図 3区包含層出土遺物実測図(2)……………73
第28図 9号竈穴建物(S207)実測図 及び出土遺物実測図……………39	
第29図 10号竈穴建物(S205)実測図 及び出土遺物実測図……………40	
第30図 11号竈穴建物(S206)実測図 及び出土遺物実測図……………41	
第31図 11号竈穴建物(S206)出土遺物実測図……………42	

表 目 次

表 1 白川関連遺跡周辺遺跡一覧(1)……………9	表 8 上南部遺跡出土土器観察表……………80
表 2 白川関連遺跡周辺遺跡一覧(2)……………10	表 9 上南部遺跡出土土器観察表……………81
表 3 白川関連遺跡周辺遺跡一覧(3)……………11	表10 上南部遺跡出土土器観察表……………82
表 4 白川関連遺跡周辺遺跡一覧(4)……………12	表11 上南部遺跡出土土器観察表……………83
表 5 上南部遺跡甕棺一覧表……………53	表12 上南部遺跡出土土器観察表……………84
表 6 上南部遺跡甕棺墓石蓋一覧表……………54	表13 上南部遺跡出土土器観察表……………85
表 7 上南部遺跡遺構一覧表……………79	表14 上南部遺跡出土土器観察表……………85

図 版 目 次

空撮 1 白川上流側から下流側を望む	空撮 4 上南部遺跡全景
空撮 2 上南部遺跡の西方・籠田方面	空撮 5 上南部遺跡各調査区
空撮 3 上南部遺跡の北方・武蔵ヶ丘方面	1～3号甕棺墓出土状況及び出土甕棺

上南部遺跡

<p>図版 1 1区遺構検出状況①(東から) 遺構検出状況②(東から) 1 Tr. A-A' 土層断面①(南から) 1 Tr. A-A' 土層断面②(南から) 1 Tr. A-A' 土層断面③(南から) 1 Tr. A-A' 土層断面④(南から) 1号竪穴建物(S107)土層断面(北西から) 1号竪穴建物(S107)貯蔵穴土層断面(北から)</p> <p>図版 2 1区1号竪穴建物(S107)完掘状況(東から) 2号竪穴建物(S113)土層断面(西から) 2号竪穴建物(S113)遺物出土状況(北から) 2号竪穴建物(S113)炉土層断面(北から) 2号竪穴建物(S113)完掘状況(北から) 円形周溝(S108)遺物出土状況①(北から) 円形周溝(S108)遺物出土状況②(西から) 円形周溝(S108)土層断面①(西から)</p> <p>図版 3 1区円形周溝(S108)土層断面②(東から) 円形周溝(S108)完掘状況(西から) 1号溝(S112)土層断面①(西から) 1号溝(S112)土層断面②(西から) 1号溝(S112)完掘状況(西から) 2号溝(S106)土層断面(東から) 2号溝(S106)完掘状況(東から) 1号土坑(S115)土層断面(東から)</p> <p>図版 4 1区1号土坑(S115)完掘状況(北から)</p>	<p>2号土坑(S102)土層断面(北から) 2号土坑(S102)完掘状況(南から) 3号土坑(S104)土層断面(北から) 3号土坑(S104)完掘状況(西から) 1区調査区完掘状況①(北西から) 1区調査区完掘状況②(西から) 1区調査区完掘状況③(西から)</p> <p>図版 5 2区遺構検出状況①(東から) 遺構検出状況②(東から) 遺構検出状況③(東から) 遺構検出状況④(北から) 2 Tr. A-A' 土層断面①(西から) 2 Tr. A-A' 土層断面②(南から) 2 Tr. A-A' 土層断面③(西から) 2 Tr. A-A' 土層断面④(東から)</p> <p>図版 6 2区3 Tr. A-B土層断面(南から) 3 Tr. B-C土層断面(西から) 3号竪穴建物(S215)土層断面①(東から) 3号竪穴建物(S215)土層断面②(東から) 3号竪穴建物(S215)遺物出土状況(東から) 3号竪穴建物(S215)炉土層断面①(東から) 3号竪穴建物(S215)炉土層断面②(西から) 4号竪穴建物(S222)土層断面(東から)</p> <p>図版 7 2区4号竪穴建物(S222)完掘状況(西から) 5号竪穴建物(S220)検出状況(東から)</p>
---	---

	5号竪穴建物(S220)完掘状況(東から)		3号甕棺墓(S229)完掘状況(西から)
	6号竪穴建物(S218)貯蔵穴土層断面(北から)		3号溝(S216)土層断面(南から)
	6号竪穴建物(S218)貯蔵穴完掘状況(東から)		3号溝(S216)完掘状況(北から)
	6号竪穴建物(S218)完掘状況(北から)	図版13	2区4号溝(S217)土層断面(西から)
	7号竪穴建物(S209)土層断面(南から)		4号溝(S217)完掘状況(西から)
	7号竪穴建物(S209)検出状況(東から)		5号溝(S214)土層断面(北から)
図版8	2区7号竪穴建物(S209)土層断面(南から)		5号溝(S214)完掘状況(北から)
	7号竪穴建物(S209)貯蔵穴遺物出土状況(東から)		4号土坑(S231)土層断面(北から)
	7号竪穴建物(S209)完掘状況(北から)		4号土坑(S231)完掘状況(東から)
	8号竪穴建物(S208)土層断面(南から)		5号土坑(S232)土層断面(東から)
	8号竪穴建物(S208)遺物出土状況(北から)		5号土坑(S232)完掘状況(北から)
	8号竪穴建物(S208)完掘状況(北から)	図版14	2区6号土坑(S219)遺物出土状況(東から)
	9号竪穴建物(S207)土層断面(南から)		6号土坑(S219)完掘状況(東から)
	9号竪穴建物(S207)遺物出土状況(北から)		7号土坑(S233)土層断面(西から)
図版9	2区9号竪穴建物(S207)完掘状況(北から)		7号土坑(S233)完掘状況(西から)
	10号竪穴建物(S205)炉土層断面(南から)		8号土坑(S221)土層断面(南から)
	10号竪穴建物(S205)完掘状況(南から)		8号土坑(S221)完掘状況(南から)
	11号竪穴建物(S206)遺物出土状況(東から)		9号土坑(S210)土層断面(南から)
	11号竪穴建物(S206)炉土層断面(西から)		9号土坑(S210)完掘状況(南から)
	11号竪穴建物(S206)完掘状況(北から)	図版15	2区10号土坑(S204)土層断面(東から)
	12号竪穴建物(S203)土層断面(東から)		10号土坑(S204)完掘状況(北から)
	12号竪穴建物(S203)炉土層断面(西から)		2区調査区完掘状況①(西から)
図版10	2区12号竪穴建物(S203)貯蔵穴土層断面(東から)		2区調査区完掘状況②(西から)
	12号竪穴建物(S203)完掘状況(南から)		2区調査区完掘状況③(西から)
	13号竪穴建物(S202)貯蔵穴土層断面(西から)		2区調査区完掘状況④(西から)
	13号竪穴建物(S202)完掘状況(東から)		2区作業の様子①(2016年2月17日)
	14号竪穴建物(S201)土層断面(南から)		2区作業の様子②(2016年2月17日)
	14号竪穴建物(S201)貯蔵穴土層断面(東から)	図版16	3区遺構検出状況①(西から)
	14号竪穴建物(S201)完掘状況(東から)		遺構検出状況②(西から)
	1号甕棺墓(S230)検出状況(西から)		遺構検出状況③(西から)
図版11	2区1号甕棺墓(S230)土層断面(西から)		遺構検出状況④(西から)
	1号甕棺墓(S230)検出状況(西から)		4 Tr. A-A' 土層断面(南から)
	1号甕棺墓(S230)甕棺出土状況(西から)		5 Tr. B-B' 土層断面①(南から)
	1号甕棺墓(S230)完掘状況(西から)		5 Tr. B-B' 土層断面②(南から)
	2号甕棺墓(S228)検出状況(西から)		5 Tr. B-B' 土層断面③(南から)
	2号甕棺墓(S228)土層断面(北から)	図版17	3区5 Tr. B-B' 土層断面④(南から)
	2号甕棺墓(S228)甕棺出土状況①(北西から)		11号土坑(S302)土層断面(東から)
	2号甕棺墓(S228)甕棺出土状況②(東から)		11号土坑(S302)遺物出土状況(上層)①(東から)
図版12	2区2号甕棺墓(S228)完掘状況(北西から)		11号土坑(S302)遺物出土状況②(南から)
	3号甕棺墓(S229)土層断面(西から)		11号土坑(S302)完掘状況(東から)
	3号甕棺墓(S229)甕棺出土状況①(南から)		12号土坑(S304)土層断面(東から)
	3号甕棺墓(S229)甕棺出土状況②(北から)		12号土坑(S304)完掘状況(東から)
	3号甕棺墓(S229)甕棺出土状況③(東から)		13号土坑(S301)検出状況(西から)

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 図版18 | 3区13号土坑(S301)土層断面(西から)
13号土坑(S301)遺物出土状況(西から)
3区調査区完掘状況①(東から)
3区調査区完掘状況②(東から)
3区調査区完掘状況③(東から)
3区調査区完掘状況④(東から)
夏の現場説明会(2015年8月9日)
秋の現場説明会(2015年10月24日) | 図版24 | 2区14号竪穴建物 2号甕棺墓
6号土坑 9号土坑 10号土坑
Cグリッド Pit2069 Pit2047 |
| 図版19 | 1区1号竪穴建物 2号竪穴建物 円形周溝
2号溝 1号土坑 D・Eグリッド(1) | 図版25 | 2区Pit2046 Pit2059
B-11・12グリッド C-9グリッド
C-14グリッド Pit2117 3区11号土坑(1) |
| 図版20 | 1区D・Eグリッド(2) 2区3号竪穴建物 | 図版26 | 3区11号土坑(2) 13号土坑 B-17グリッド(1) |
| 図版21 | 2区4号竪穴建物 5号竪穴建物 6号竪穴建物
7号竪穴建物 8号竪穴建物 | 図版27 | 3区B-17グリッド(2) B-18グリッド
B-19・20グリッド A-20グリッド
Pit3049 Pit3059 Pit3077 Pit3072
3区一括(1) |
| 図版22 | 2区9号竪穴建物 10号竪穴建物 11号竪穴建物
12号竪穴建物 13号竪穴建物 | 図版28 | 3区一括(2) 3区カクラン(1) |
| 図版23 | 2区1号甕棺 2号甕棺 3号甕棺 | 図版29 | 3区カクラン(2)
鉄製品 1区D-2グリッド 2区C-14グリッド
3区カクラン |

第I章 調査の契機と経過

第1節 調査の経緯と経過

調査の原因は平成24年7月12日に発生した熊本広域大水害の復興事業によるものである。平成28年度までの実施した調査及び整理は下記の通りである。

平成25年度

(調査) 新南部遺跡群(10次・11次)、吉原遺跡

平成26年度

(調査) 託麻弓削遺跡群(1区・2区・3区)、中江遺跡

(整理) 新南部遺跡群(10次・11次)、吉原遺跡

平成27年度

(調査) 下南部遺跡、上南部遺跡、託麻弓削遺跡群(4区・5区)

(整理) 新南部遺跡群(10次・11次)・吉原遺跡(熊本県文化財調査報告第320集発行)

託麻弓削遺跡群・中江遺跡(熊本県文化財調査報告第321集発行)

平成28年度

(調査) 託麻弓削遺跡群(5区)

(整理) 下南部遺跡(熊本県文化財調査報告第325集発行)・上南部遺跡(熊本県文化財調査報告第326集発行)・託麻弓削遺跡群(4区・5区)

なお、詳細な経緯については、平成27年度発行の「新南部遺跡群(10次・11次)・吉原遺跡 白川河川激甚災害対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」(熊本県文化財調査報告第320集)を参照していただきたい。

今回報告する上南部遺跡については、平成26年5月27日に試掘確認調査を行った。その結果、今回の調査区内において、縄文時代から弥生時代にかけての遺構と遺物の存在を確認した。その後、平成26年9月16日付け央土災対53号熊本県知事名で文化財保護法94条第1項の通知が熊本市教育委員会に提出され、平成26年9月16日付け文振発000457号で熊本市教育長から熊本県教育長あて進達された。工事内容と試掘確認調査の結果を照らし合わせた結果、発掘調査が必要と判断した。発掘調査の指示を平成26年10月6日付け教文第1350号で熊本市教育長、熊本県知事あて通知した。また平成27年4月3日付け央土災対2号で発掘調査の依頼通知が提出された。本調査期間は、平成27年6月4日から平成28年2月24日までである。

第2節 調査及び整理の組織

【調査】(平成27年度)

調査主体 熊本県教育委員会

調査責任者 手島伸介(文化課長)

村崎孝宏(課長補佐)

調査総括 岡本真也(主幹兼文化財調査第二係長)

調査事務局 松永隆則(課長補佐)、廣石啓哉(主幹兼総務・文化係長)、有馬綾子・天草英子(参事)

坂井田端志郎(主任学芸員)、竹馬牧子(主事)

調査担当 尾崎潔久・宮本 大(文化財保護主事)

北原美和子・師富成香（臨時調査補助員）

発掘調査作業員（敬称略、五十音順）

青木立子、石村義則、井手美幸、有働義則、緒方正明、熊谷邦彦、栗崎信行、後藤章一、後藤まや、土山富枝、中尾規子、中村 保、中村良一、藤本誠二、本郷憲司、松本晋治、松山誠一、宮内真希、森本清子、奥村信博、岩瀬ひとみ、森田幸雄、水本泰之、春野宗敏

【整理】（平成28年度）

整理主体 熊本県教育委員会

整理責任者 平井 貴（文化課長）

村崎孝宏（課長補佐）

整理総括 岡本真也（主幹兼文化財調査第二係長）

整理事務局 松永隆則（課長補佐）、左座 守（主幹兼総務・文化係長）、

稲本尚子・天草英子（参事）、竹馬牧子（主事）

整理担当 尾崎潔久（文化財保護主事）、橋口冬美（臨時整理補助員）

整理作業（敬称略、五十音順）

嵐 英隆、井王直巖、石田敦子、伊藤智治、井上秀子、上野栄子、内田孝子、内村尚美、内山香織、笠置英一、河津洋伶、勘米良浩喜、木村ゆり子、近藤広子、笹原英子、重永照代、白木はる乃、園田智子、立石美代子、田中洋子、溜渕俊子、中尾規子、鍋田浩子、西田法子、橋本由美子、濱崎清子、原口美和子、平岡 賢、福島典子、府内博子、前田憲一郎、松原泰子、松本裕子、松本直枝、丸山 勉、山本邦子、吉岡直子、渡辺いわ子、渡邊 巧、

【調査指導及び協力者】（順不同、敬称略）

高木正文（元県文化課）、村崎孝宏・古城史雄・岡本真也・山下義満・亀田 学・宮崎敬士・池田朋生（熊本県教育庁教育総務局文化課）、馬場正弘（前県文化課、現菊池市立菊池南中学校主幹教諭）

第3節 調査の経過

1. 発掘調査

調査日誌より抜粋して以下に記す。

上南部遺跡

前年度調査終了 表土剥ぎ

平成27年6月4日 備品・機材搬入

7月2日 1区 遺構（S101・S102・S104）検出

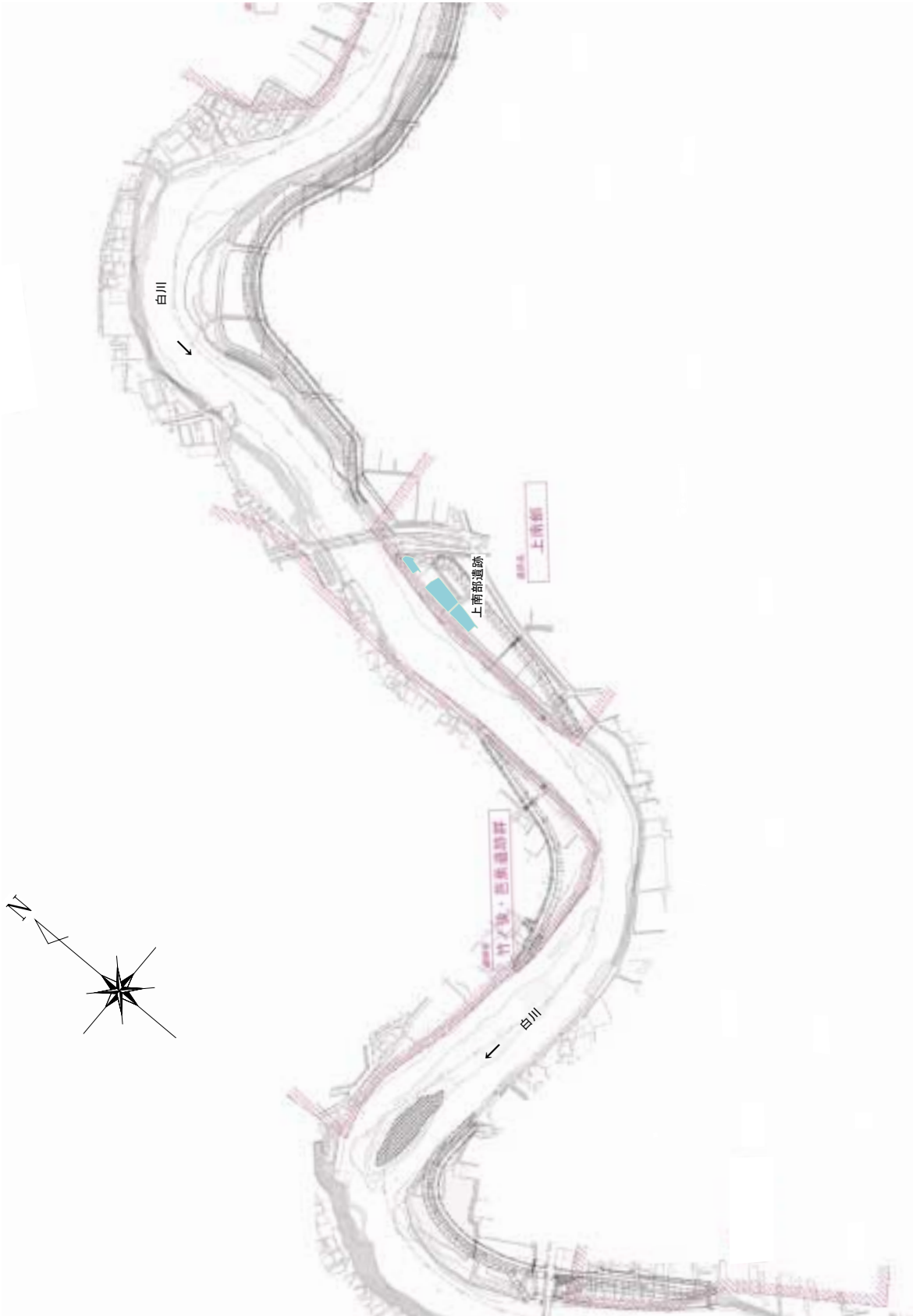
7月10日 1区 溝状遺構（S106） 2区 遺構（S207・S208・S209・S215）検出

7月15日 2区 遺構（S201・S202・S203・S205・S206）検出

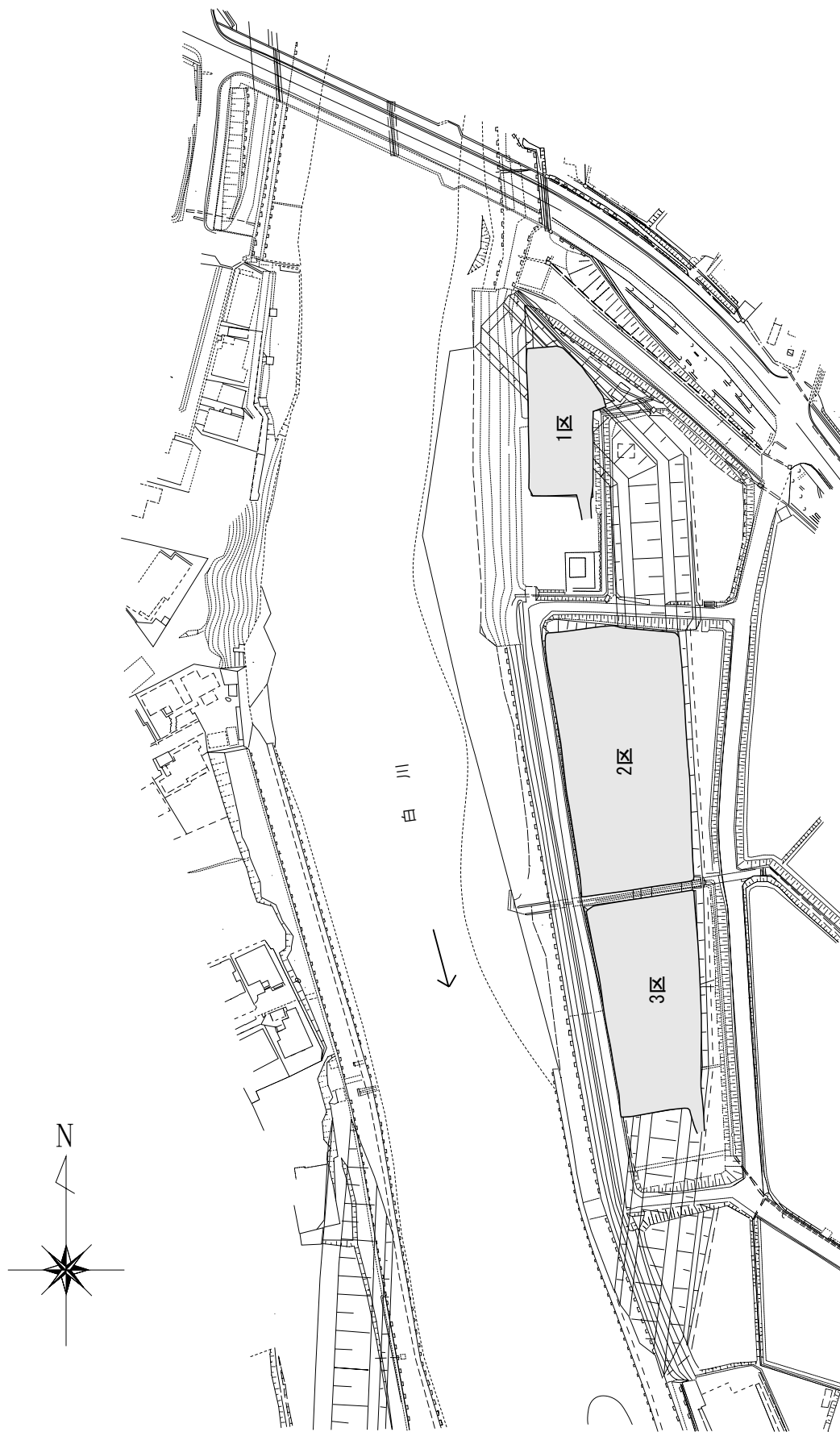
7月16日 1区 遺構（S113）検出

7月28日 遺構配置図作成

7月30日	3区 遺構 (S301) 検出
8月9日	現場公開 発掘体験実施
8月13日	3区 遺構 (S302) 検出
9月4日	3区 遺構 (S303・S304) 検出
9月14日	2区 遺構 (S201・S203・S204) 掘削
9月29日	3区 空中写真撮影 (九州航空)
10月2日	2区 遺構 (S210) 掘削
10月21日	2区 遺構 (S209) 検出
10月23日	高木正文氏視察
10月24日	現場公開
12月7日	1区 遺構 (S107・S110・S111・S113) 円形周溝 (S108) 2区 溝状遺構 (S214・S216・S217) 検出
12月8日	2区 遺構 (S218) 検出
12月9日	1区 溝状遺構 (S112) 2区 遺構 (S219・S220) 検出
12月24日	2区 遺構 (S222) 検出
平成28年1月20日	1区 空中写真撮影 (九州航空)
2月1日	2区 甕棺墓 (S228・S229) 甕棺出土 S228は、鉢×壺 を検出 S229は、石蓋×壺 を検出
2月3日	2区 甕棺墓 (S230) 甕棺検出
2月8日	甕棺掘り出し
2月18日	2区 空中写真撮影 (九州航空)
2月24日	現場撤収



第1図 白川河川激甚災害工事計画図



第2図 上南部遺跡発掘調査位置図 (縮尺：任意)

第Ⅱ章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

上南部遺跡は、熊本市の東部・白川中流域左岸に位置する。この白川は、阿蘇外輪山をその源として熊本平野を東から西へと流れる一級河川である。源から流れ始めた川は、いくつかの河川と合流しながら大小さまざまな蛇行を繰り返して有明海へと注いでいく。この白川流域の地質は、上流域で阿蘇の火山活動により形成された阿蘇溶岩を基盤とし、中流域では阿蘇-4火砕流堆積物が広く堆積している。これらの堆積物は、多くの河川に浸食され流されていく。その結果現在に至るまで、各地には火砕流台地や河岸段丘が、下流域には沖積地が形成されていった。

第2節 歴史的環境

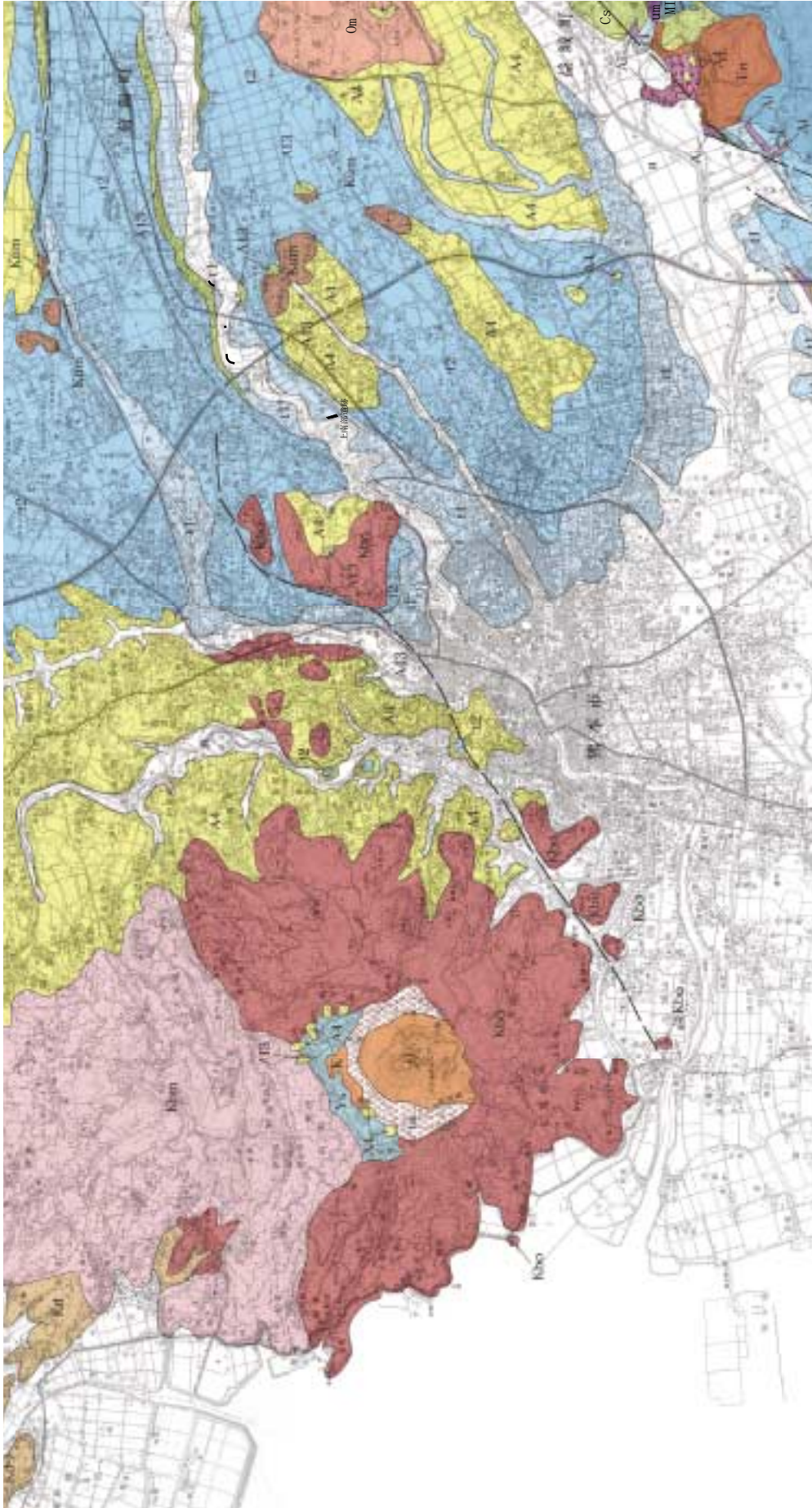
白川流域には、川の両岸に多くの遺跡が存在する。古くは、旧石器時代から人間が活動していた痕跡が確認されている。小山山の東麓に位置する平山石ノ本遺跡では良好な層の中から後期旧石器時代の遺物が豊富に出土している。また、新南部遺跡群からもナイフ形石器や細石刃核などが出土している。

縄文時代になると遺跡数は多くなる。一言に縄文時代といっても長い時間である。そのため、白川流域でも時期により粗密がある。縄文時代早期には、県内初の竪穴建物が確認された庵ノ前遺跡、集石遺構や炉穴を確認した平山石ノ本遺跡がある。縄文時代前期・中期になると、平山石ノ本遺跡、託麻弓削遺跡群、龍田陣内遺跡などがあるが、遺構の検出はなく、遺物が出土したにすぎない。縄文時代後期・晩期になると、その遺跡数はさらに多くなる。上南部遺跡では5軒の竪穴建物と7軒の疑似建物跡、16基の埋設土器が確認されている。竪穴建物の中には、円形で石組炉を持ち、柱も円形にめぐるのが確認されている。また、多量の手足を欠損した土偶も出土している。

弥生時代になると、大規模な集落遺跡が確認される。梅ノ木遺跡や六地藏遺跡が代表的なところで、多くの甕棺墓も検出されている。王田遺跡では弥生時代中期の甕棺が発見され、新南部遺跡や下南部遺跡でも同時代のものが出土している。また、竹ノ後・芭蕉遺跡群では甕棺墓を主とする墓域が確認されている。

古墳時代には、下南部遺跡、平山石ノ本遺跡、新南部遺跡群、龍田陣内遺跡等からは多くの竪穴建物跡が検出されている。上南部遺跡では方形の4本柱を中心とした竪穴建物が確認されている。また、白川右岸の崖面には多くの横穴墓がつくられ、今でもその姿を見ることができる。今石横穴群、弓削小坂横穴群、女瀬平横穴群、長薫寺横穴群、浦山第1・第2横穴群、つつじヶ丘横穴群などがある。立田山東南麓の丘陵斜面には長薫寺古墳や宇留毛神社古墳、立田山南麓古墳などの円墳もつくられていた。

歴史時代の集落も確認されている。新南部遺跡群、下南部遺跡群、神園田淵屋敷遺跡、吉原遺跡などがある。また、菊陽町に所在する楠ノ木遺跡では、掘立柱建物群が検出され倉庫や官衛の可能性が指摘されている。



【凡例】

- a : 沖積層 A4 : 阿蘇-4 火砕流堆積物 Kbo : 金峰火山古期噴出物 A13 : 阿蘇-1~3 火砕流堆積物 t1 : 低位段丘堆積物 t2 : 中位段丘堆積物 KI : 金峰火山新期堆積物 Ys : 芳野層
- ta : 崖錐堆積物 Kbm : 金峰火山中期噴出物 Kum : 熊本層群 Ai : 赤井火山 (低川溶岩) Om : 大峰火山 (高遊原溶岩) Mu : 御船層群上部層 MI : 御船層群下部層 cc : 結晶質チャート
- um : 超苦鉄質岩類 CS : 泥質岩・苦鉄質火山岩類 (結晶片岩類) (木山変成岩類)

■の範囲は調査地

第3図 熊本市周辺の地質図

熊本県地質図 (10万分の1) 説明書 (2008) より引用



第4図 白川関連遺跡周辺遺跡分布図 (S=1/50000)

表1 白川関連遺跡周辺遺跡一覧(1)

熊本県(43)熊本市(201)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	旧遺跡名	備考
335	梶尾遺跡群	梶尾町中尾原	弥生	包蔵地		甲佐大明神遺跡	弥生中期～後期の土器、大明神甕棺群
358	飛田遺跡群	飛田町塔の木など	縄文～古墳	包蔵地		楢山A～C遺跡・山室A遺跡・山室打出(山室地頭)屋敷遺跡山・八景水谷遺跡・八景水谷甕棺群・山室東屋敷阿弥陀堂墓碑	葉山古墳調査報告書あり
364	城ヶ辻城跡	四方寄町城ヶ辻	中世	城			貝塚あり、城主は西牟田常陸守
365	辻横穴群	四方寄町辻	古墳	古墳		飛田塔の木遺跡・飛田上ノ原遺跡・飛田葉山塚古墳	
366	竹の下横穴群	鶴羽田町竹の下	古墳	古墳			
367	鶴羽田かぶと塚古墳	鶴羽田町かぶと塚	古墳	古墳			円墳
368	鶴羽田(鶴ノ原・垣ノ外)	鶴羽田町	縄文～古墳	包蔵地			縄文後晩期土器、先端を失った銅戈工事中に出土
369	山際畑	鶴羽田町	縄文～中世	包蔵地			
370	羽田	鶴羽田町	古代・中世	包蔵地		飛田眼鏡橋	
371	てっぽう塚	北区清水新地		包蔵地			
372	麻生田	麻生田町	縄文～平安	包蔵地			
373	法王鶴	龍田町	縄文・弥生	包蔵地			
374	弓削前畑	龍田町弓削小坂屋敷	縄文～中世	包蔵地			
375	弓削小坂横穴群	龍田町弓削小坂屋敷	古墳	古墳			50基以上
376	弓削平ノ下A	龍田町弓削平の下	縄文～中世	包蔵地			
377	弓削平ノ下B	龍田町弓削平の下	縄文～中世	包蔵地			
378	片彦瀬	龍田町弓削片彦瀬	縄文	包蔵地			
379	楠	龍田町	縄文～中世	包蔵地			
380	楡木	清水町楡の木	縄文・弥生	包蔵地			縄文早・前・後・晩、甕棺群
381	堂ノ前遺跡群	清水町楡木・堂の前	旧石器～中世	包蔵地		堂の前遺跡・一丁霍遺跡	
382	壱町鶴	清水町楡木一町鶴	縄文～中世	包蔵地			
383	庵ノ前	清水町兎谷・上龍田	旧石器・弥生	包蔵地			早期住居跡2基・甕棺墓群、県報告書あり
384	岩倉山中腹	清水町兎谷	縄文～中世	包蔵地			
385	岩倉山山頂	清水町兎谷	縄文～中世	包蔵地			
386	岩倉山	清水町兎谷	旧石器～中世	包蔵地			
387	吉ノ平	龍田町上立田	縄文～中世	包蔵地			
388	竹ノ後・芭蕉遺跡群	竜田町上立田竹の後	縄文～平安	包蔵地		竹ノ後遺跡・竹ノ後甕棺群・芭蕉遺跡	竹の後縄文後期土器・合口甕棺・土偶
389	迫ノ上遺跡群	龍田町陣内など	縄文～平安	包蔵地		迫ノ上甕棺群・緑ヶ丘遺跡・緑ヶ山ノ神遺跡・堂ノ前屋敷遺跡・長蓮寺遺跡	堂の前遺跡は平安期か?
390	堂前島	龍田町	縄文～平安	包蔵地			
391	三の宮(牧鶴宮脇)	龍田町上立田	縄文	包蔵地			
392	牧鶴遺跡群	龍田町上立田	古墳	包蔵地		牧鶴古墳・西牧鶴箱式石棺群・中牧鶴箱式石棺群	
393	陳内上ノ園遺跡群	龍田町上立田	縄文～古墳	包蔵地		上ノ園A・B遺跡・竜田陳内館跡	御手洗A式、押型文、須玖式甕棺、方形周溝墓
394	竜田陳内遺跡群	龍田町陳内	旧石器～中世	包蔵地		竜田陳内遺跡・陳内宮の前遺跡	曾畑式土器、県報告あり
395	天拝山	清水町楡木	旧石器～弥生	包蔵地			石楡、須玖式甕棺群
396	万石茶山	清水町万石	縄文・弥生	包蔵地			夜臼式土器
397	秣野	龍田町上立田	縄文～平安	包蔵地			
398	九女グランド	黒髪町		包蔵地			
399	女瀬平横穴群	竜田町陣内女瀬平	古墳	古墳		長薫寺横穴群を含む	
400	竜田口	龍田町女瀬、黒髪7丁目	縄文～平安	包蔵地			
401	万石昭和団地前	清水町万石	縄文～中世	包蔵地			
402	清水町谷口遺跡群	清水町万石	旧石器～平安	包蔵地		万石遺跡	県調査あり
403	万石乗越	清水町万石	縄文～古代	包蔵地			
404	万石茶山古墳群	清水町万石	古墳	古墳			横穴式石室
405	立田山山頂	黒髪町	古墳～平安	包蔵地			
406	古閑前	清水町亀井	縄文～中世	包蔵地			旧石器
407	清水町遺跡群	清水町山室など	縄文～古墳	包蔵地			楢山甕棺群、山室甕棺・土師器、八景水谷縄文前後晩・甕棺
409	亀井遺跡群	清水町亀井	縄文～中世	包蔵地		亀井遺跡・亀井城跡・亀井金剛院跡・亀井松山墓地・亀井薬師堂前板碑	城は現光照寺内、板碑天文2年銘
431	徳王	徳王		包蔵地			
434	高平箱式石棺	清水町高平	古墳	埋葬		名義尾塚	
435	永浦遺跡群	清水町打越、永浦	古墳・中世	包蔵地		稲荷山古墳・白川学園石棺・永浦城跡・天福寺	
436	稲荷山古墳	清水町打越	古墳	古墳	県		円墳、装飾古墳、横穴式小口積石室
437	打越遺跡群	清水町打越	弥生・中世	包蔵地		打越城跡・打越甕棺遺跡	
441	打越貝塚	清水町打越	縄文	貝塚			北久根山式
442	松崎遺跡群	清水町松崎	弥生～平安	包蔵地		松崎甕棺遺跡・松崎中世遺跡・松崎葉山天神跡	

表2 白川関連遺跡周辺遺跡一覧(2)

熊本県(43) 熊本市(201)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	旧遺跡名	備考
443	松崎八幡箱式石棺	清水町松崎字上屋敷	古墳	埋葬		松崎石棺	
444	室園	清水町室園	縄文~中世	包蔵地			
588	立田山中腹	黒髪町	古代・中世	包蔵地			
589	宇留毛浦山市営墓地	黒髪町7丁目	縄文~平安	墓地			
590	浦山第2横穴群	黒髪7丁目浦山	古墳	古墳	県		
591	浦山横穴群	黒髪7丁目浦山	古墳	古墳	県		18基
592	黒髪町立下立遺跡群	黒髪町	古墳~江戸	包蔵地		白石古墳・白石遺跡・立田南中腹遺跡・城床古墳群・豊国廟跡	
593	熊本藩主細川家墓所(泰勝寺跡)	黒髪4丁目	江戸	寺社	国	泰勝寺墓地古塔碑群・六地藏	細川家霊廟は国指定の史跡、寺跡を含む庭園は県指定
595	小峰	黒髪町小峰	縄文~平安	包蔵地		金光山無相寺跡	
597	黒髪町遺跡群	黒髪町坪井	縄文~中世	包蔵地		黒髪町遺跡(済々養高校敷地)・九州女学院遺跡・坪井古屋敷出土の甕棺	一帯に甕棺墓群
598	旧第五高等学校本館	黒髪2丁目	明治	建造物	国		国指定重要文化財、イギリスのフィン・アン様式
602	七軒町	七軒町	縄文~中世	包蔵地			
603	子飼	子飼町	縄文~中世	包蔵地			
604	桜山中学校校庭	黒髪町5丁目	古墳~平安	包蔵地		下立田一里木	
605	長薫寺古墳	黒髪町7丁目	古墳	古墳			円墳横穴式石室
606	宇留毛小積橋際横穴群	黒髪町7丁目	古墳	古墳			
607	つつじヶ丘横穴群	黒髪町7丁目	古墳	古墳	県		
608	宇留毛神社周辺遺跡群	黒髪町6・8丁目	古墳・中世	包蔵地		宇留毛神社境内古墳群・立田山南古墳(上・下)・宇留毛浦山火葬墓・立田山城跡	立田山南麓古墳円墳2基横穴式石室
609	カプト山	黒髪町宇留毛字甲山	縄文	包蔵地			早期、轟B、北久根山、黒川、山の寺
610	宇留毛A	黒髪町6丁目	縄文	包蔵地			
611	宇留毛B	黒髪町6丁目	縄文~平安	包蔵地			
643	渡鹿遺跡群	渡鹿5丁目	縄文・弥生	包蔵地		渡鹿貝塚・北原甕棺遺跡	渡鹿貝塚阿高・鐘ヶ崎式、北原須玖式甕棺、板碑祝迦像天文16年銘
644	渡鹿菅原神社境内	渡鹿6丁目		寺社	市		市指定史跡
645	辻	渡鹿7丁目	縄文~平安	包蔵地			縄文後晩期、へら描き土器・墨書土器
646	大江白川	大江1丁目	縄文~平安	包蔵地		旧往生院跡・善行寺の板碑・放牛地藏	甕棺
647	新屋敷	新屋敷町	弥生~中世	包蔵地			弥生環濠、弥生前期土器、輸入陶磁器
648	大江遺跡群	大江3丁目	縄文~明治	包蔵地		大江遺跡・大江青葉遺跡・大江東原遺跡・白川中学校校庭遺跡・渡鹿旧電波高校遺跡・熊高敷地遺跡・熊高通り遺跡・杉ノ本遺跡・託麻郡家推定地・渡鹿廃寺・熊本英学校跡・建設会館遺跡他	
654	保田窪東一本松		縄文~平安	包蔵地			
656	帯山遺跡群	帯山1丁目	縄文~平安	包蔵地		帯山遺跡・保田窪遺跡	布目瓦、曾畑、阿高、竹崎
657	南平上	新大江3丁目南平上	奈良・平安	包蔵地			
677	託麻弓削遺跡群	弓削町	縄文	包蔵地		弓削上古閑遺跡・弓削宮原遺跡	縄文前期・後期・晩期
678	鹿帰瀬	鹿帰瀬町西原	縄文・弥生	包蔵地		鹿帰瀬河原遺跡	県調査あり
679	弓削廃寺跡	龍田町弓削	中世	寺社			
680	吉原	吉原町殿田	縄文~平安	包蔵地			縄文後晩期(南福寺・中津)、弥生後期、奈良平安在銘土器
681	石原町	石原町	縄~中世	包蔵地			
682	山尻遺跡群	龍田町弓削山尻	弥生	包蔵地		山尻遺跡・石原亀ノ甲遺跡・下南部地藏墓碑	弥生時代を中心とした大集落
683	石原瀬々井	石原町瀬々井	縄文	包蔵地			縄文晩期
684	北上遺跡群	石原町平	縄文・古代	包蔵地		北上遺跡・北上B遺跡	縄文晩期土器、布目瓦
685	上南部	上南部町村下	縄文	包蔵地			縄文前期・後期・晩期・後晩期集落発掘調査、市報告書あり
686	供合松ノ上	上南部町	縄文~中世	包蔵地			
687	神園	長嶺町上西原	縄文~平安	包蔵地			
688	神園桜井	長嶺町	縄文~中世	包蔵地			
689	神園山西麓	長嶺町下の山	古代	包蔵地			
690	神園山城跡	長嶺町下の山	中世	城			
691	平山居屋敷	平山町	古代・中世	包蔵地			
692	平山石ノ木	平山町	旧石器~縄文	集落			国体会場、県調査報告書あり
693	御船塚東	平山町	縄文~古代	包蔵地			
694	神園田淵屋敷	小山町、長嶺町	平安・中世	包蔵地		太神宮碑・田川観世音寺跡	
695	神園山遺跡群	長嶺町、小山町	奈良・平安	包蔵地		神園山窯跡群・中山窯跡群・西福寺跡・西福寺墓地・花園元禄(14年)板碑	
696	正平塔(石燈籠)	小山町	中世	石造物	市		諏訪神社、正平12年銘、凝灰岩製、石工藤原助次
697	小山城跡	小山町	中世	城			

表3 白川関連遺跡周辺遺跡一覧(3)

熊本県(43)熊本市(201)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	旧遺跡名	備考
698	小山上の山	小山町	縄文~中世	包蔵地			
699	御船塚山	平山町	縄文~古代	包蔵地			
700	中原道明	小山町	縄文	包蔵地			縄文早期、後晩期
701	御船塚	小山町御船塚	縄文・中世	包蔵地			
702	小山上	小山町	弥生	包蔵地			
703	椋谷寺瓦窯跡群(小山瓦窯跡群)	小山町	奈良・平安	生産			
704	中山	小山町	縄文~平安	包蔵地			
705	小山上伏塚	小山町	弥生	墳墓		馬場氏裏山板碑	甕棺墓、銅剣出土
706	長嶺遺跡群	長嶺町	縄文~平安	包蔵地		長嶺遺跡・中山叶遺跡・中山五輪塔遺跡(若殿塚遺跡)・馬場居屋敷遺跡・長嶺南遺跡・坂田長者屋敷跡・長嶺石碑・坂田家墓地	石神碑天文18年銘
707	王田	上南部町王田	縄文~平安	包蔵地			黒髪式合口甕棺
708	平ノ山	上南部町		包蔵地			
709	下南部	下南部町下山	縄文~古墳	包蔵地			須玖式甕棺
710	北小迫	御領町		包蔵地			
711	南小迫	御領町	縄文~平安	包蔵地			
712	長嶺南	長嶺町南居屋敷	弥生・中世	包蔵地		長嶺広福寺跡・長嶺南遺跡・長嶺共有墓地	須玖式甕棺、寛文・延宝・元禄・正徳の記念碑銘
713	長嶺油出	長嶺町		包蔵地			
714	上黒迫(二岡中学校校庭)	戸島町	縄文・中世	包蔵地			
715	戸島東	戸島町日向	縄文	包蔵地			
716	戸島経塚跡	戸島町日向	縄文・中世	包蔵地			経塚一字一石埋納
717	戸島北向(戸島西)	戸島町	縄文・中世	包蔵地		札の辻遺跡・戸島香福寺跡・戸島神社境内古塔碑群	
718	戸島京塚	戸島町	縄文~中世	包蔵地			
719	戸島桑鶴	戸島町	縄文~平安	包蔵地			
720	下佐土原	戸島町	縄文~平安	包蔵地			
721	葉山遺跡群	戸島町葉山	旧石器・縄文	包蔵地		葉山遺跡・葉山B遺跡・日向下六地蔵	
723	八反田遺跡群	長嶺町八反田	縄文・中世	包蔵地		殿山古墳参考地	縄文後晩期、土偶
724	八反田居屋敷	長嶺町		包蔵地			
725	松の窪			包蔵地			
726	新南部遺跡群	新南部町	旧石器~平安	包蔵地		新南部A~D遺跡・北久根山遺跡・西谷遺跡・小関原遺跡・小関小松山甕棺遺跡・新南部三石遺跡	県北バイパス調査、市マンション調査、田辺昭三調査などあり
727	市営託麻団地	新南部託麻団地	縄文	包蔵地			押型文、御領式
728	乾原・迎八反田	長嶺町乾原・迎八反田	縄文~平安	包蔵地		乾原迎・八反田遺跡・田の迎遺跡	乾原縄文後晩期中心、迎八反田縄文早期中心
730	西原	新南部	縄文	包蔵地			押型文
731	新南部西原	新南部町	縄文~平安	集落		保田窪地蔵碑	
732	日向棧敷尾(日向)	戸島町日向	縄文	包蔵地		日向遺跡	
733	小嶺	健軍町小峰	縄文~平安	包蔵地			
734	新外B	健軍町小峰	縄文~平安	包蔵地			
924	中江	中江町		包蔵地			
929	南原	西原		包蔵地			

熊本県(43)菊陽町(404)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	旧遺跡名	備考
002	新山	津久礼 新山	弥生~古代	包蔵地			
003	上沖野	原水 上沖野	縄文	包蔵地			
004	駄飼代	津久礼 駄飼代	縄文	包蔵地			
005	久保田下原	久保田 下原	弥生~平安	包蔵地			
006	久保田中原	久保田 中原	縄文・弥生	包蔵地			
007	久保田出分上原	久保田 上原	古墳	包蔵地			土師器
013	原水南上原	原水 上原	縄文~中世	包蔵地			
014	今石	津久礼 今石	縄文~中世	包蔵地			
015	津久礼今石城跡	津久礼 今石	中世	城	町		
016	津久礼六地蔵	津久礼 梅木	縄文・弥生	石造物	町		
017	井口下鶴	辛川 下鶴	縄文・弥生	包蔵地			
018	久保	辛川 久保	縄文・弥生	包蔵地			
019	梅ノ木	津久礼 梅の木	弥生	包蔵地			
020	今石横穴群	津久礼 今石	古墳	古墳	町		9基
021	上山立窪	辛川 上山立窪	縄文	包蔵地			
022	中屋敷	辛川 中屋敷	縄文	包蔵地			
023	東弁指	辛川 東弁指	縄文	包蔵地			
024	池ノ窪	辛川 池ノ窪	縄文	包蔵地			
025	辛川東原	辛川 東原ほか	縄文・古墳	包蔵地			
026	曲手中原	曲手 中原	縄文~古代	包蔵地			

表4 白川関連遺跡周辺遺跡一覧(4)

熊本県 (43) 菊陽町 (404)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	旧遺跡名	備考
027	狸坂ABC	曲手 部田	縄文	包蔵地			縄文後期遺物散布
028	津留	久保田 津留	古代	包蔵地			段丘湧泉地・土師器・須恵器
029	馬場楠井手の鼻線り	曲手 西鶴	近世	建造物	町		
030	川久保	久保田 川久保	弥生	包蔵地			
032	六道塚古墳	辛川 塚原	古墳	古墳	町		畑中石材露出する、墳形不明
033	塚原	辛川 塚原	縄文~古墳	包蔵地			
034	南郷往還跡	辛川 桃尾	近世	交通	町		
035	お茶屋の井戸	辛川 下中原	近世	井泉			
036	道明の石畳道路	道明	近世	建造物			
037	広街道	津久礼	縄文早期	包蔵地			
043	山ノ上	戸次	縄文	包蔵地			
044	部田	曲手 部田	縄文	包蔵地			縄文後期
045	上中原	辛川	縄文	包蔵地			縄文後期
046	下石ヶ迫	辛川	旧石器	包蔵地			
047	西鶴	曲手	縄文・弥生	包蔵地			
052	杉ノ本	津久礼	縄文	包蔵地			
059	妙見	辛川 妙見	弥生・中世	包蔵地			
060	居屋敷	曲手 居屋敷	弥生	包蔵地			

熊本県 (43) 合志市 (旧西合志) (407)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	旧遺跡名	備考
063	宿の山(須屋)	須屋 宿の山	弥生	埋葬			弥生合口甕棺・土師器片一括
064	梨の木	須屋 梨の木	縄文	包蔵地			
065	向島	須屋 向島	縄文	包蔵地			
066	須屋城跡	須屋 城跡	中世	城			中世城跡
070	船入	須屋	中世	包蔵地			

熊本県 (43) 益城町 (443)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	旧遺跡名	備考
001	小久保	上小久保 下小久保	縄文~中世	包蔵地			
002	宮園B	木山 遠見塚ほか	縄文・弥生	包蔵地			縄文~、弥生中期土器
003	遠見塚	木山 遠見塚	縄文~古代	包蔵地			
004	八久保	八久保	古墳・古代	包蔵地			
005	上面ノ原	田原 上面ノ原	縄文~中世	包蔵地			
006	上石岸原	田原 上石岸原	縄文~中世	包蔵地			
035	迫田横穴群	寺中 上陣内	古墳	古墳			益城町史に名称あり
066	寺中	寺中	縄文~平安	包蔵地			

第三章 上南部遺跡の調査

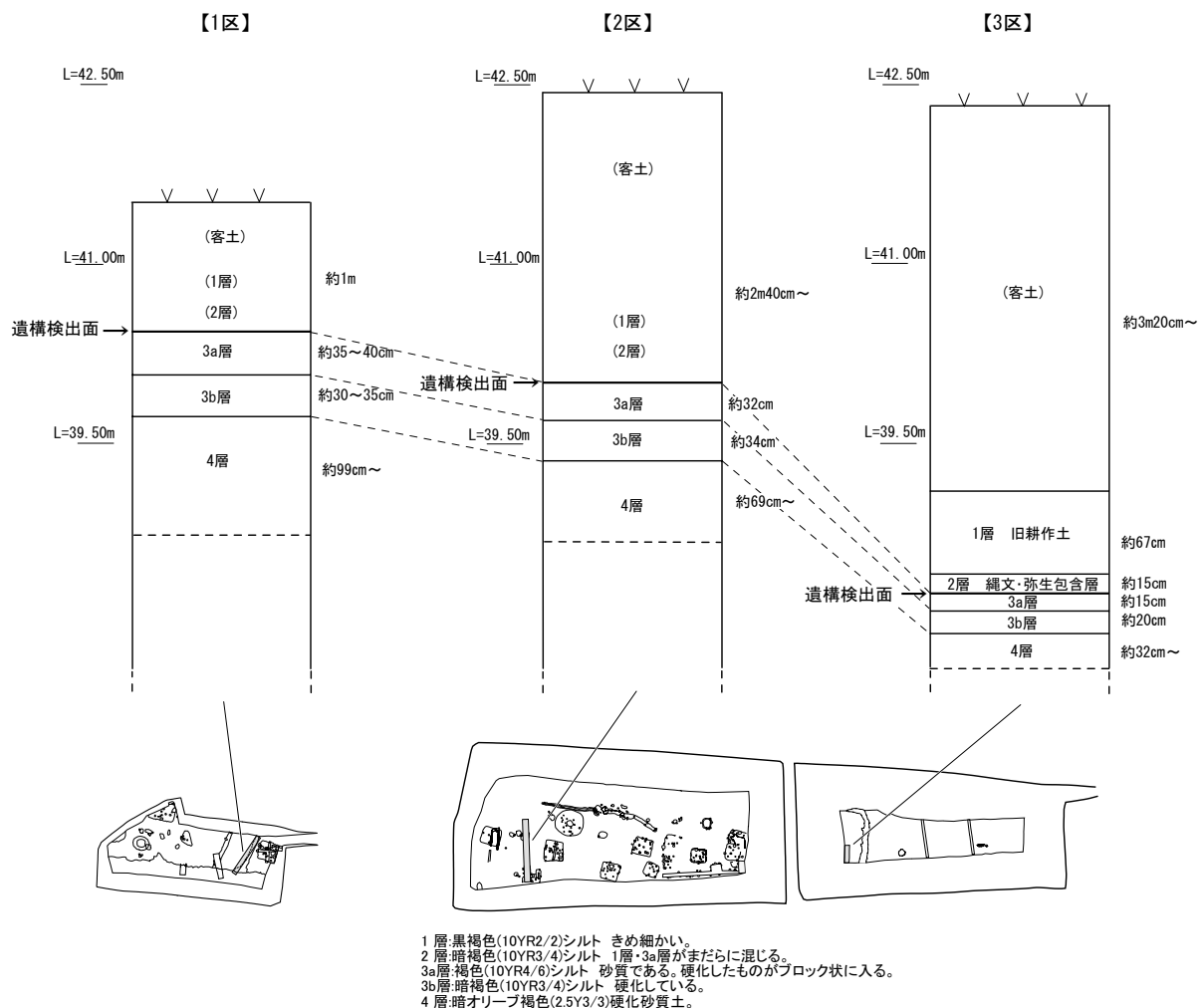
第1節 調査の概要

今回の調査区は、確認調査の結果に基づき設定した。白川左岸に並行する形で、上流側から1区、2区、3区という順序で調査区を設定した。総面積は約4714㎡で、1区約718㎡、2区約2436㎡、3区約1560㎡となる。調査対象外となる客土と1・2層は、重機を用いて除去し、その後10m×10mのメッシュを設定し、西から東にアルファベットでAからEまで、北から南にアラビア数字で1から21をふり、その組み合わせでグリッド名を付けた。調査の便宜上、3区から調査を開始し1区、2区へと進めていった。

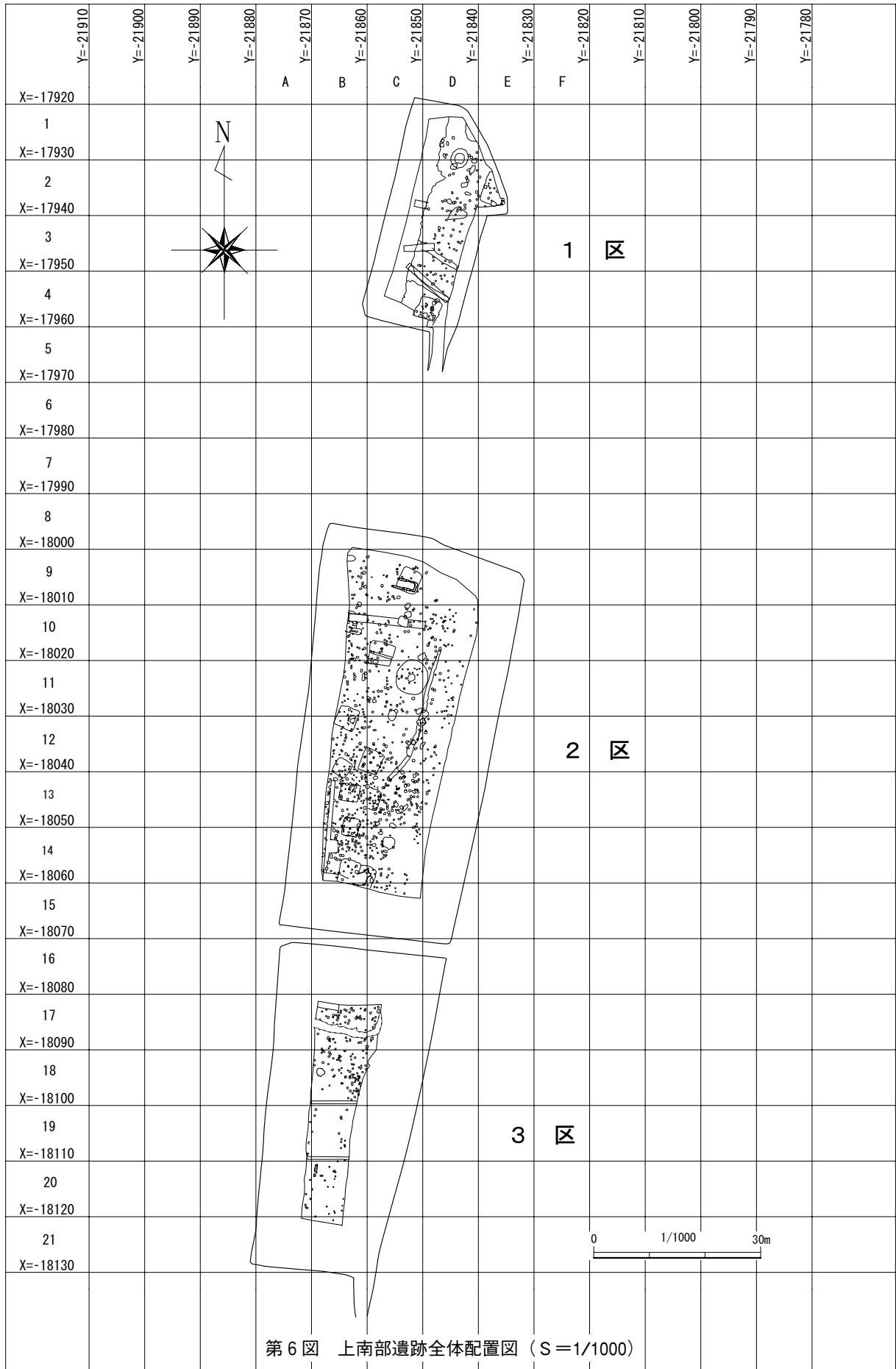
調査は人力掘削を主とし、遺構検出後は、土層観察用のベルトを残し掘り下げ、土層断面実測後にベルトをはずし、遺構実測、写真撮影等の記録を行った。空中写真撮影はヘリで撮影を行った。遺物の取り上げは、遺構に伴うものは遺構名と埋土を記し、遺構に伴わないものは出土グリッド名と出土層を記し取り上げた。特に重要と判断した遺物については、出土位置を記録し、写真撮影を行った後に取り上げた。

第2節 層序

上南部遺跡の基本土層は、3調査区でほぼ同じであった。若干の違いはあったものの、分層するまでの大きな違いではないと判断した。



第5図 上南部遺跡 調査区基本土層柱状図



第6図 上南部遺跡全体配置図 (S=1/1000)

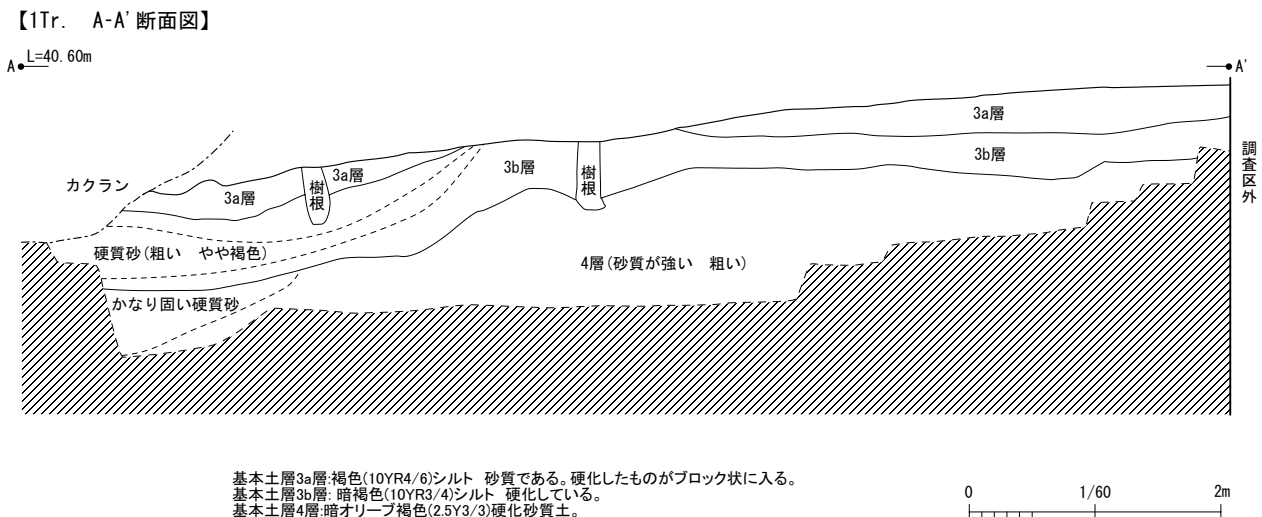
最上層は客土で、3区においては約3m20cm程の厚さとなる。1層はきめ細かい土ではあったが旧耕作土のようである。2層は1層と3a層の混じる土で、縄文土器・弥生土器を含む包含層であった。3層は、基本となる土は同じだが硬質砂層の混入に違いがあったため2つに細分した。硬質砂層を若干含む層を3a層、ブロック状に多く含む層を3b層とした。本調査の遺構検出面は3層上面である。基本的には3a層での検出であったが、場所によっては3a層がなく、3b層での検出となったところもある。4層は硬質砂層である。調査の最後に、1区と2区にトレンチを設定し、4層を掘りぬこうと考えたが、人力では掘りぬくことができないほど厚く堆積しており、1区では4層を99cm程掘り下げた時点で断念した。4層は、調査区により色調やしまりに違いがあり、深い位置になるとブロック的に砂や粘土が混じる。

第3節 1区の調査成果

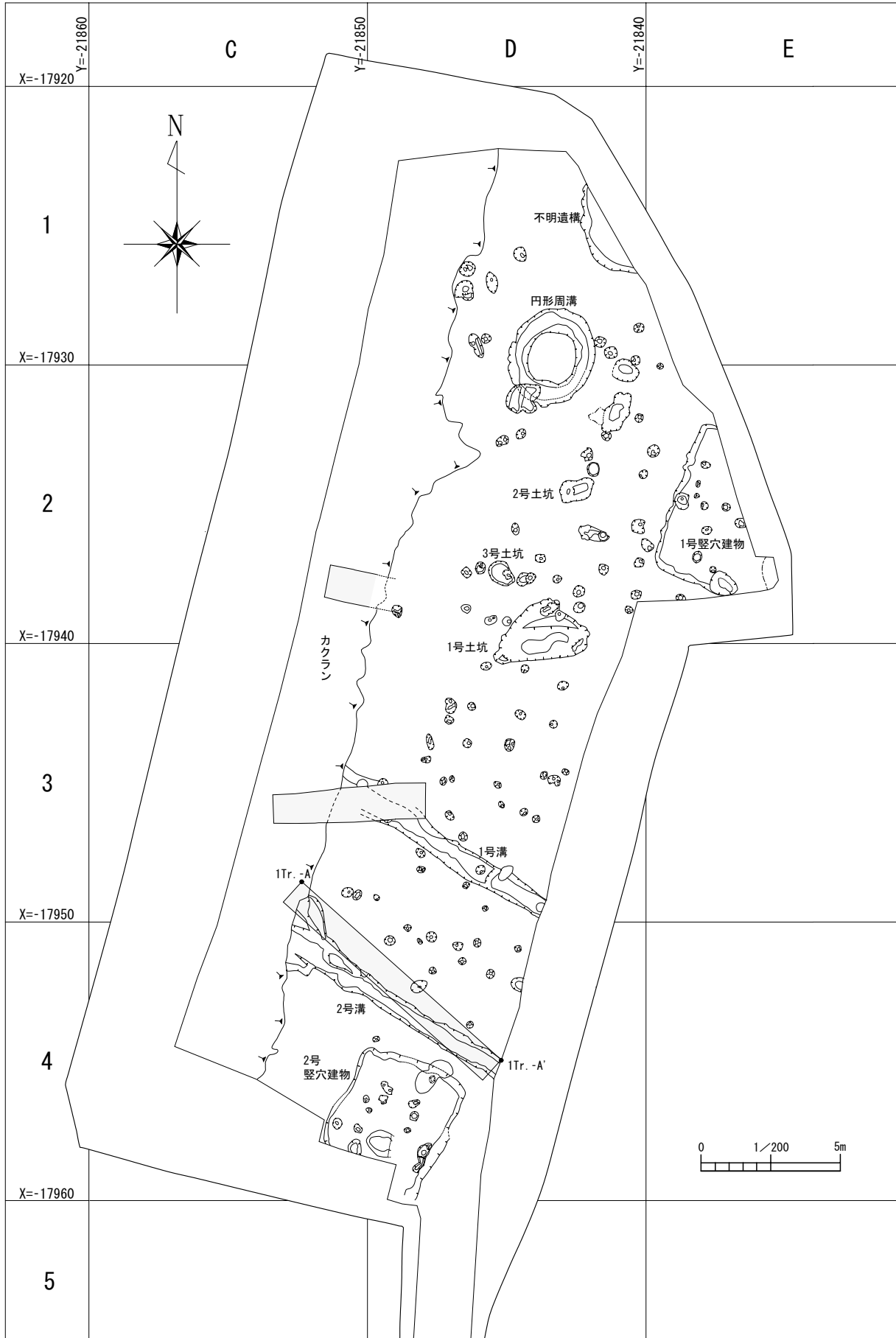
1区は、今回の調査区の中で一番北側に位置し、面積は約718m²である。調査区は、東から西へと傾斜しており3a層が広がるが、西側の低いところでは3a層がうすく、3b層が見られる場所もあった。また、調査区内西側の幅1.5m程はカクランにより破壊され、全く遺構を検出することができなかった。第8図の通り調査1区では、竪穴建物2軒、円形周溝1条、溝状遺構2条、土坑3基、不明遺構1基、多数のピットを検出した。ピットを多く検出したが、柱痕跡を確認できるものや、位置関係から掘立柱建物や柵状遺構となるようなものは確認できなかった。

遺物の出土は、調査区全体で量が少なく、そのほとんどが小破片であった。そのため、器種や時期を判断できるものは限られていた。本報告では、その中から器種や時期を判断でき、図化可能な遺物のみを選定し掲載している。

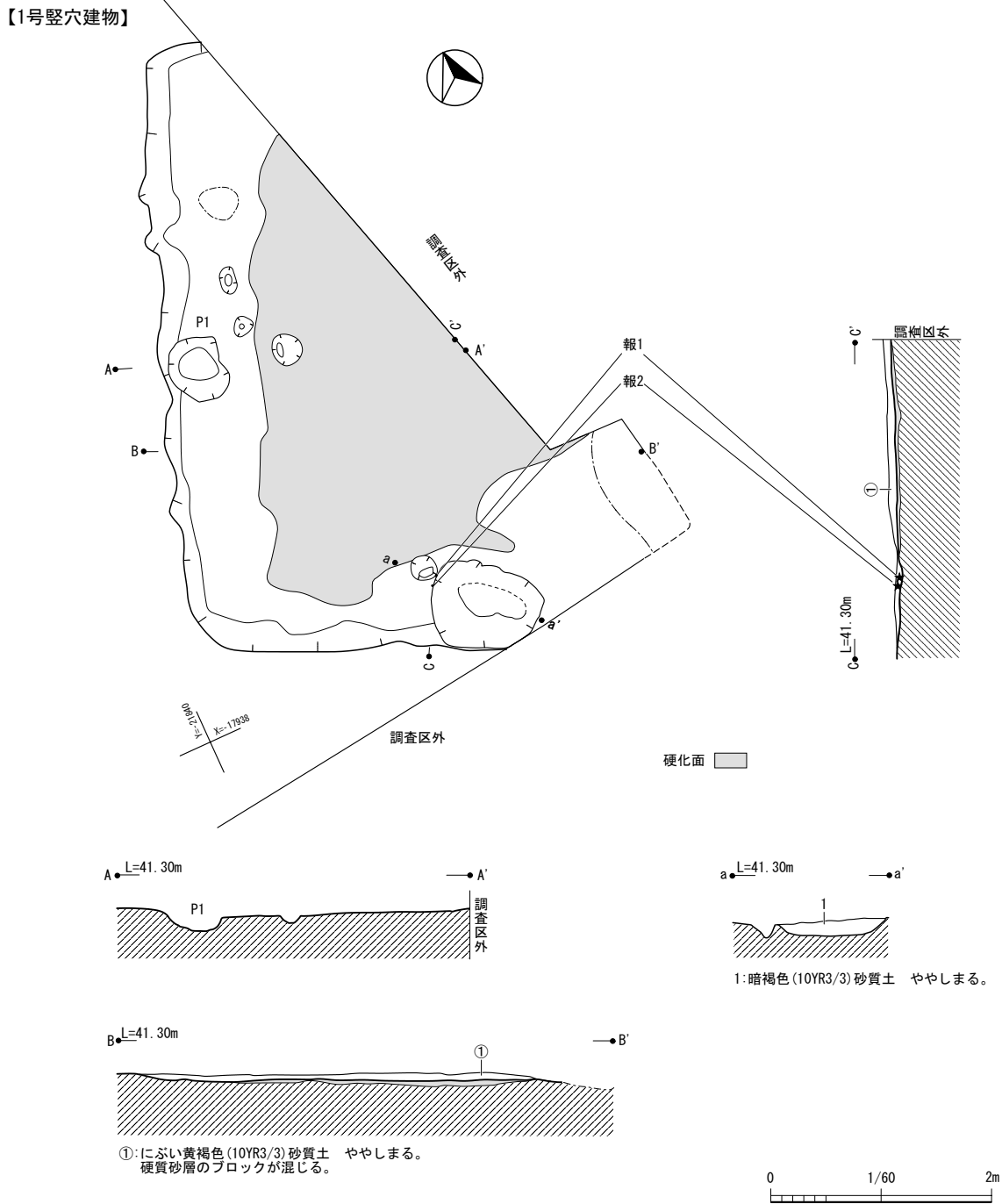
第7図を見ると、東西方向は、1区東壁から調査区中央までは水平に堆積しているが、西側になるにつれて川に向かって傾斜する。これは、3a層から4層まで同様の傾向がみられるため、旧地形も同様に傾斜していたと思われる。



第7図 1区 1Tr. 断面図



第8図 上南部遺跡1区遺構配置図及びグリッド図 (S=1/200)



第9図 1号竖穴建物(S107)実測図

竖穴建物

1号竖穴建物【S107】(第9・10図、図版1・2・19)

1区の北東側E-2グリッドに位置する竖穴建物である。東側は調査区外に延びる。長軸約5.49m、短軸約4.33m以上(調査区外に延びる)、深さ約0.11mで、平面形の形状は方形と推定する。調査区北東端で検出したため全容がつかめなかったが、建物全体の3分の1ほどを確認できたかと思われる。建物の壁とのバランスやピットの土層断面からP1を柱穴と判断し、2本柱の1本と想定した。対となる柱穴は確認できなかったが、調査区外に対となるものがあると考えた。硬化面は確認できたが、炉は確認できず、焼土や炭化物の混入などの痕跡も見つけられなかった。貯蔵穴は竖穴建物の南東側に壁を掘り込んだような状態で確認した。

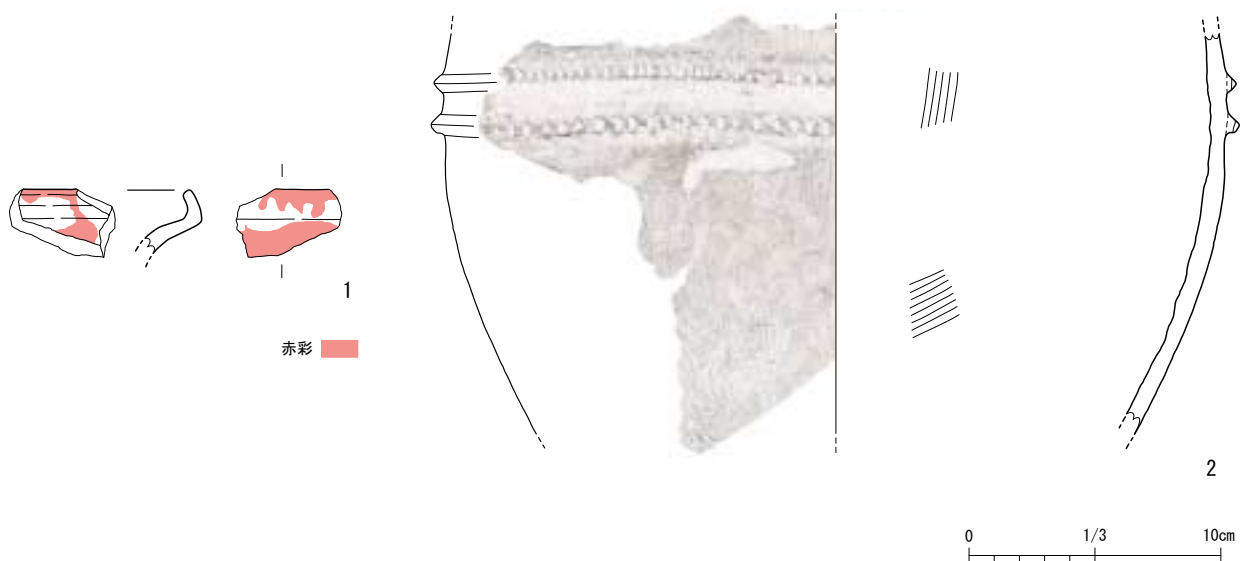
竪穴建物の埋土から出土した遺物は、ほとんどが弥生土器であり、わずかに縄文土器も混在した状態であった。また床面上からの出土遺物は弥生土器であった。このような遺物の出土状況から、縄文土器は流れ込みと判断した。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代後期の可能性がある。

出土遺物（遺物番号）1・2は弥生土器である。1は内外面に赤彩が見られる壺の口縁部で、鍵状に屈曲している。弥生時代後期のものと思われる。2は最大胴径となる位置に2条の刻目突帯を持つ壺の胴部である。その他被熱を受けた5cm程のボール状の石が出土しているが、加工痕や使用痕などは確認できなかった。写真図版のみ掲載している。

2号竪穴建物【S113】（第11・12図、図版2・19）

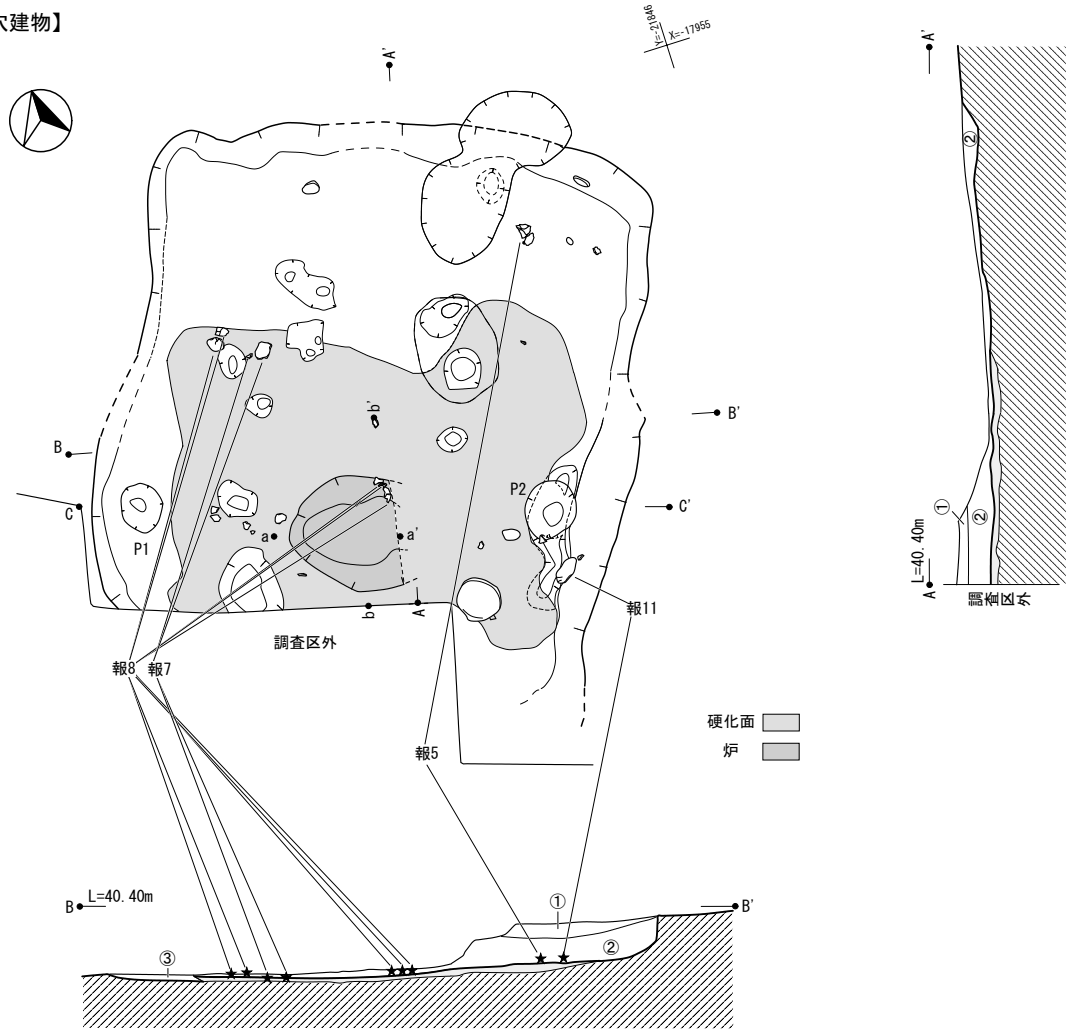
1区の南東側C-4・D-4グリッドに位置する竪穴建物である。南側は調査区外に延びる。長軸約4.11m以上（調査区外に延びる）、短軸約4.07m、深さ約0.42mで、平面形の形状は方形と推定する。この竪穴建物は、硬化面も明確で炉も確認でき、柱穴はP1とP2の2本柱を想定した。西側部分は硬化面に到達する深さまでカクランにより削平されていた。南側は調査区外になるため、少し調査区を拡張し竪穴建物の全容を把握しようとしたが、南側の立ち上がりはカクランを受けており確認することができなかった。硬化面は、調査区南壁付近になると硬質砂層を利用していたようである。遺物は、他の遺構に比べ多く、埋土からは、弥生土器や石包丁などが出土している。南東側床面の直上に被熱を受けた石（11）が出土し、その下には硬化面はなかった。竪穴建物の時期は、形態や遺物から弥生時代後期の可能性がある。

出土遺物（遺物番号）3～9は弥生土器である。3～5は甕の口縁部である。5は「く」の字形に大きく外反し、頸部の屈曲も弱く最大胴径は下気味になる。弥生時代後期のものと思われる。6は甕の胴部であろう。7は最大胴径の位置に刻目突帯1条を持つ壺の胴部で、突帯の下にはススが顕著に付着している。8は壺の口縁～胴部で、口縁部は打ち欠きと思われる。9は甕の脚部である。弥生時代後期のものと思われる。10は石包丁で残存状況が悪く、穿孔部分は確認できなかった。11は表裏の全体に被熱を受けた石である。側面には直径2.5cmほどの磨面がみられる。また、台石も出土しているが写真図版のみ掲載している。

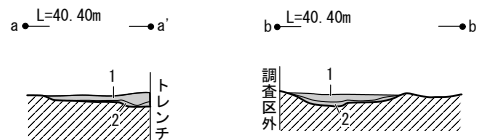
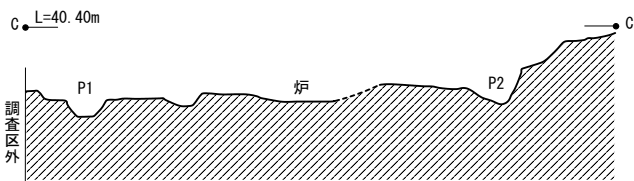


第10図 1号竪穴建物(S107)出土遺物実測図

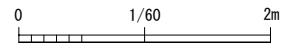
【2号竪穴建物】



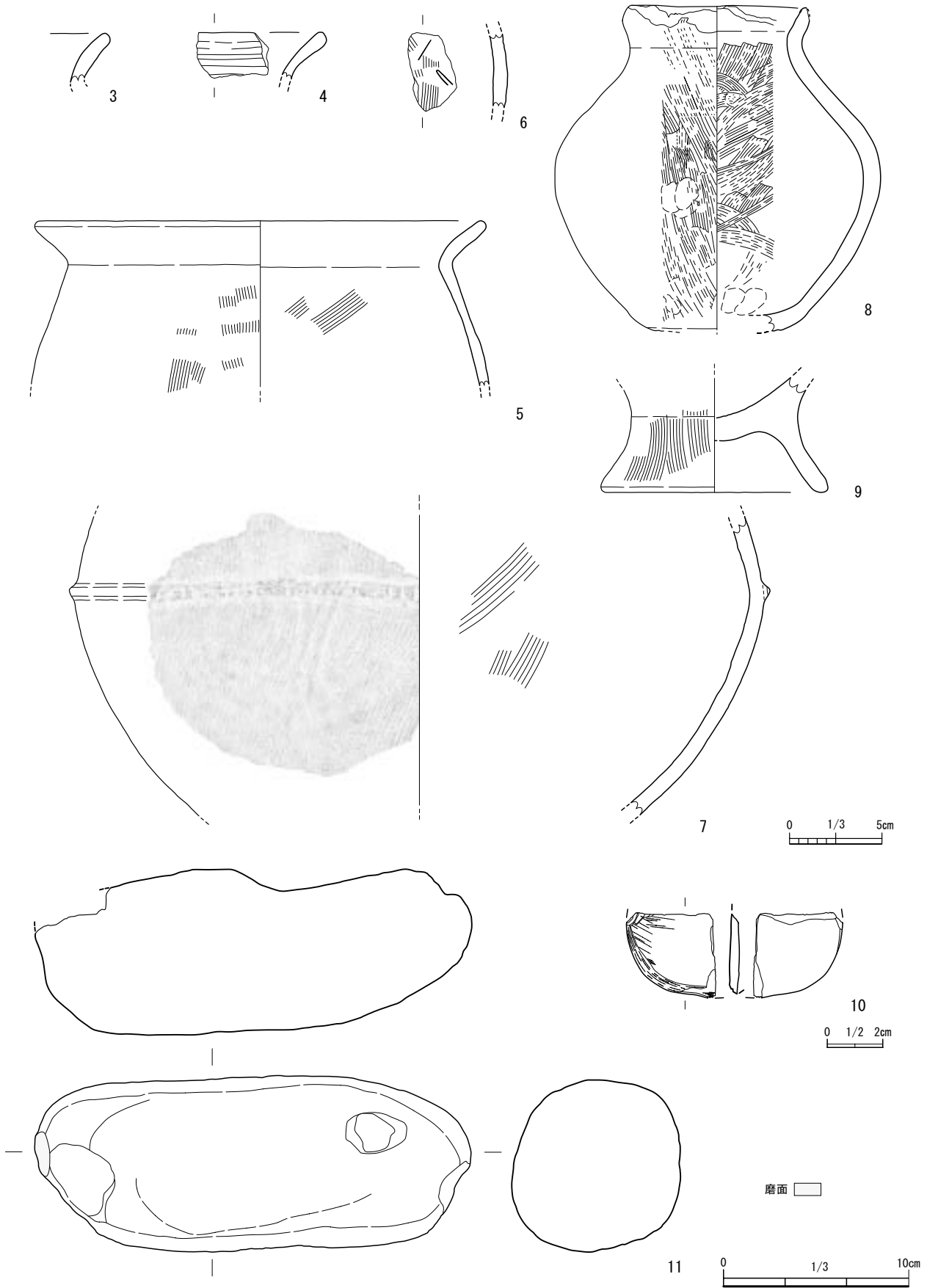
- ①: 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性なし。しまりややあり。黒褐色と褐色のブロックが混じるような土。やや明るい印象の土。客土が混入する為か？
- ②: 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性なし。しまりややあり。焼土、カーボンの小粒子を多く含む。遺物もこの層から出土する。黒褐色のブロックをボツボツと含む。
- ③: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性なし。しまりなし。砂質が強く、硬質砂を多く含む。



- 1: 黒色土 (10YR2/1) 粘性なし。しまりあり。焼土とカーボンの小粒子を多く含む。硬質砂の大きなブロックを少量含む。
- 2: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性なし。しまりなし。砂質が強い。カーボンが1より少ないが混入する。

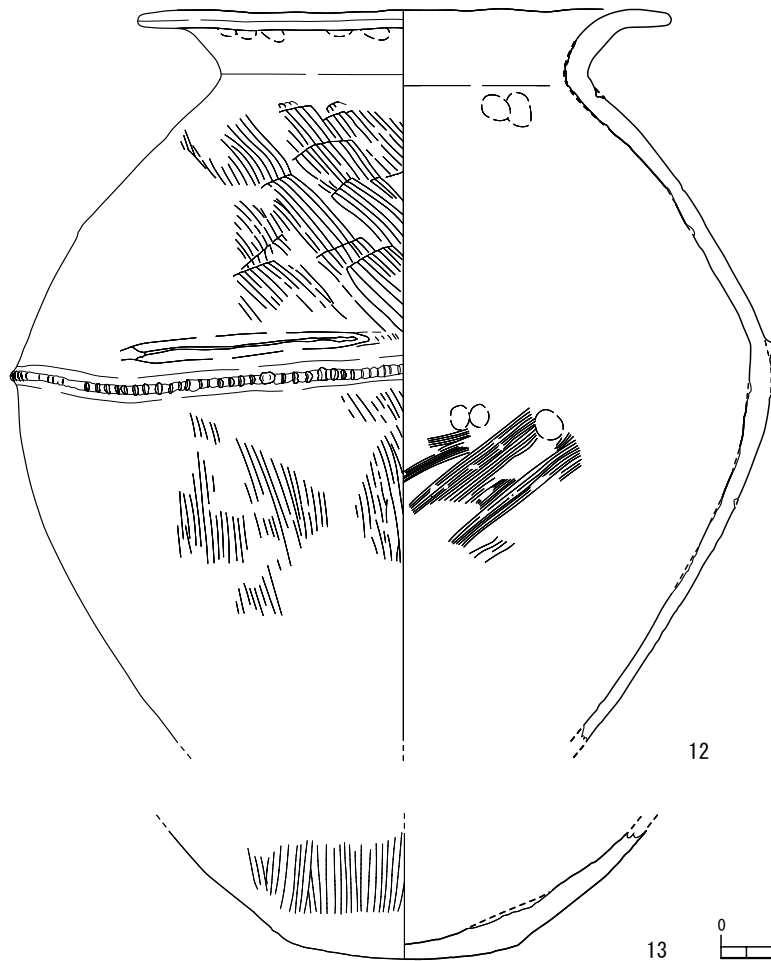
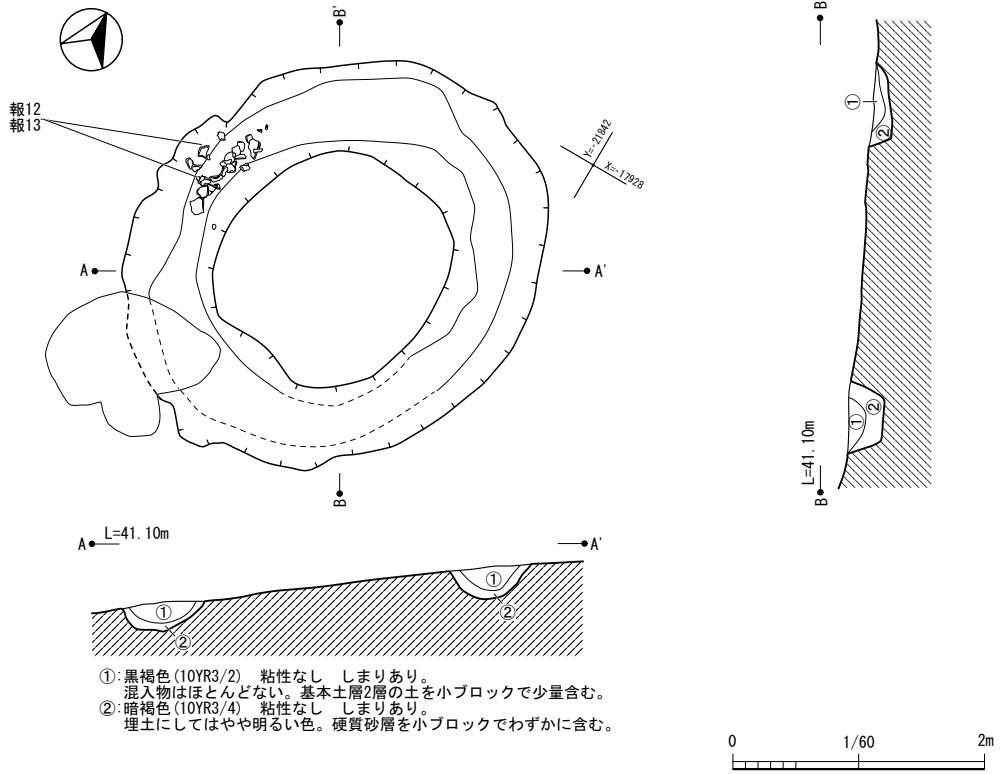


第11図 2号竪穴建物(S113)実測図



第12図 2号竖穴建物(S113)出土遺物実測図

【円形周溝】



第13図 円形周溝 (S108) 実測図及び出土遺物実測図

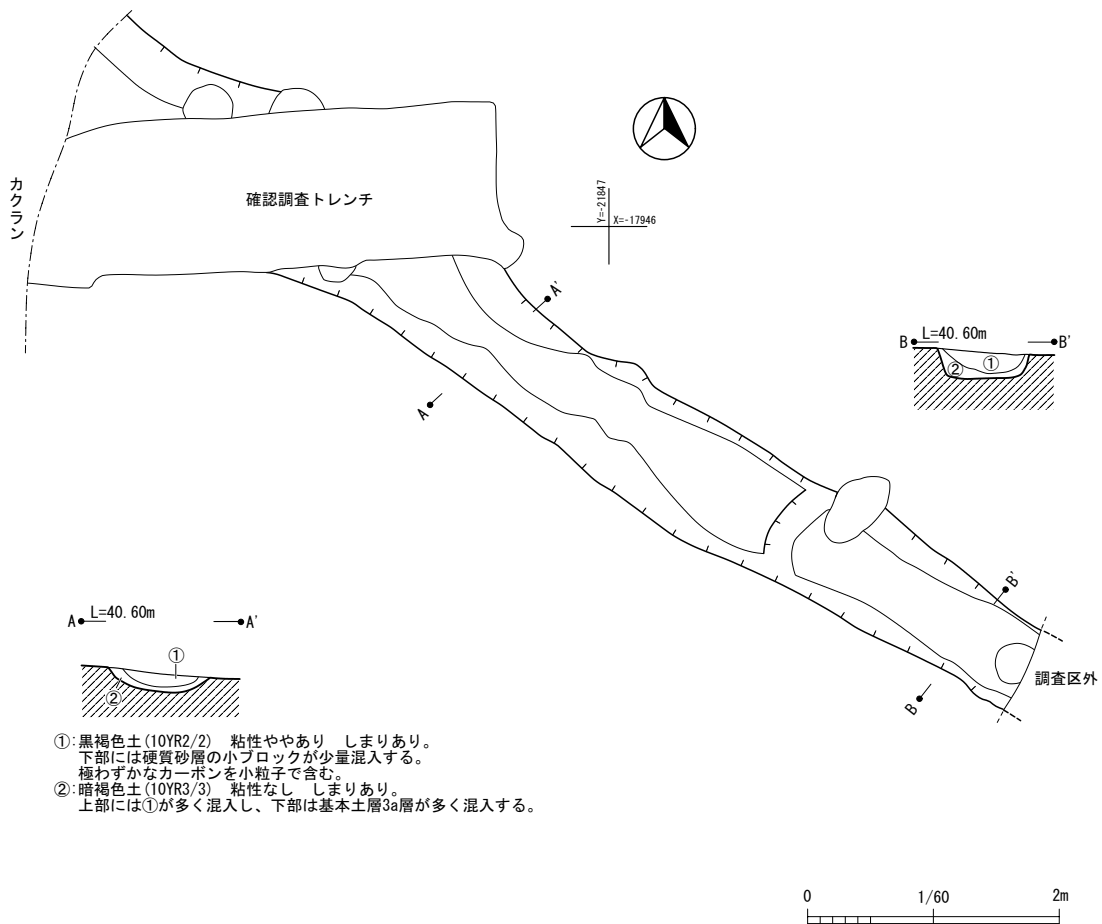
溝状遺構

円形周溝【S108】(第13図、図版2・3・19)

1区の北側D-1・D-2グリッドにまたがって位置する円形周溝である。長径約3.62m、短径約2.90m、幅約0.55~0.97m、深さ約0.37mで、平面形の形状はドーナツ状である。遺物は遺構西側からまとまって出土した。埋土①からの出土で、遺構の床面からは少し浮いた状態であった。埋土②からも弥生土器と思われる細片が数点出土しているが、細片のため器種も部位も判断できなかった。遺構の時期は、形態や遺物から弥生時代後期の可能性がある。

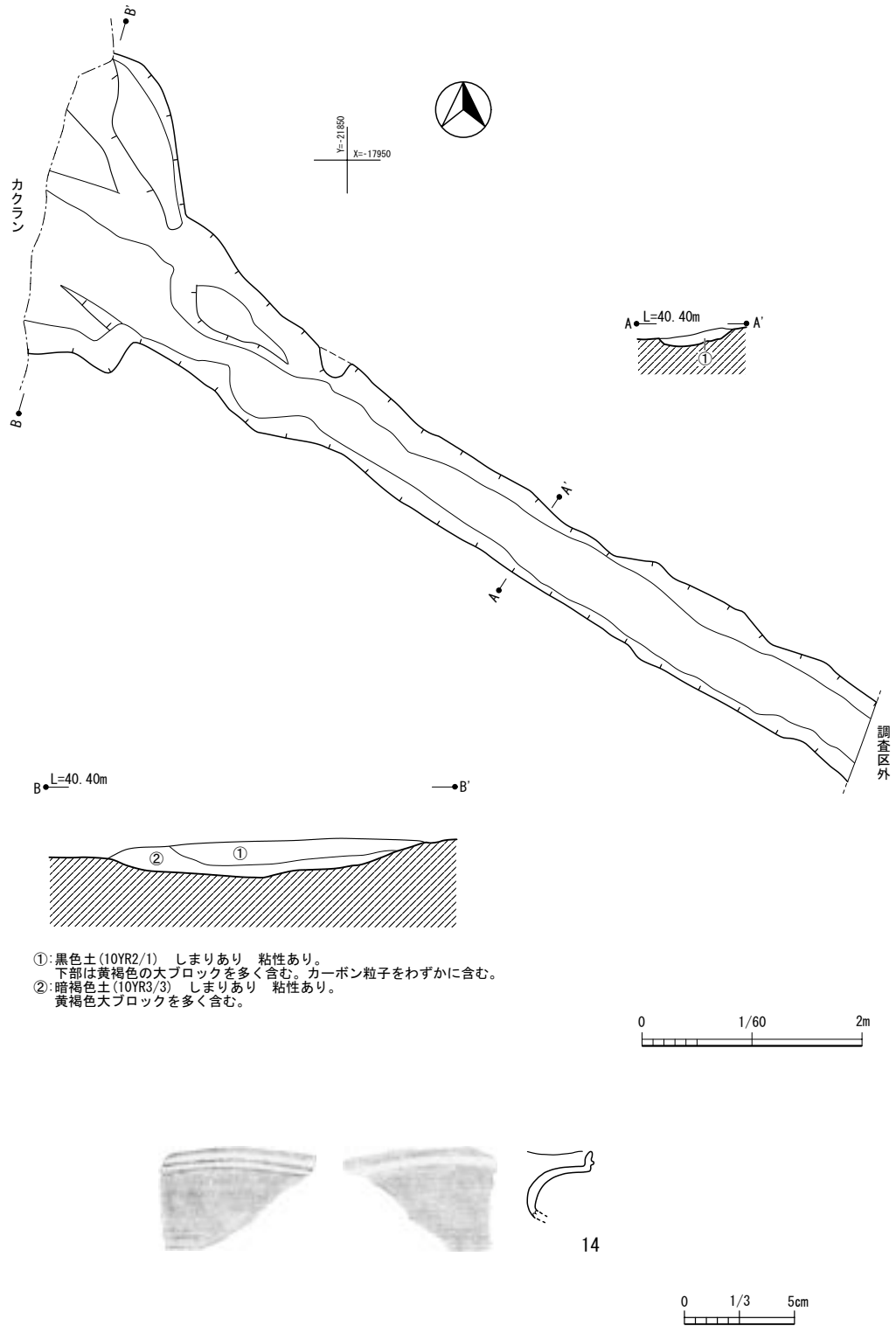
出土遺物(遺物番号)12・13は弥生土器の壺である。出土時は同一個体ではないかと思われたが、別個体の壺の口縁~胴部と底部であった。12は口縁~胴部で口縁は外反し、最大胴径の位置に刻目突帯を1条持ち、その上位に1か所のみ約9.5cmの突帯がはり付けられている。13は底部のみの残存でやや丸みを帯びている。口縁部や底部の特徴から、いずれも弥生時代後期のものと考えられる。

【1号溝状遺構】



第14図 1号溝状遺構(S112)実測図

【2号溝状遺構】



第15図 2号溝状遺構(S106)実測図及び出土遺物実測図

1号溝【S112】(第14図、図版3)

1区の北側C-3・D-3グリッドにまたがって位置し、東西方向に延びる溝状遺構である。東側は調査区外に延び、西側はカクランに切られる。大きさは長さ約8.80m、幅約0.74～0.95m、深さ約0.24mである。全体として東から西へ白川に向かって傾斜しているが、調査区東壁から約1.4mほどまでは一段深くなっており、西から東へ傾斜している。川に向かって傾斜しているため、流水が川へと向かう道ではないかと考えたが、土層断面や遺構底部の形態から流水の痕跡は確認できなかつたし、硬化面などの道の痕跡も確認できなかつた。溝状遺構の埋土からの遺物は、少量かつ細片のため遺構の性格や時期は判断できなかつた。

2号溝【S106】(第15図、図版3・19)

1区の北側C-3・C-4・D-4グリッドにまたがって位置し、東西方向に延びる溝状遺構である。東側は調査区外に延び、西側はカクランに切られる。大きさは長さ約8.76m、幅約0.65～0.97m、深さ約0.40mである。東から西へと、白川に向かって傾斜していた。また、川に近くなるにつれ幅は広がっていた。土層断面や遺構底部の形態から流水の痕跡は確認できなかつた。また、硬化面などの道の痕跡も確認できなかつた。1号溝と類似しているため同じ性格の溝であった可能性はある。溝状遺構の埋土からの遺物は少量かつ細片のため、遺構の時期も性格も判断できなかつた。

出土遺物(遺物番号)14は浅鉢の口縁部片で縄文時代後期～晩期のものと思われるが、遺構に伴うものではない。

土坑

1号土坑【S115】(第16図、図版3・4・19)

1区のはほぼ中央D-2・D-3グリッドにまたがって位置する土坑である。平面形の形状はいびつな楕円形で、北側は部分的に樹根によるカクランを受けている。長軸約3.52m、短軸約2.16m、深さ約1.15mとかなり深い土坑である。検出時は、周囲の土を含め、竪穴建物と考えていたが、掘削を始めると埋土の質感も深さもそれとは違っていた。そのため、再度遺構検出を試みた結果、本遺構埋土以外は、雨水の流れの影響で土が変色していることに気付いた。土層断面をみると北側からの土で埋まっていることがわかる。土坑の埋土からは、縄文土器や古代の土師器など混在して出土しており、遺構の時期や性格を判断することはできなかつた。また、掌ほどの大きさで表裏の全体に被熱を受けた石も出土しているが、加工痕或使用痕などは確認できなかつたので、写真図版のみ掲載している。

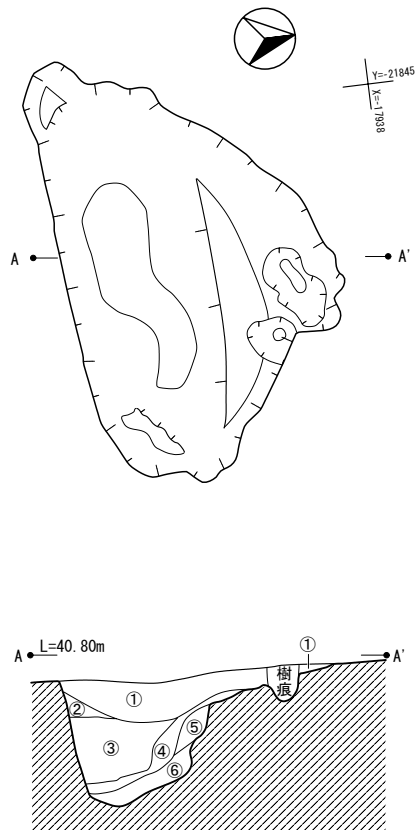
2号土坑【S102】(第17図、図版4)

1区の北側D-2グリッドに位置する土坑である。長軸約1.28m、短軸約0.71m、深さ約0.58mで、平面形の形状は楕円形である。底部は2段掘りとなりテラス部分を持つ。土坑埋土からの出土遺物は、少量かつ細片のため遺構の時期も性格も判断できなかつた。

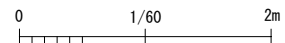
3号土坑【S104】(第17図、図版4)

1区のはほぼ中央D-2グリッドに位置する土坑である。長軸約0.97m、短軸約0.68m、深さ約0.18mで、平面形の形状は円形である。遺構底部はほぼ平らであるが、一部がピット状に深くなるため、樹根の影響を受けていると思われる。土坑埋土からの遺物は、少量かつ細片のため、遺構の時期も性格も判断できなかつた。

【1号土坑】



- ①: 黒褐色土(10YR2/2) 粘性なし しまりあり。
混入物はほとんどない。下部には硬質砂と黒色土ブロックを含む。
- ②: 暗褐色土(10YR3/3) 粘性なし しまりなし。
黄褐色土のブロックを多く含む。
- ③: 黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし しまりあり。
混入物はほとんどない。①によく似るがやや明るい色調。
- ④: 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし しまりあり。
地山となる基本土層3層を含み、やや明るい色調。硬質砂のブロックを少量含む。
- ⑤: 暗褐色土(10YR3/4) 粘性なし しまりあり。
明るい色調に①と④の土が混入する。
- ⑥: 黒褐色土(10YR3/2) 粘性なし しまりあり。
しまりが上部に比して強くなる。硬質砂を大きなブロックで多く含む。

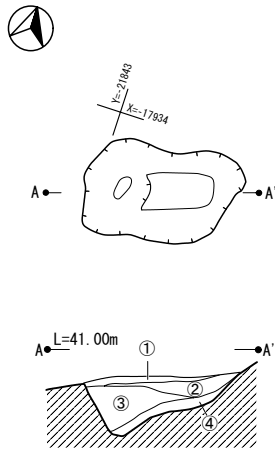


第16図 1号土坑(S115)実測図

不明遺構【S101】(第17図)

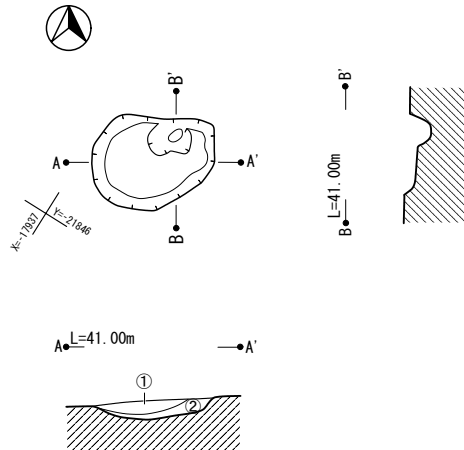
1区のD-1グリッド北側壁にかかる不明遺構である。長軸約3.68m以上(調査区外に延びる)、短軸約1.1m以上(調査区外に延びる)、深さは約0.58mで、平面形の形状は不明である。調査区北壁にかかる形での検出であったので全容が把握できず、当初は方形遺構の一部と考えた。そのため、竪穴建物を想定して掘削を開始した。第17図の土層断面図では確認できないが、北西側の遺構の角および壁の傾斜はなだらかで、竪穴建物の壁の立ち上がりとは考えにくい。また、大部分は調査区外となるため、硬化面・炉・柱穴のいずれも確認することができなかった。これらの理由から竪穴建物ではないと判断した。大型の土坑とも言えないが、本調査では不明遺構とした。遺構埋土からの遺物は、少量かつ細片のため、遺構の時期も性格も判断できなかった。

【2号土坑】



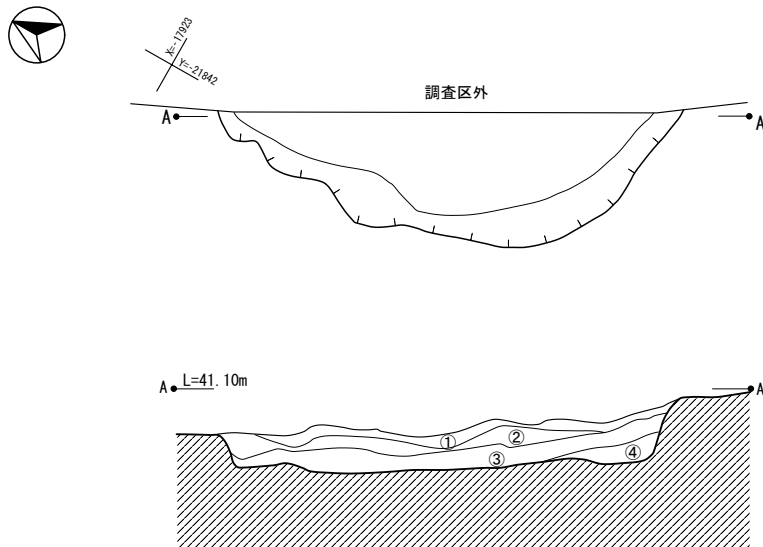
- ①: 黒色土(10YR2/1) 粘性ややあり しまりあり。
黄褐色の小ブロックを少量含む。
- ②: 黒褐色土(10YR3/1) 粘性ややあり しまりあり。
①の上に黄褐色大ブロックが多く混入する。
- ③: 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり しまりあり。
黄褐色の小ブロックを下層に多く含む。
- ④: 褐色土(10YR4/6) 粘性ややあり しまりあり。
黄褐色土に黒色土を多量に含む。

【3号土坑】

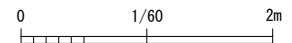


- ①: 黒色土(10YR3/1)粘性あり しまりあり。
黄褐色の小ブロックを少量含む。
- ②: 黒褐色土(10YR3/1)粘性あり しまりあり。
黄褐色の大ブロックを多量に含む。

【不明遺構】



- ①: 黒色土(10YR2/1) 粘性なし しまり弱い。
真っ黒の土に黄褐色のブロックを少量含む。
- ②: 黒褐色土(10YR2/2) 粘性なし しまり弱い。
基本土層1層に比べてやや明るい色調。黄褐色土も多くなり帯状に見える。
- ③: 黒色土(10YR2/1) 粘性なし しまりあり。
黄褐色土のブロックを大きなブロックで少量含む。
- ④: 黒色土(10YR2/1) 粘性なし しまりあり。
下に行くほど黄褐色土の土を帯状に多く含む。

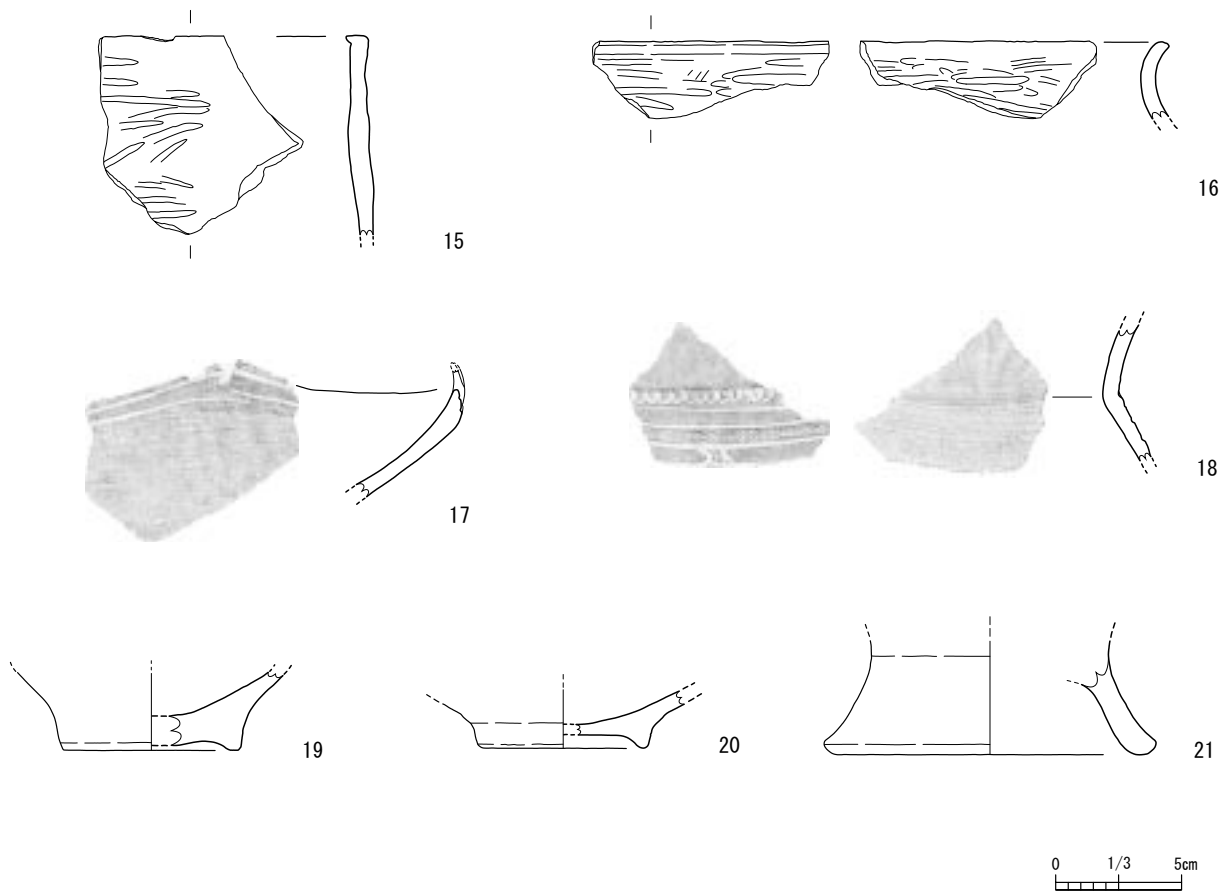


第17図 2・3号土坑(S102・104)・不明遺構(S101)実測図

調査1区包含層の出土遺物について（第18図、図版19・20）

調査区全体として出土遺物は少なかった。また、小破片がほとんどで器種や時期を判断することはあまりできなかった。そのため、器種や時期を判断できるような遺物で図化可能なもののみ掲載している。出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、観察表のとおりである。

出土遺物（遺物番号）15～20は縄文時代後期～晩期の土器である。15は深鉢の口縁部、16は鉢の口縁部、17は浅鉢の口縁部で波状である。18は深鉢の頸部である。19は深鉢の底部、20は浅鉢の底部である。21は弥生土器の甕の脚部で、弥生時代後期のものと思われる。



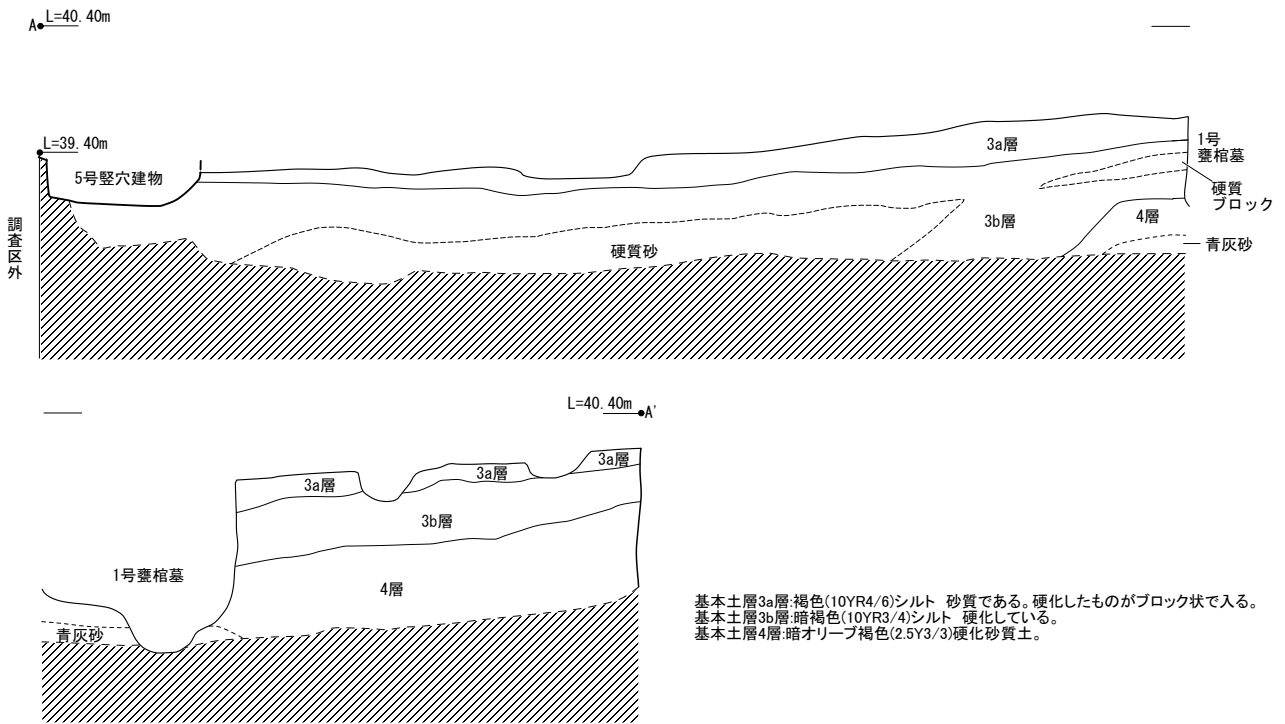
第18図 1区包含層出土遺物実測図

第4節 2区の調査成果

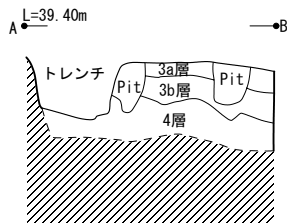
2区は、今回の調査区の中では一番広く、約2436m²となる。調査区内は3a層もしくは3b層が広がる状態で、東から西に傾斜し川側となる西側で多くの遺構を検出した。第20図のとおり調査2区では、堅穴建物12軒、甕棺墓3基、溝状遺構3条、土坑7基、ピット多数を確認することができた。堅穴建物が多く確認されたが、炉を確認できなかった建物が多かった。柱穴・硬化面があることと遺構の形態から堅穴建物と判断した。炉を確認できた建物でもその土層断面を確認すると炭化物や焼土をわずかに含む程度であった。2区でも多数のピットを検出したが、柱痕跡を確認できるものや、位置関係から掘立柱建物や柵状遺構となるようなものは確認できなかった。また、出土遺物の特徴から弥生時代を前半と後半の2区分とした。

第19図の土層断面を見ると、東西方向の2区の堆積も1区と同様に川に向かって傾斜していることが分かる。傾斜の度合いは1区に比べ2区は緩やかである。南北方向は、狭い範囲の土層断面しか提示できていないが、ほぼ水平堆積である。

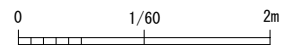
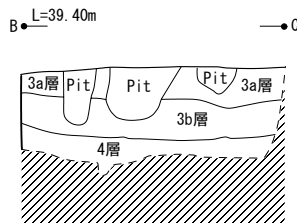
【2Tr. A-A'断面図】



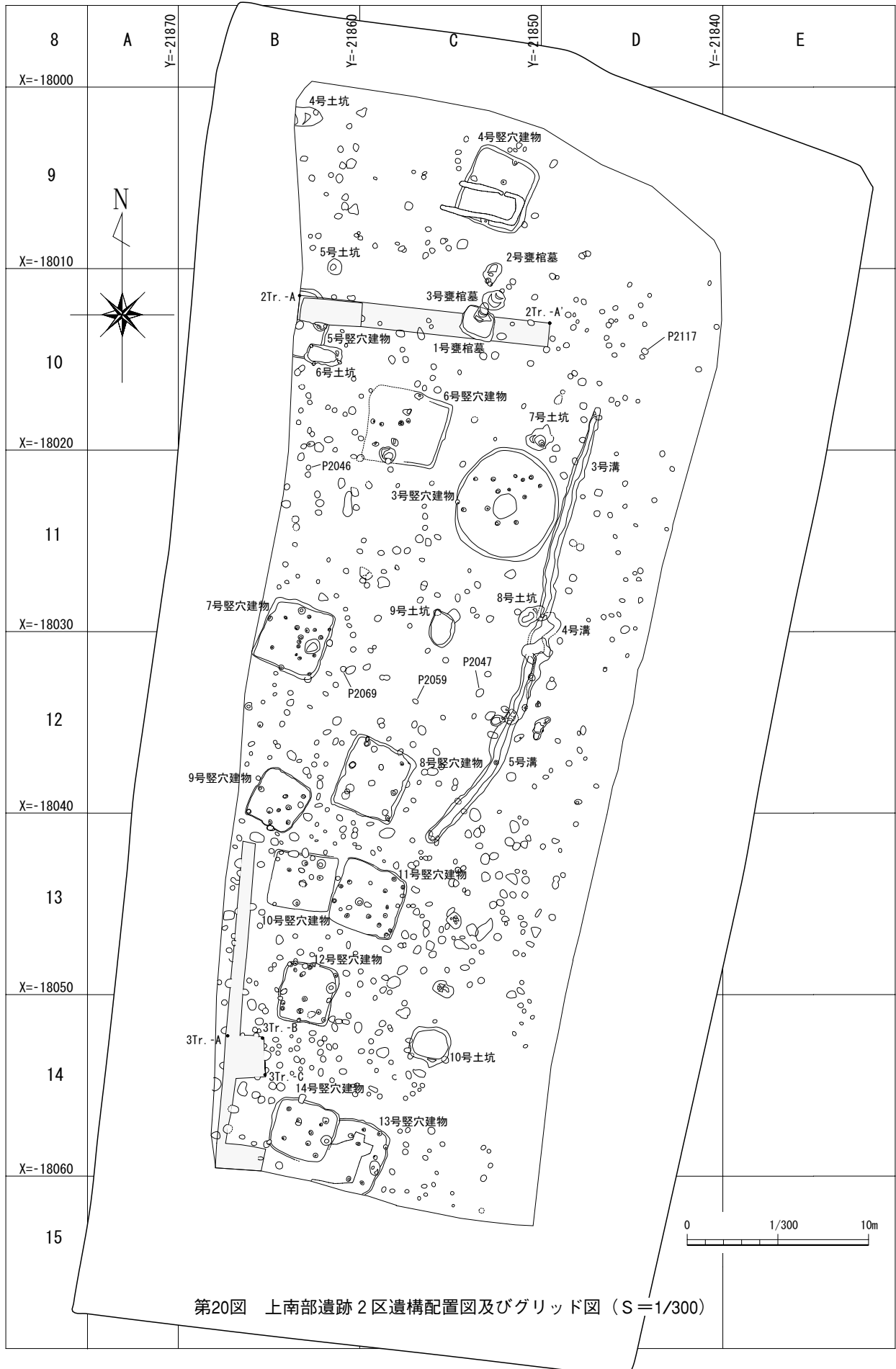
【3Tr. A-B断面図】



【3Tr. B-C断面図】



第19図 2区 2 Tr.・3 Tr.断面図



第20図 上南部遺跡 2区遺構配置図及びグリッド図 (S=1/300)

竪穴建物

3号竪穴建物【S215】（第21・22図、図版6・20）

2区の中央部C-11グリッドを中心にC-10・D-11グリッドにまたがって位置する竪穴建物である。長軸約6.16m、短軸約5.64m、深さ約0.40mで、平面形の形状は円形である。今回の調査で確認した唯一の円形竪穴建物である。規模は、方形の竪穴建物に比べ大型である。竪穴建物の中央には、炉と思われる掘り込みを確認した。炭化物や焼土の混入は少なかったが、位置的にも炉と判断した。その炉を囲むように柱が6本確認でき、各々炉を挟んで対になる。硬化面は、硬質砂層を一部利用しており竪穴建物中央に広がる。貯蔵穴は確認されなかった。

竪穴建物の埋土からは、縄文土器や弥生土器が混在した状態で出土しているため、遺構の時期を判断するのは難しいが、後述の二つの理由から弥生時代の竪穴建物である可能性が高いと考える。一つは、熊本市南区城南町の上の原遺跡（熊本県1983年報告）や阿蘇郡西原村の谷頭遺跡（西原村1978年報告）等、本県においても弥生時代の円形竪穴建物の報告例がある。もう一つは、本遺跡の他の弥生時代の方形の竪穴建物と同じように被熱を受けた石が出土していることである。また、弥生時代の出土遺物は中期前半と中期後半のものが混在しているが、遺構の時期は弥生時代中期後半の可能性があると考えている。

出土遺物（遺物番号）22～25は弥生土器である。22～24は甕の口縁部である。22・23は弥生時代中期前半、24は弥生時代中期後半のものと考えられる。25は1条の刻目突帯のある壺の胴部で、突帯を挟んで上下両方に暗文（図版20参照）が施されている。26～28は縄文土器の鉢の口縁部で、27・28には土器の補修孔がある。29は先端が破損している安山岩製の石鎌で、基部の挟り込みは浅い。30は完形で、安山岩製の横型石匙である。その他表裏全体に被熱を受けた石が数点出土しているが、加工痕や使用痕などは確認できなかったので、写真図版のみ掲載している。被熱を受けた石の大きさは、掌大程度のものが多く、長径41cm、短径29cm、厚さ12cmの楕円形の大きなものもあった。

4号竪穴建物【S222】（第23図、図版6・7・21）

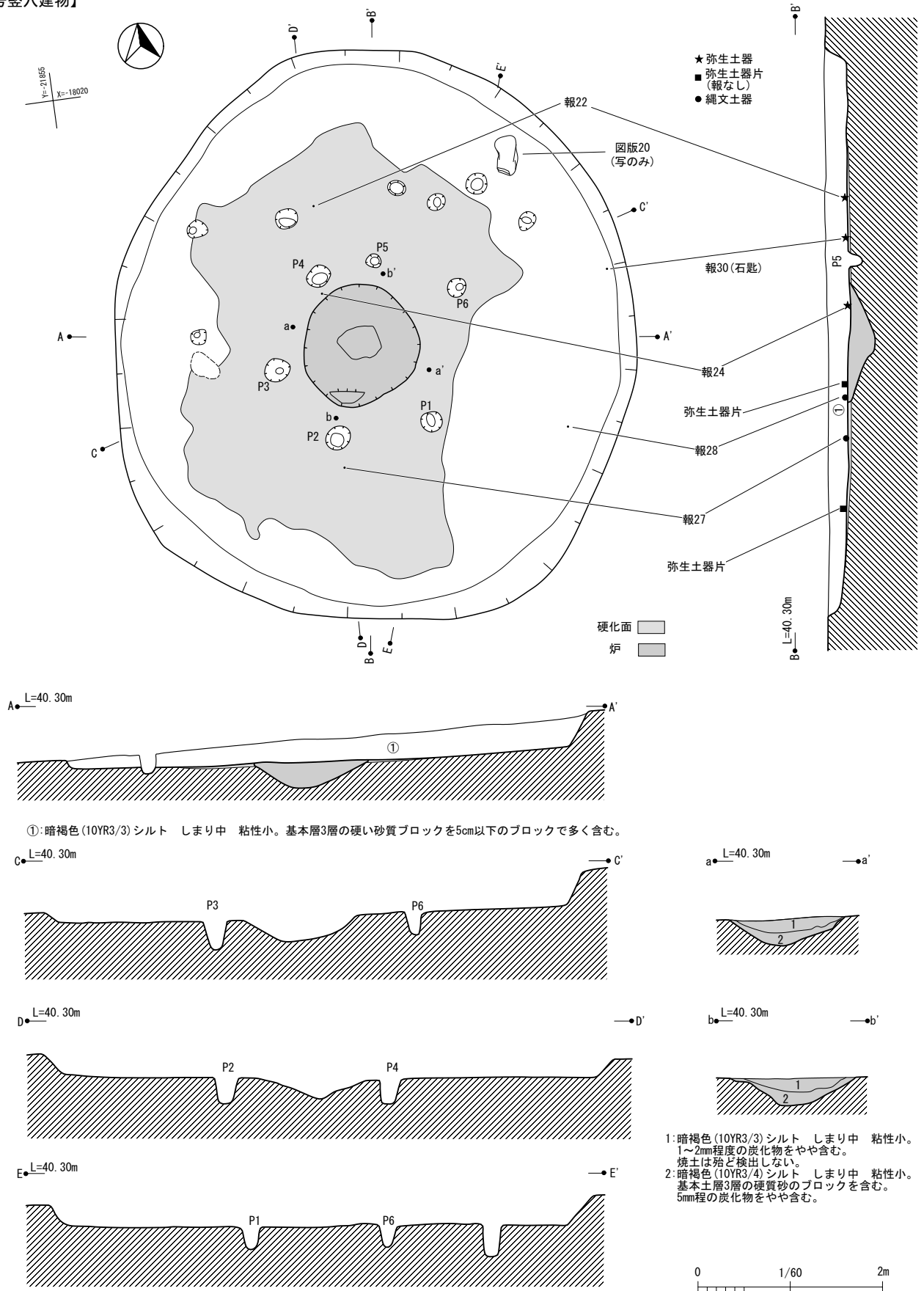
2区の最も北側、C-9グリッドに位置する竪穴建物である。長軸約4.19m、短軸約3.71m、深さ約0.35mで、平面形の形状は方形である。残存状況は良好だが、U字型のカクランが入り、硬化面まで削平されていた。硬化面は硬質砂層を利用しており、建物内全体に広がっていた。柱は、南北の壁にそれぞれかかる形で検出したP1とP2の2本だと考えている。炉と貯蔵穴は確認することができなかった。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片がわずかに出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期前半の可能性はある。

出土遺物（遺物番号）31は弥生土器の甕の口縁部で1条の突帯が施されている。弥生時代中期初頭から前半の遺物と考えられる。また、表裏全体に被熱を受けた長径23cm、短径17cm、厚さ7cmの石が出土しているが、加工痕や使用痕などは確認できなかったので、写真図版のみ掲載している。

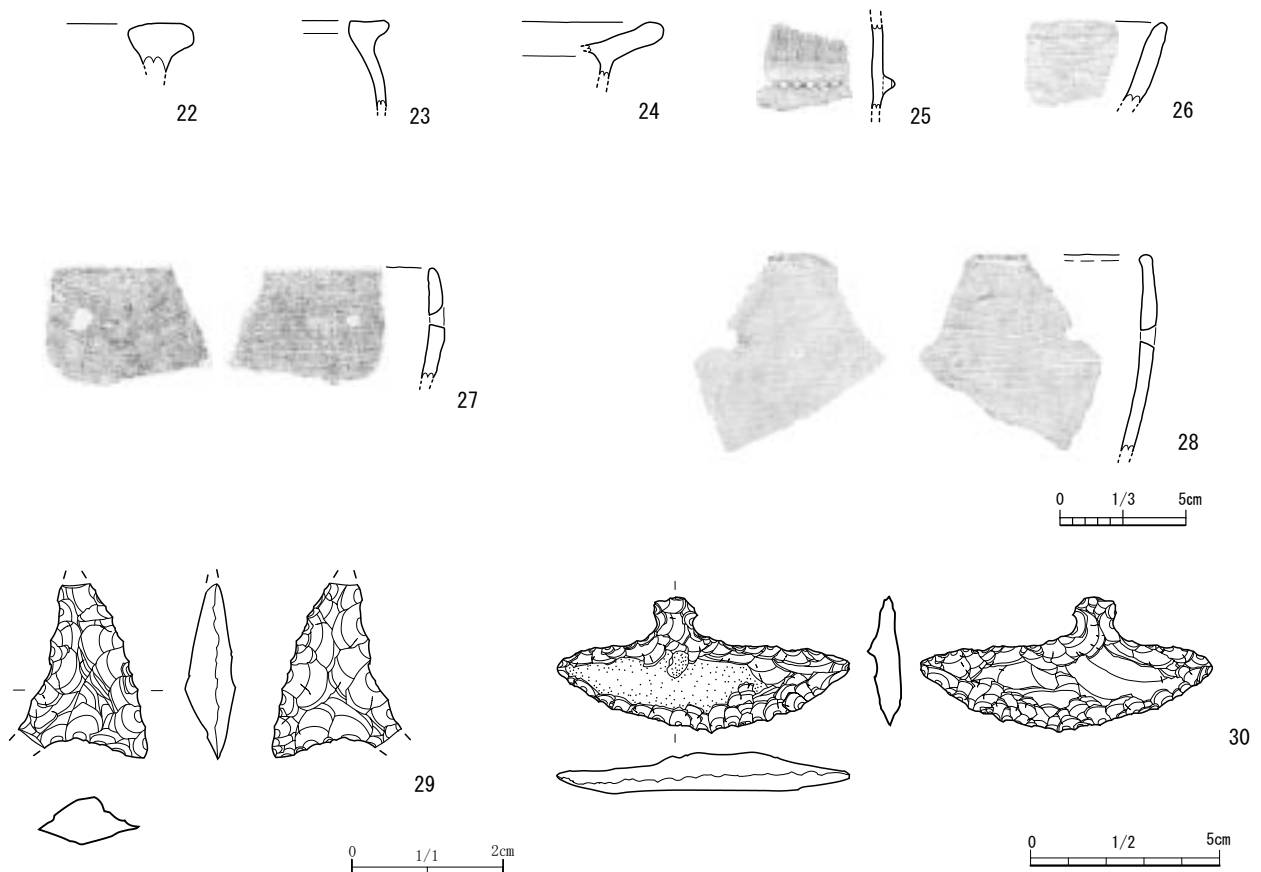
5号竪穴建物【S220】（第24図、図版7・21）

2区の北西側B-10グリッドに位置する竪穴建物である。西側は調査区外に延びる。長軸約3.83m、短軸約1.80m以上（調査区外に延びる）、深さ約0.29mで、平面形の形状は方形である。確認調査トレンチと6号土坑に大きく切られている。硬化面と貯蔵穴は確認することができたが、確認調査トレンチに切られている。炉と柱は確認することができなかった。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片がわずかに出土している。出

【3号竖穴建物】



第21図 3号竖穴建物(S215)実測図



第22図 3号竪穴建物(S215)出土遺物実測図

土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期前半の可能性はある。

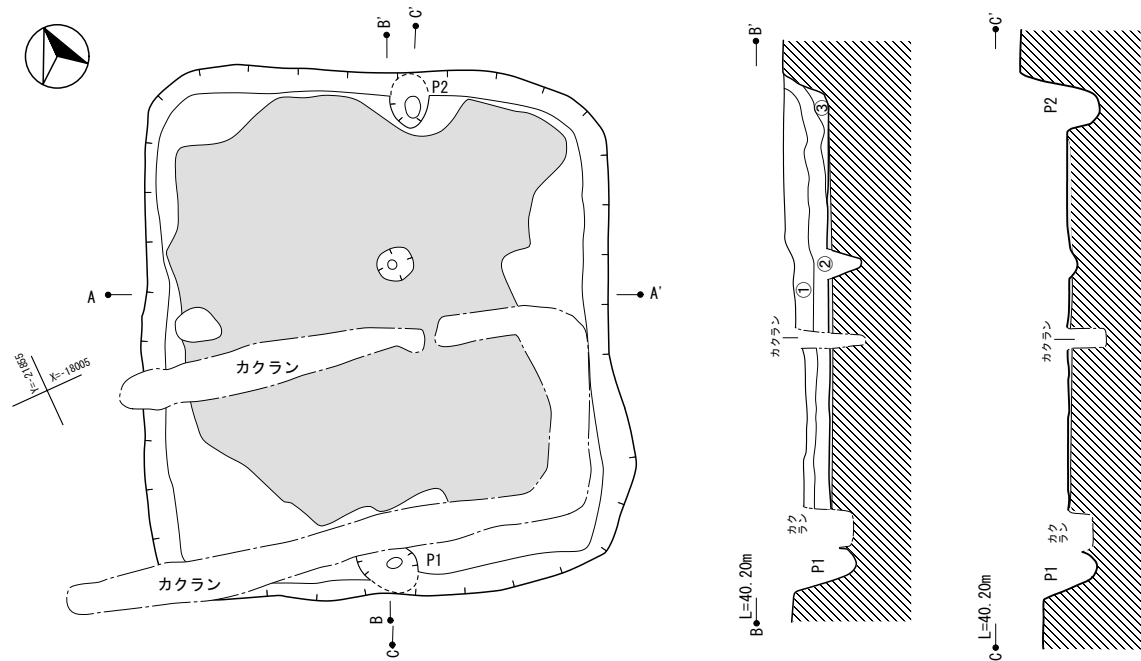
出土遺物（遺物番号）32は弥生土器の甕の脚部である。立ち上がりは直となり、体部は外側へと大きく開き、底部はわずかに上げ底である。端部は丸みを帯びていない。弥生時代中期前半のものと思われる。

6号竪穴建物【S218】（第25図、図版7・21）

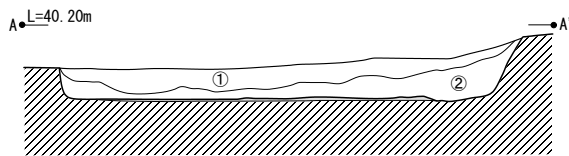
2区の北側C-10・C-11グリッドにまたがって位置する竪穴建物である。残存状況は悪く、竪穴建物の東側半分を検出したと考えている。検出できた東側部分は、一辺が約3.70m、深さは最大約0.18mで、平面形の形状は方形と推定する。東側半分も、埋土をひと剥ぎするとすぐに硬化面が確認できた。柱はP1とP2の2本柱を想定した。柱穴は浅いが、底が硬質砂層のため柱と屋根がのれば、その重みで安定したのではないと思われる。貯蔵穴と思われる部分も確認できたが、埋土がほとんど残っていない西側部分での検出のため、貯蔵穴の可能性があると指摘するにとどめたい。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片がわずかに出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期後半の可能性はある。

出土遺物（遺物番号）33・34は、ともに弥生土器である。33は甕の口縁部であり、弥生時代中期後半のものと考えられる。34は内外面には赤彩が施され、外面には暗文のある壺の口縁部である。

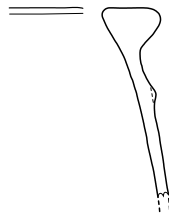
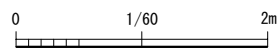
【4号竖穴建物】



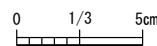
硬化面



- ①: 黒褐色 (10YR2/3)シルト しまり中 粘性小。
砂質が多い基本土層3層の硬質砂のブロックを多く含む。
- ②: 暗褐色 (10YR3/3)シルト しまり中 粘性小。
①より基本土層3層の砂質が多い。
- ③: 暗褐色 (10YR3/4)シルト しまり中 粘性中。
基本土層3層がほとんど硬質のブロックも入る。

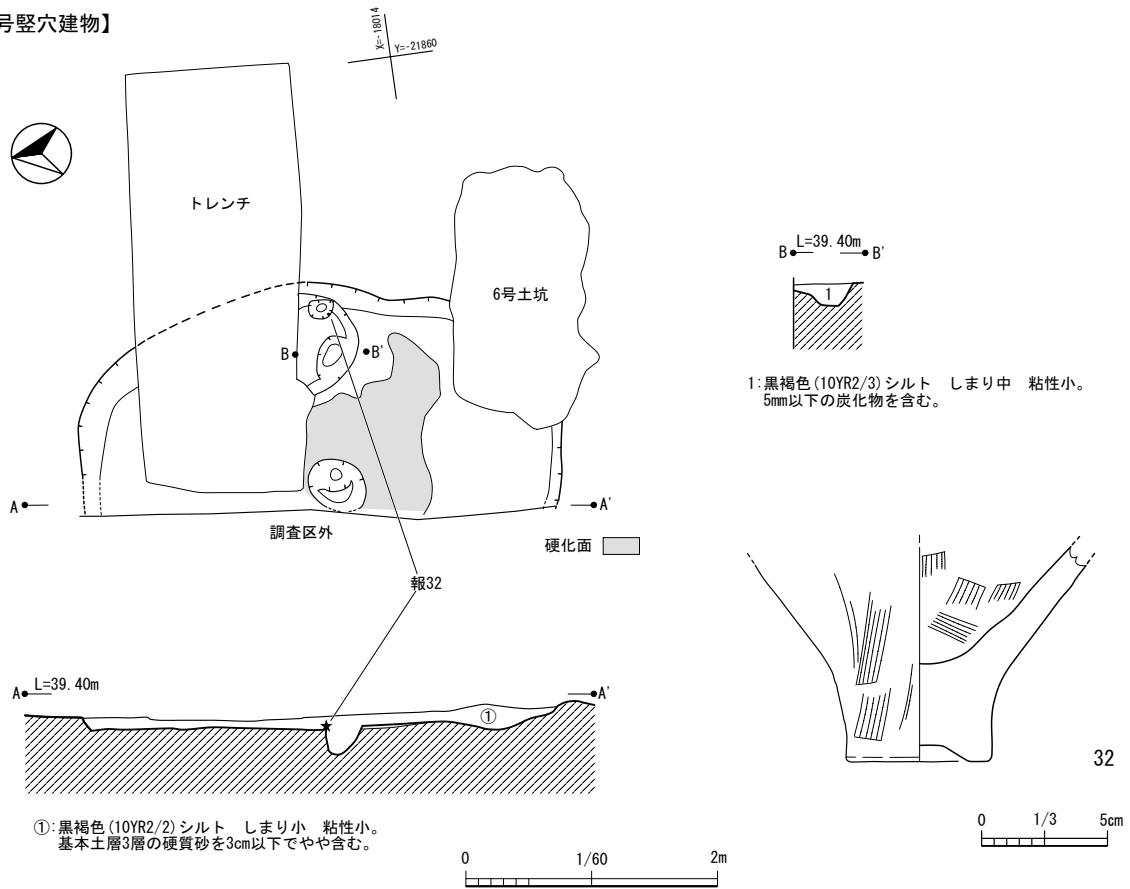


31



第23図 4号竖穴建物(S222)実測図及び出土遺物実測図

【5号竪穴建物】



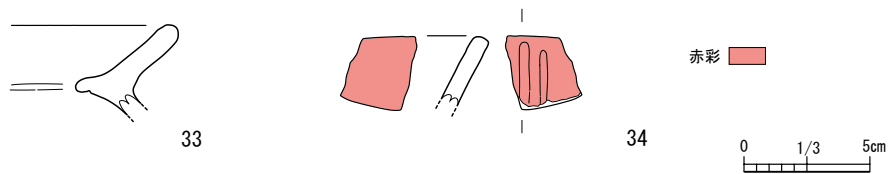
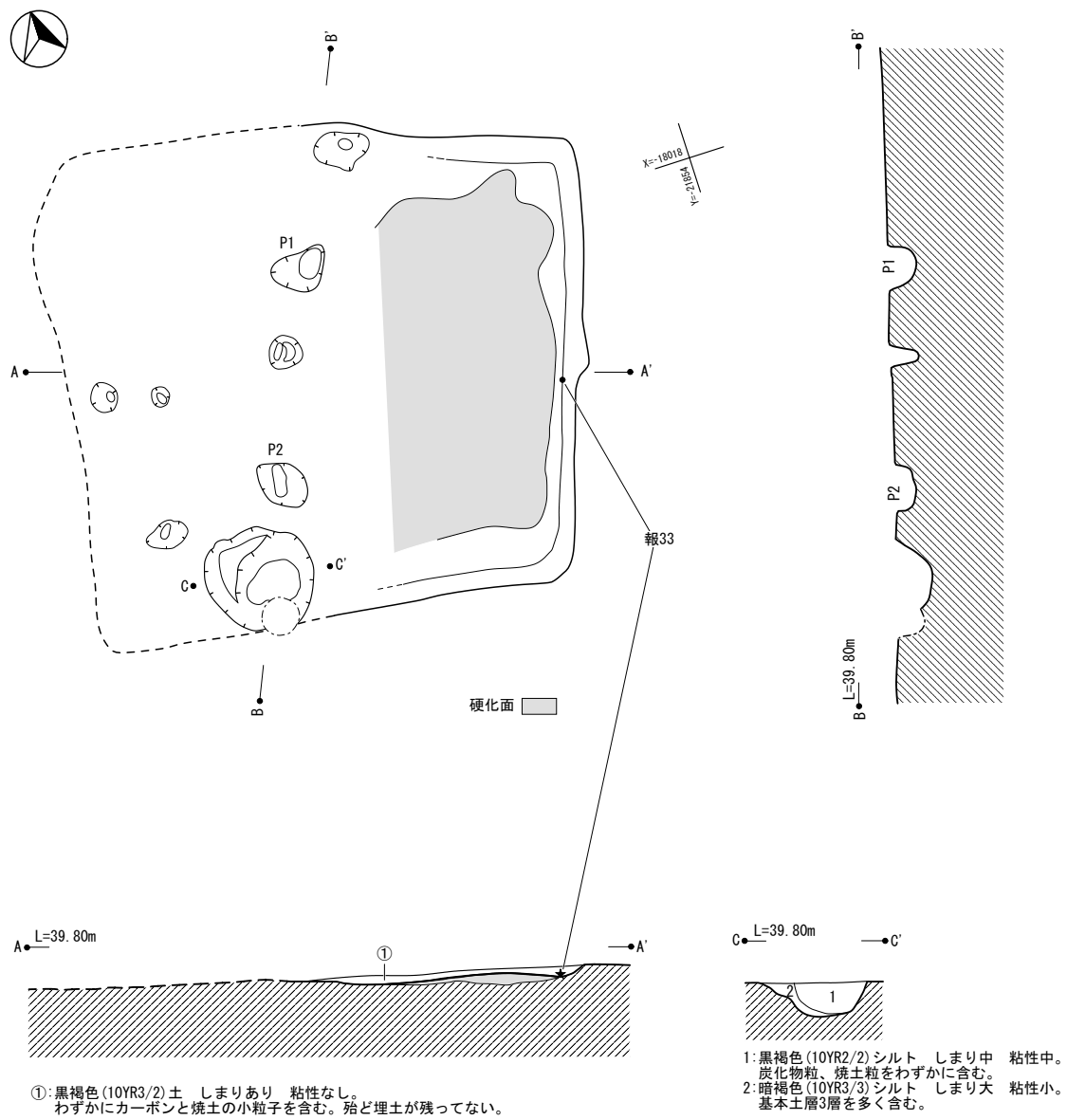
第24図 5号竪穴建物(S220)実測図及び出土遺物実測図

7号竪穴建物【S209】(第26図、図版7・8・21)

2区のほぼ中央西側B-11・B-12グリッドにまたがって位置する竪穴建物である。長軸約3.94m、短軸約3.66m、深さ約0.35mで、平面形の形状は方形である。今回の調査で確認した竪穴建物の中では、最も残存状況のよい遺構であった。硬化面・貯蔵穴は確認できたが、炉は確認できなかった。貯蔵穴は竪穴建物の東側の壁中央付近から少し離れた位置にある。柱はP1～P4の4本柱を想定しており、柱穴がやや小さいがバランスは良い。東壁沿いにはのみ側壁溝と思われる溝が確認できた。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片や十数個の石が出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期前半の可能性はある。

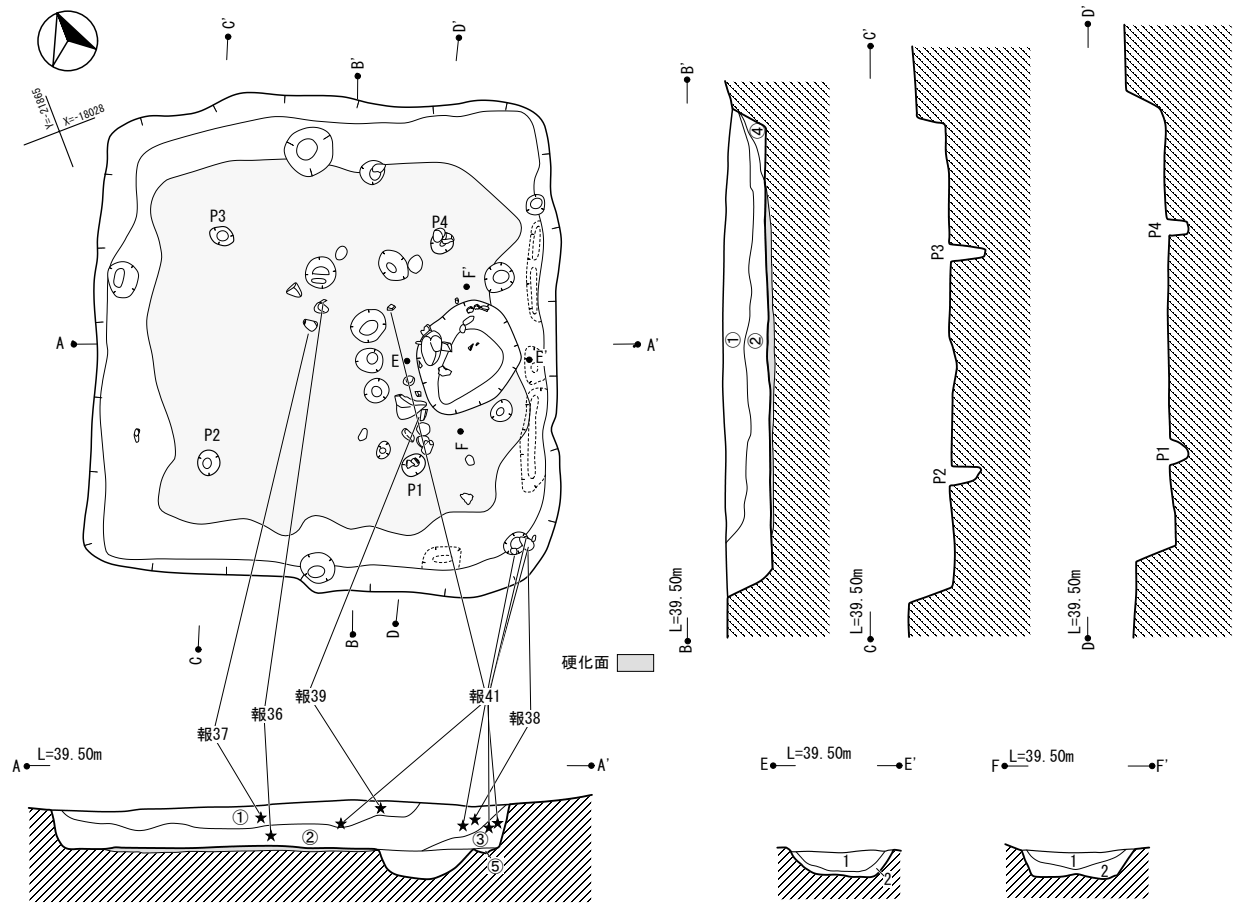
出土遺物(遺物番号)35～41は弥生土器である。35～37は蓋型土器の底部だと思われる。38・39は壺の口縁部である。口縁部の形状から弥生時代中期前半のものと思われる。40は甕の脚部で、直に立ち上がり、底部はわずかに上げ底である。端部は丸みを帯びている。弥生時代中期前半のものと思われる。41は甕または壺の底部で平底である。その他表裏全体に被熱を受けた石が十数点出土しているが、加工痕や使用痕などは確認できなかったため、写真図版のみ掲載している。形や大きさは様々である。

【6号竪穴建物】



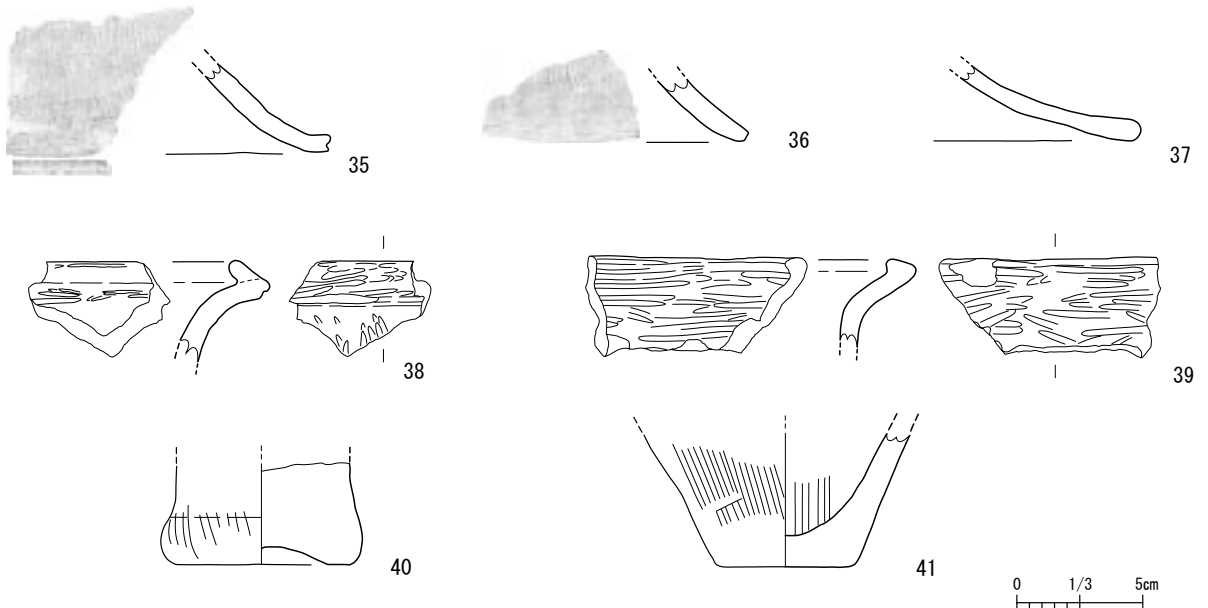
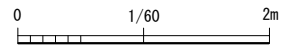
第25図 6号竪穴建物(S218)実測図及び出土遺物実測図

【7号竪穴建物】



- ①: 黒褐色(10YR2/3)シルト しまり中 粘性中。基本土層3層硬質砂ブロックを5cm以下で含む。
- ②: 暗褐色(10YR3/3)シルト しまり中 粘性小。基本土層3層硬質砂ブロックを3cm以下で多く含む。
- ③: 暗褐色(10YR3/4)シルト しまり中 粘性小。基本土層3層砂質土を多く含む。
- ④: 暗褐色(10YR3/3)シルト しまり中 粘性小。基本土層3層砂質土を含む。
- ⑤: 暗褐色(10YR3/3)シルト しまり中 粘性小。東壁側で検出。硬砂質を多く含む。

- 1: 黒褐色(10YR2/2)シルト しまり中 粘性小。炭化物を含む3aを1cm以下のブロックで含む。
- 2: 暗褐色(10YR3/3)シルト しまり小 粘性小。基本土層3a層を多く含む。



第26図 7号竪穴建物(S209)実測図及び出土遺物実測図

8号竪穴建物【S208】(第27図、図版8・21)

2区の中央部C-12グリッドを中心にB-12・B-13・C-13グリッドにまたがって位置する竪穴建物である。長軸約4.16m、短軸約3.59m、深さ約0.46mで、平面形の形状は方形である。硬化面は広範囲で確認できた。柱をP1しか確認できなかったため、床を剥ぐと新たにP2～P5が検出された。P1～P4の4基が、位置的に柱の可能性が高いため4本柱を想定する。P5は柱穴であるP4を支えるような形で斜めに掘り込まれていた。P6は遺構に伴うものだが、用途については不明である。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片等がわずかに出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期前半の可能性はある。

出土遺物(遺物番号)42は弥生時代中期前半の甕の脚部である。脚部は直に立ち上がり、底部はわずかに上げ底となり、端部は丸みを帯びない。その他被熱を受けた石が1点出土しているが、他の遺構から出土したものと異なり被熱を部分的にしか受けていない。加工痕や使用痕などは確認できなかったため、写真図版のみ掲載している。

9号竪穴建物【S207】(第28図、図版8・9・22)

2区の中央部西側B-12グリッドを中心にB-13グリッドにまたがって位置する竪穴建物である。長軸約3.06m、短軸約2.93m、深さ約0.15mで、平面形の形状は方形である。本調査で検出した竪穴建物の中では最も小型であった。硬化面は広範囲に広がる形で確認できたが、炉や貯蔵穴は確認できなかった。柱はP1とP2の2本柱を想定した。平面図で見ると、やや斜めになるが竪穴建物の大きさや壁とのバランス、ピット間隔や深さなどから、この2本でよいのではないかと考える。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片等がわずかに出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期前半の可能性はある。

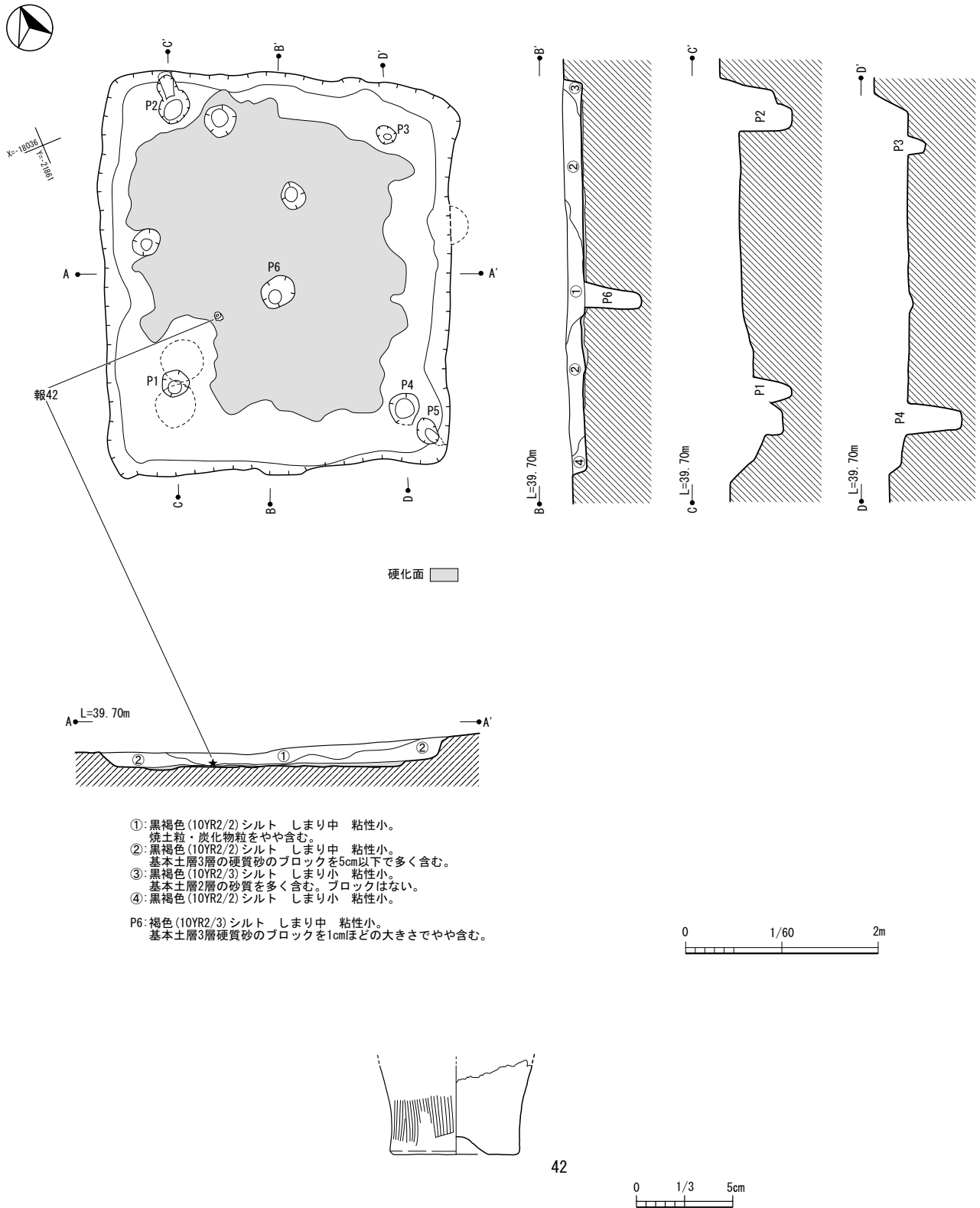
(遺物番号)43・44は弥生土器である。43は突帯のある壺の胴部で、44は甕の脚部である。脚部は直に立ち上がり体部は大きく外に開く。底部はわずかに上げ底となり、端部は丸みを帯びない。弥生時代中期前半のものと思われる。その他表裏全体に被熱を受けた石が1点出土しているが、加工痕や使用痕などは確認できなかったため、写真図版のみ掲載している。

10号竪穴建物【S205】(第29図、図版9・22)

2区の南側B-13グリッドに位置する竪穴建物と考えられる。長軸約3.48m、短軸約3.10m、深さ約0.07mで、平面形の形状は方形である。11号竪穴建物と接する。土層断面で確認したが切り合いは確認できなかった。しかし、すでに削平された部分で切り合い関係があったのかもしれない。残存状況が悪かったため、上端のラインはほとんど確認できなかった。竪穴建物中央に炉と思われる埋土に焼土と炭化物を含む掘り込みがあった。柱はP1とP2の2本柱を想定している。硬化面は部分的ではあるが確認することができた。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片がわずかに出土している。図化できた遺物は時期がそれぞれ異なる甕の口縁部3点である。弥生時代後期の特徴を持つ遺物もあるが、この他には2区において弥生時代後期の遺物はほとんど出土していない。このことから弥生時代後期の遺物は流れ込みと考え、竪穴建物の時期は弥生時代中期後半の可能性が高いと考える。

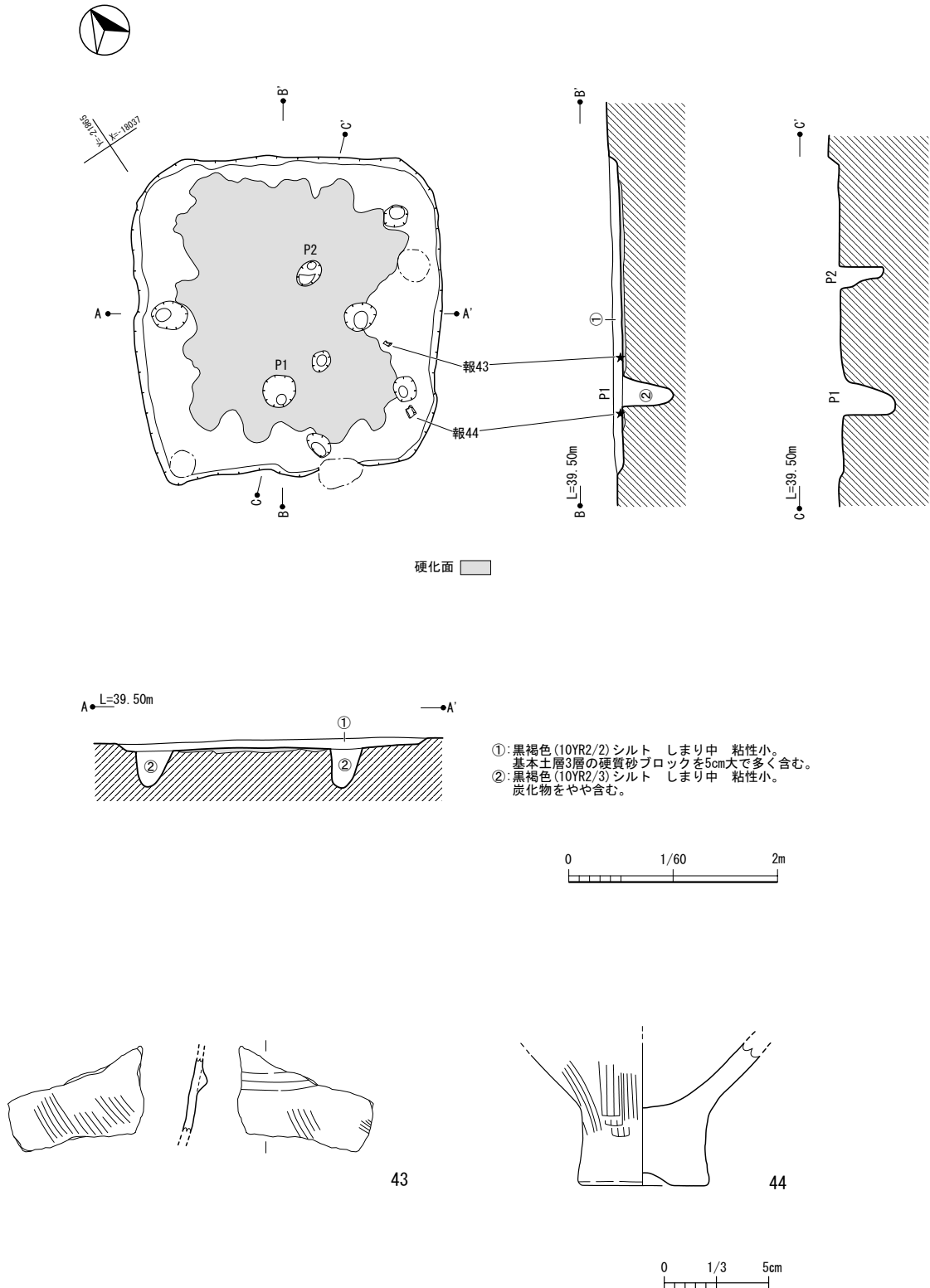
出土遺物(遺物番号)45～47は弥生土器の甕の口縁部である。45は厚みのある口縁部で、弥生時代中期前半のものと考えられる。46は内側にも外側にも大きく張り出し、上面にくぼみがある。弥生時代中期後半のものと考えられる。47はやや「く」の字に外反しており、弥生時代後期のものと考えられる。

【8号竪穴建物】



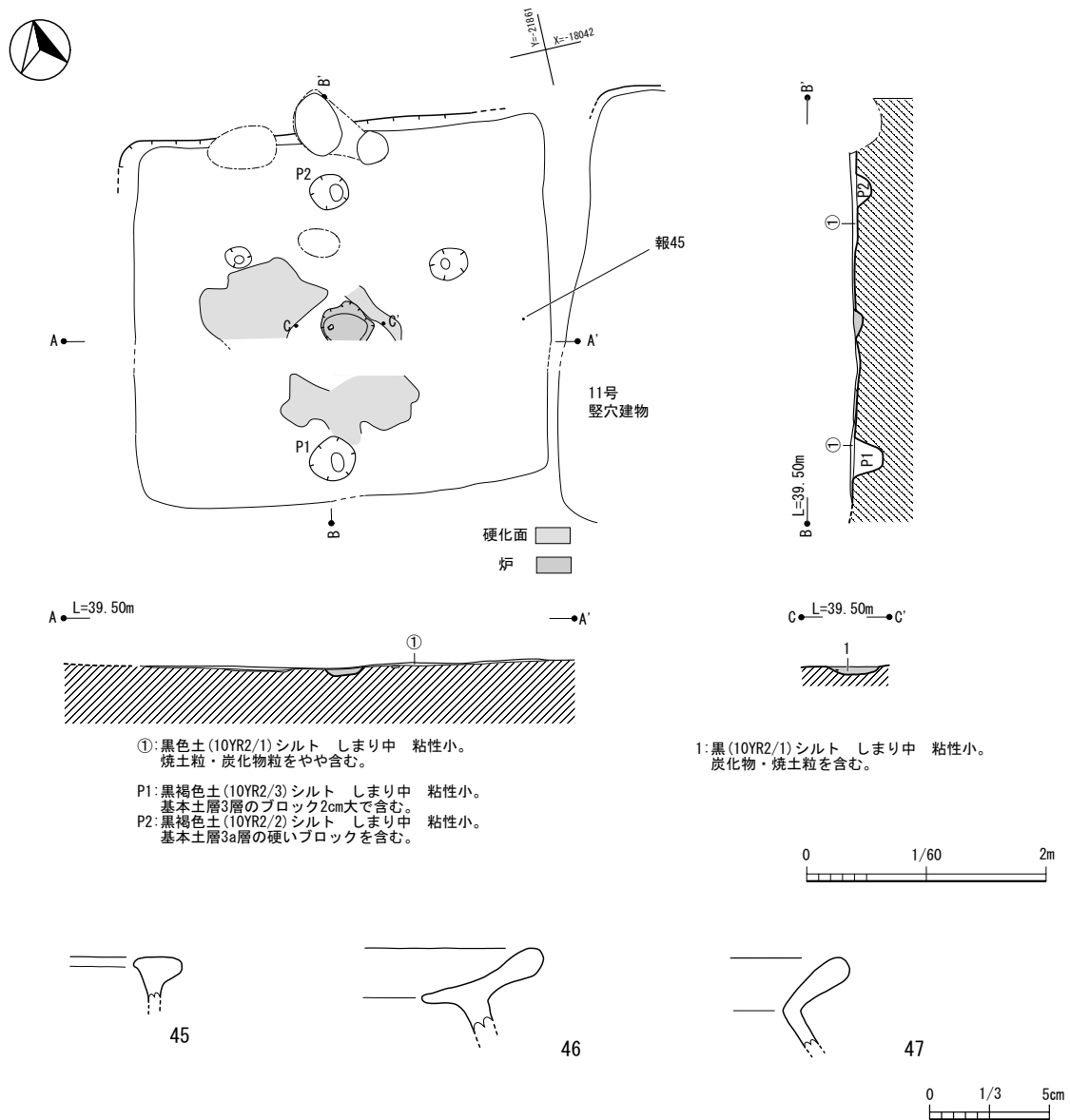
第27図 8号竪穴建物(S208)実測図及び出土遺物実測図

【9号竪穴建物】



第28図 9号竪穴建物(S207)実測図及び出土遺物実測図

【10号竪穴建物】



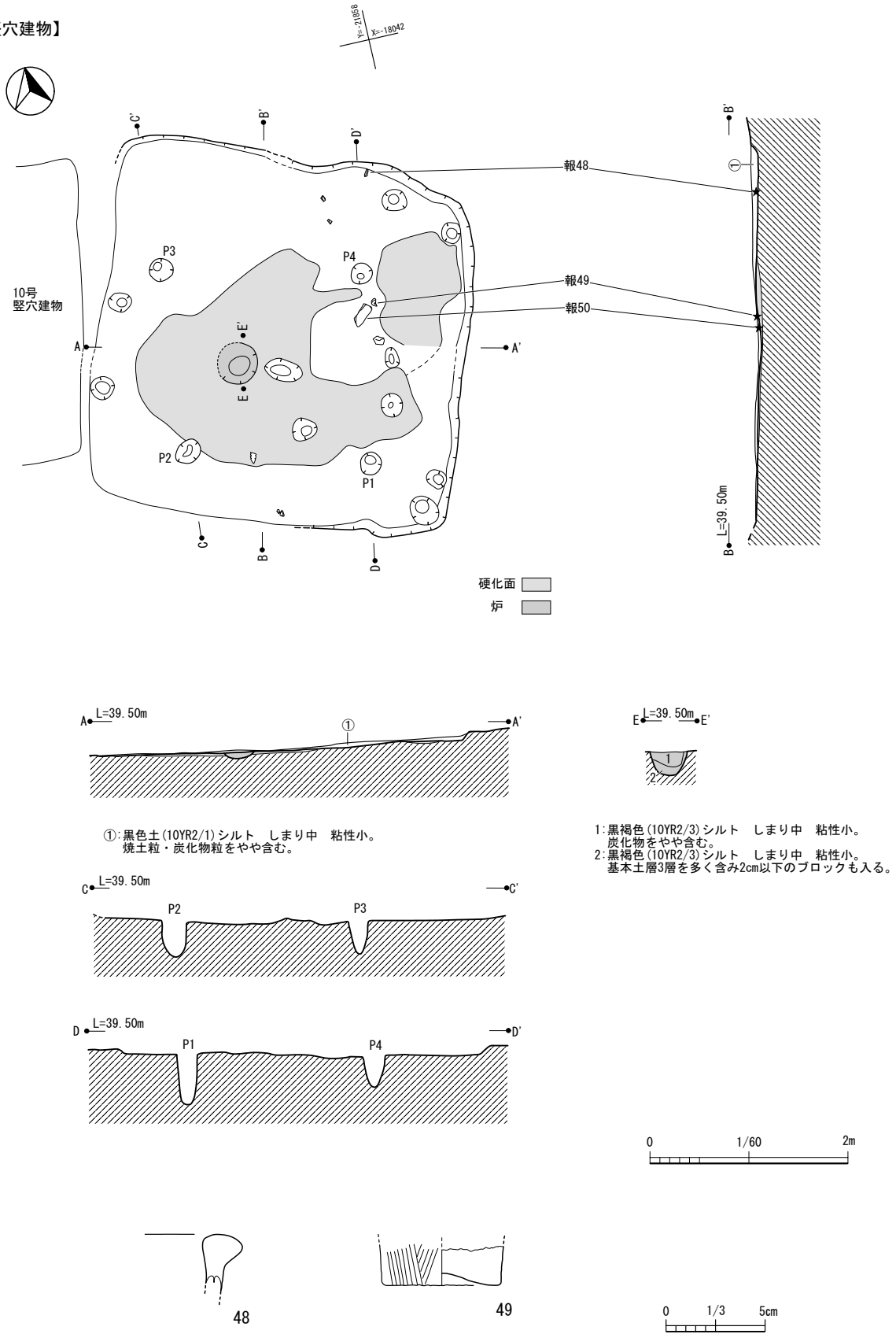
第29図 10号竪穴建物(S205)実測図及び出土遺物実測図

11号竪穴建物【S206】(第30・31図、図版9・22)

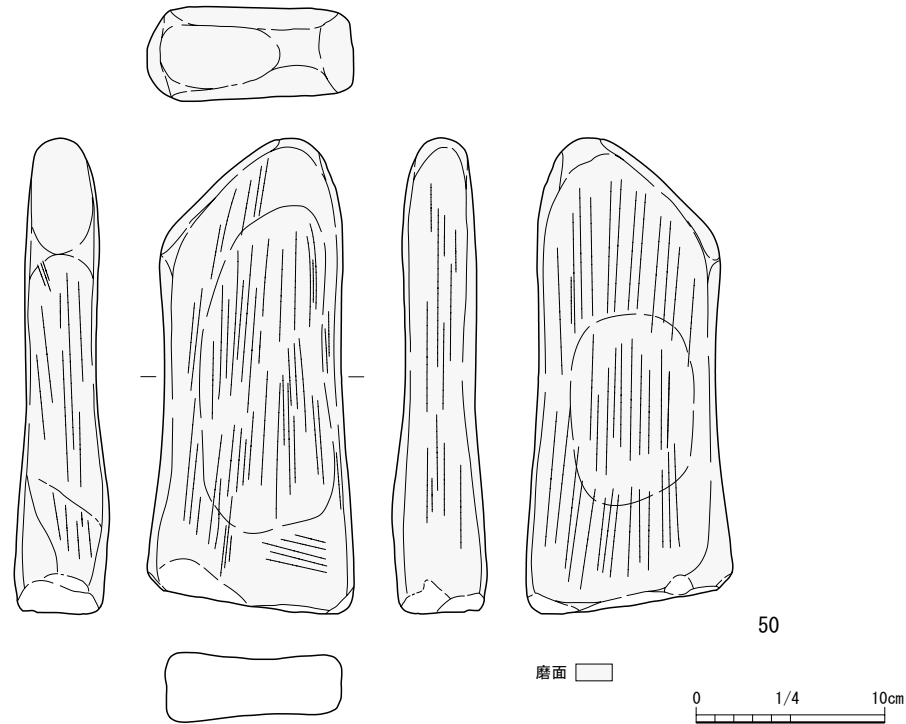
2区の南側B-13・C-13グリッドにまたがって位置する竪穴建物と考えられる。長軸約3.76m、短軸約3.74m、深さ約0.26mで、平面形の形状は方形である。10号竪穴建物と接していたが、切り合い関係は確認できなかった。しかし、すでに削平された部分で切り合い関係があったのかもしれない。硬化面は部分的ではあるが確認することができた。炉は中心から少しずれた位置で確認することができた。柱はP1～P4の4本柱を想定している。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片や砥石が出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期前半の可能性がある。

出土遺物(遺物番号)48・49は弥生土器の甕の一部である。48は厚みのある口縁部である。49は甕の脚部で、直に立ち上がり底部はわずかに上げ底となり、端部は丸みを帯びていない。いずれも弥生時代中期前半のものと思われる。50は砂岩製の砥石である。全面に使用痕があり、表裏共に中央がくぼむ。

【11号竖穴建物】



第30図 11号竖穴建物(S206)実測図及び出土遺物実測図



第31図 11号竪穴建物建物(S206)出土遺物実測図

12号竪穴建物【S203】(第32図、図版9・10・22)

2区の南側B-13・B-14グリッドにまたがって位置する竪穴建物である。長軸約3.28m、短軸約2.98m、深さ約0.17mで、平面形の形状は方形である。炉は中心よりやや南側にずれて位置し、貯蔵穴は東壁の北側付近に位置する。硬化面は炉の周辺部のみわずかに確認できた。柱はP1～P4の4本柱を想定した。しかし、全体的に壁に近い。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片がわずかに出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期前半の可能性はある。

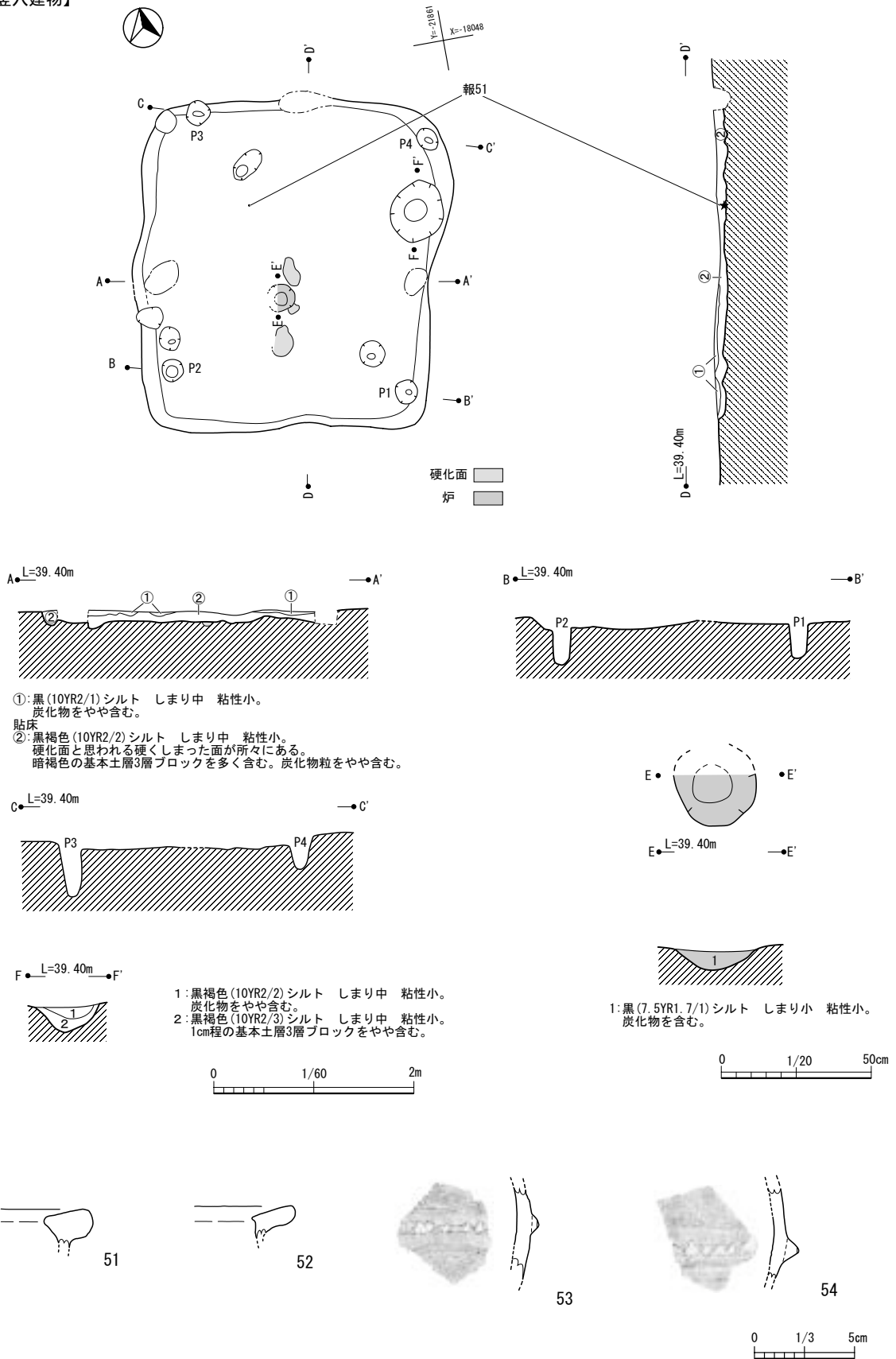
出土遺物(遺物番号)51～54は弥生土器である。51・52は甕の口縁部である。51は厚みのある口縁部で、52は内外面に赤彩があるが、剥落がはげしい。53・54は刻目突帯を持つ甕の胴部である。

13号竪穴建物【S202】(第33・34図、図版10・22)

2区の南側B-14・B-15・C-14・C-15グリッドにまたがって位置する竪穴建物である。長軸約4.11m、短軸約3.08m、深さ約0.39mで、平面形の形状は方形である。14号竪穴建物に切られている。埋土は、重機による削平を受けほとんど残っていなかった。更に、削平は硬化面にまで達しており、竪穴建物中央部では硬化面を確認できなかった。貯蔵穴は、竪穴建物の東側壁中央付近で確認できた。炭化物や細かい焼土を含む掘り込みをほぼ中央で検出したが、削平を受けている場所であり、炉の可能性を指摘するにとどめたい。柱はP1とP2の2本柱を想定した。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片等がわずかに出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期前半の可能性はある。

出土遺物(遺物番号)55は弥生土器の甕の脚部で、ややくびれており、底部は上げ底となる。脚部にくびれないものに比べ上げ底がやや深くなる。弥生時代中期前半のものと思われる。56は欠損しているが、端部に敲打痕がある敲石である。その他表裏中央に被熱を受けた石が1点、貯蔵穴から3点出土しているが、加工痕や使用痕などは確認できなかったため、写真図版のみ掲載している。

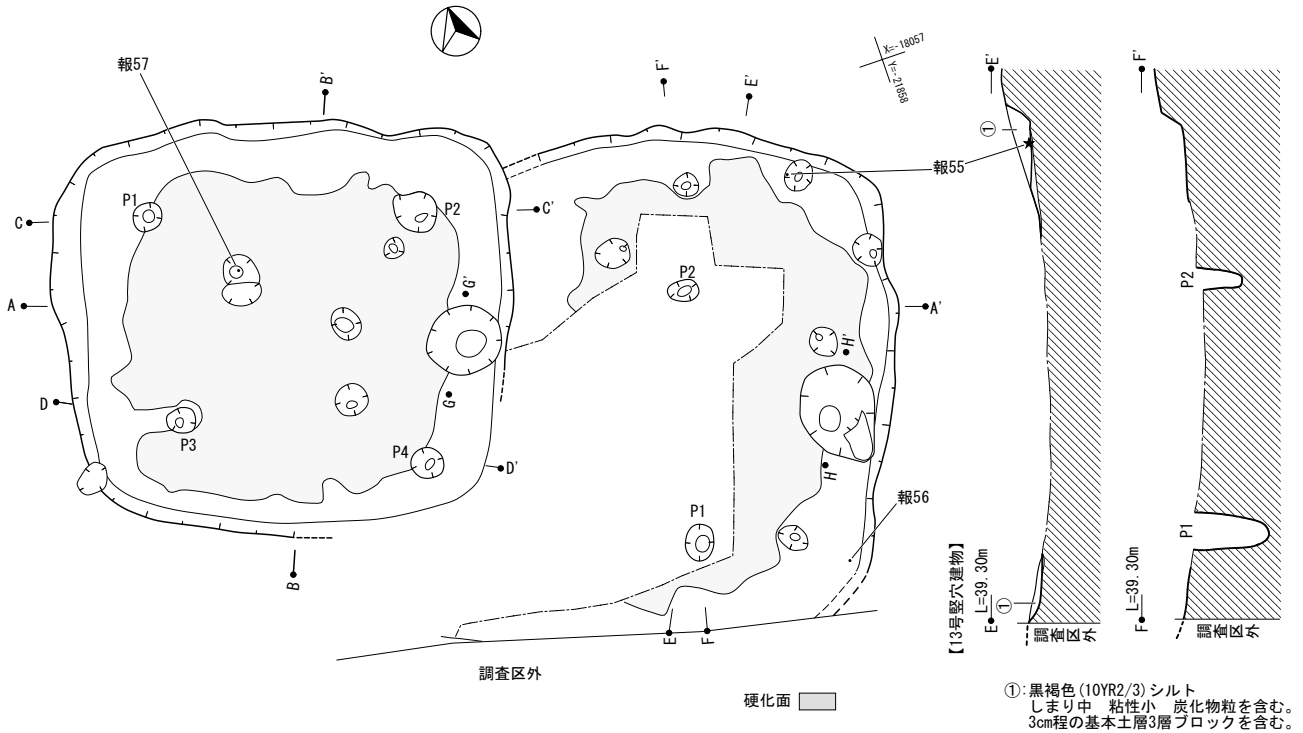
【12号竪穴建物】



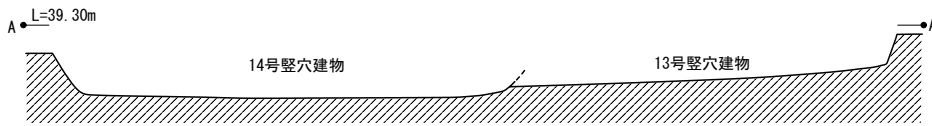
第32図 12号竪穴建物(S203)実測図及び出土遺物実測図

【14号竪穴建物】

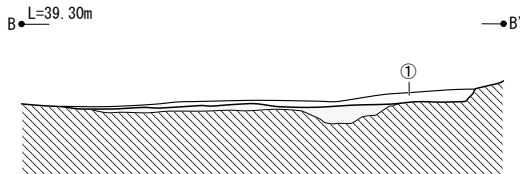
【13号竪穴建物】



①: 黒褐色(10YR2/3)シルト
しまり中 粘性小 炭化物粒を含む。
3cm程の基本土層3層ブロックを含む。

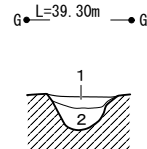


【14号竪穴建物】



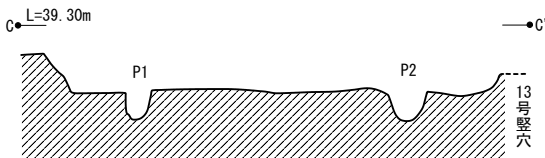
①: 暗褐色(10YR3/3)シルト しまり中 粘性小。
基本土層3層の褐色の砂や硬質のブロックを多く含む。
炭化物・焼土粒が入る。

【14号竪穴建物】

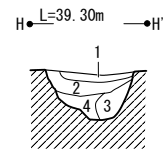


1: 黒褐色(10YR2/3)シルト しまり中 粘性小
硬質砂層を3cm以下のブロックで含む炭化物もやや入る。
2: 暗褐色(10YR3/4)シルト しまり小 粘性小
細かい砂質炭化物もやや入る。

【14号竪穴建物】

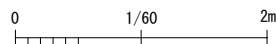
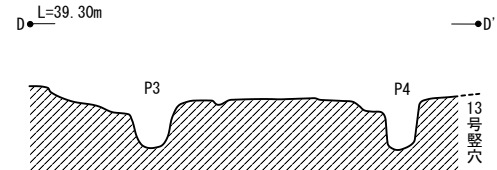


【13号竪穴建物】



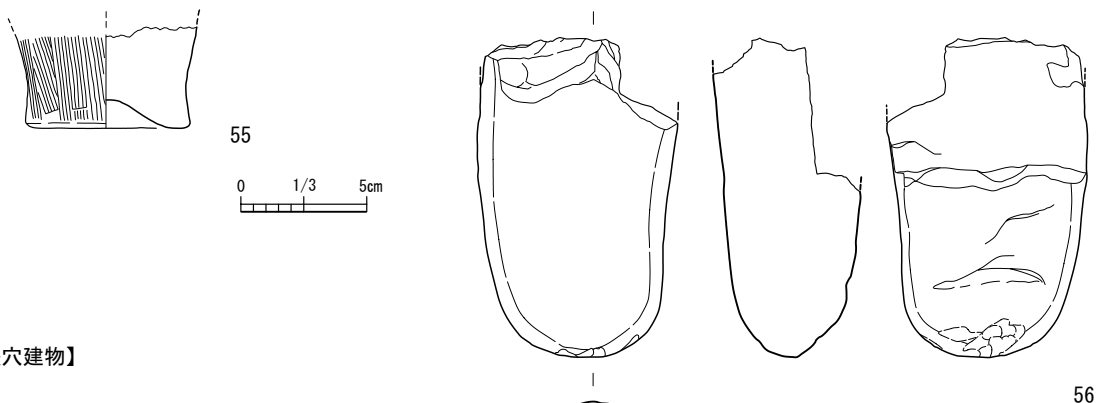
1: 暗褐色(10YR3/3)シルト しまり中 粘性小
炭化物粒、焼土粒を含み粗い。
2: 暗褐色(10YR3/4)シルト しまり中 粘性小
炭化物、焼土(①より大きい1mm大)を含みきめ細かい。
3: 暗褐色(7.5YR3/4)シルト しまり中 粘性小
炭化物、焼土を含む。基本土層3層を多く含む。
4: 暗褐色(10YR3/4)シルト しまり小 粘性中
炭化物、焼土を含む。

【14号竪穴建物】

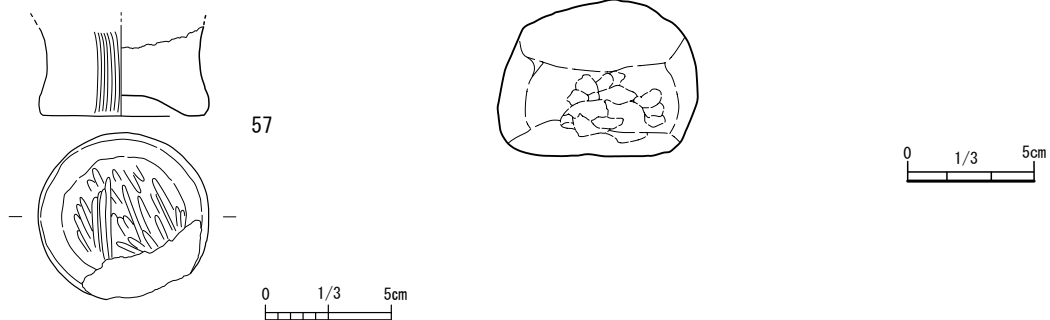


第33図 13・14号竪穴建物(S202・S201)実測図

【13号竪穴建物】



【14号竪穴建物】



第34図 13・14号竪穴建物(S202・S201)出土遺物実測図

14号竪穴建物【S201】(第33・34図、図版10・24)

2区の南側B-14グリッドに位置する竪穴建物である。長軸約3.66m、短軸約3.28m、深さ約0.35mで、平面形の形状は方形である。13号竪穴建物を切る。遺構上部は、カクランを受け削平されていた。更に、13号・14号竪穴建物を検出した場所は、調査区の中でも低い部分で、雨水のたまる部分であった。雨水の影響もあり、検出も掘削も難しく硬化面は確認できたが、埋土はほとんど残っていないという状態だった。竪穴建物東側の壁中央付近に、貯蔵穴は確認できたが、炉は確認できなかった。ただ、竪穴建物の中央付近の埋土に焼土と炭化物がわずかに見られた。柱はP1～P4の4本柱を想定した。竪穴建物の埋土からは、土器の小破片等がわずかに出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、竪穴建物の時期は、形状や遺物から弥生時代中期前半の可能性がある。

出土遺物(遺物番号)57は弥生土器の甕の脚部でややくびれており、底部はわずかに上げ底でミガキ痕がある。弥生時代中期前半のものと思われる。その他表裏全体に被熱を受けた石が1点出土しているが、加工痕や使用痕などは確認できなかったので、写真図版のみ掲載している。

甕棺墓

今回の調査で、2区の北側C-10グリッドを中心にC-9グリッドにまたがって甕棺墓が3基検出された。北には4号竪穴建物、西には5号竪穴建物、南には3号・6号竪穴建物の4軒の竪穴建物に囲まれている。当初は土坑を想定して掘削を進めていった。2号甕棺墓は、半裁作業の時点で、上甕が確認でき甕棺墓であるとの判断ができた。しかし、1号・3号甕棺墓は、想定した土坑を完掘しても甕棺は確認できなかった。1号・3号甕棺墓共に、想定した土坑の掘方北壁下部の一部だけ色調が異なる部分があったため、その部分を掘削すると甕棺が出土した。3基の甕棺墓の掘方に切り合いはないことから、時期差は大きくはないと思われる。ただ甕棺の埋納の仕方から考えると、最も深い位置にある1号甕棺墓がつくられた後に2号・3号甕棺墓がつくられたと考えられる。

1号甕棺墓【S230】（第35～37図、図版10・11・23）

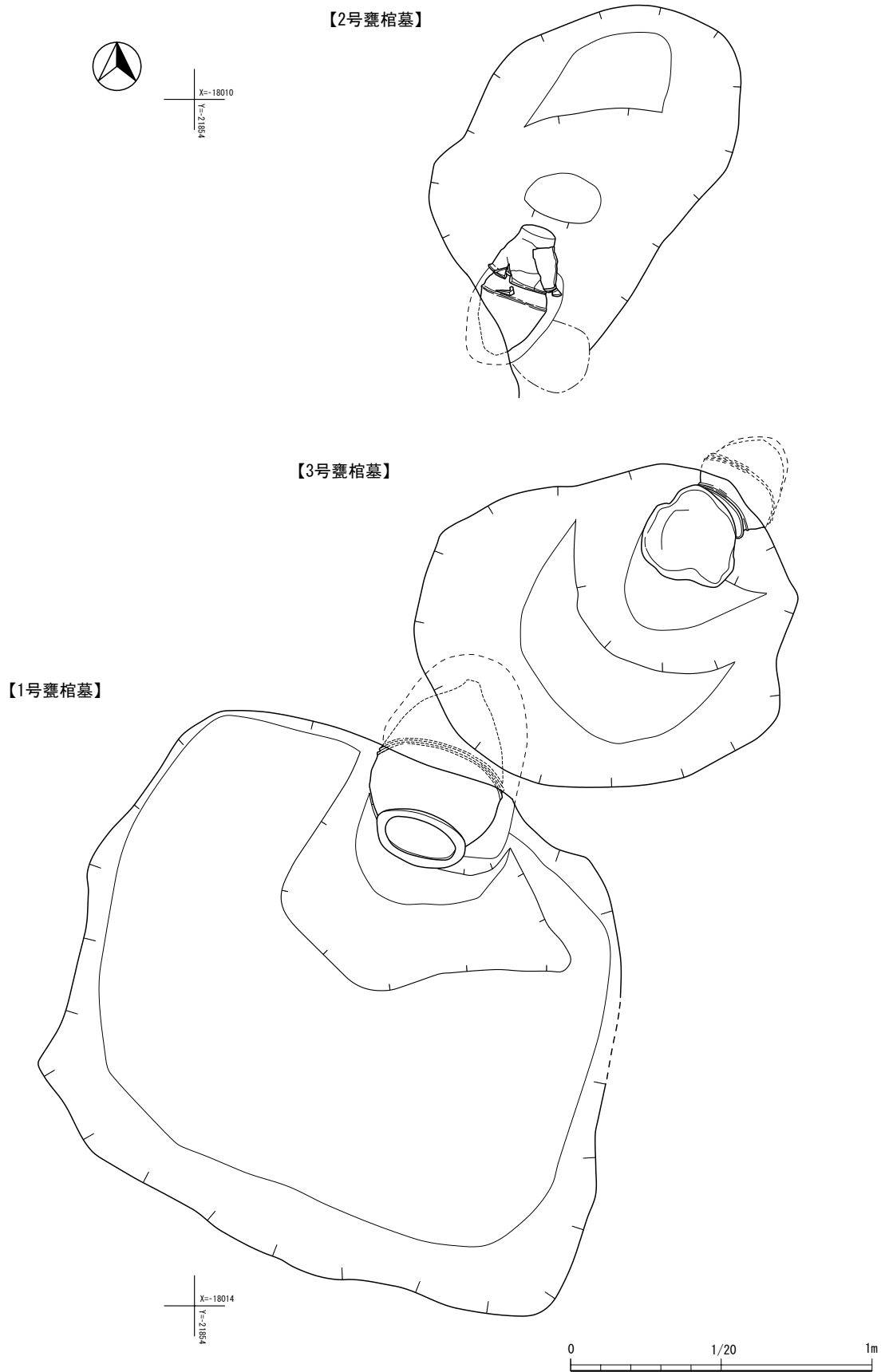
2区の北側C-10グリッドに位置する甕棺墓である。3基の中で最も南側に位置するとともに、最も深い位置に埋納されていた。掘方の規模は長軸約1.86m、短軸約1.72m、深さ約1.53mで、平面形の形状はほぼ方形である。甕棺の埋設方位はN-19.4度-E、埋納角度は32度で、掘方の北壁中央下方より硬質砂層を斜めに掘り込まれて埋納されていた。組み合わせは、下甕の甕のみである。埋土は分層でき、北側からと南側から土が交互に入れられている様子が見られる堆積状況であった。本遺構が、他の2基の甕棺墓と異なる点は、下甕はほぼ完形で出土したが、上甕は確認できなかったことである。上甕の破片もなく、石蓋も出土しなかった。木蓋の可能性も考え土層断面を注意深く観察したがその痕跡の確認はできなかった。しかし、埋納する際に蓋をしなかったとは考えにくい。木蓋で厚みのないものを使用していたので、痕跡を見つけることができなかったと思われる。下甕の中は、埋土⑨の砂質土で満たされていた。人骨や副葬品等の遺物はなかった。甕棺墓の時期は、甕棺の特徴から弥生時代中期前半と考えられる。

出土遺物（遺物番号）58は下甕の甕で、口径24.3cm、器高64.2cm、最大胴径50.8cm、底径10.7cmで、3基の甕棺の中では最も大きな甕棺である。口縁部は内側に張り出し、口唇部は広く、わずかな段差を2か所持ち外側に傾く。体部は大きく張り出し、口縁部外端よりも最大胴径が大きくなる。2条の突帯が最大胴径のすぐ下にめぐる。底部は平らで脚を持たない。外面にはハケメが見られるが、上下方向に一つの単位が長く引かれている。これらの特徴から弥生時代中期前半のものと考えられる。また、突帯のすぐ上に直径5cm程の穿孔があったのだが、土に接する部分にあり水の影響を受け器壁がかなり脆くなっていたため、取り上げの際破損してしまい、復元することができず、図化もできなかった。

2号甕棺墓【S228】（第35・38・39図、図版11・12・23・24）

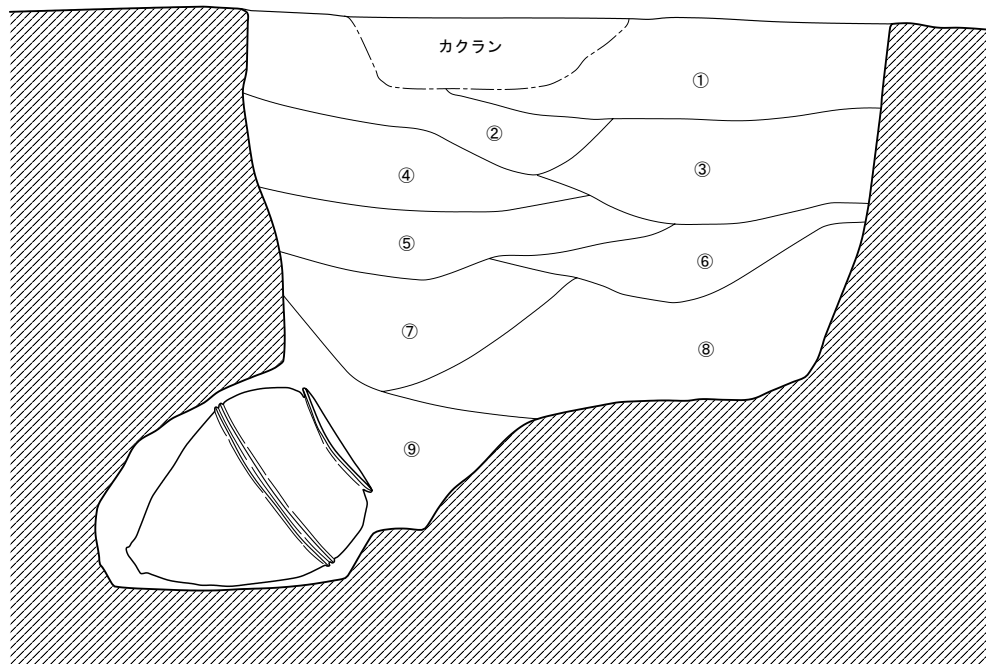
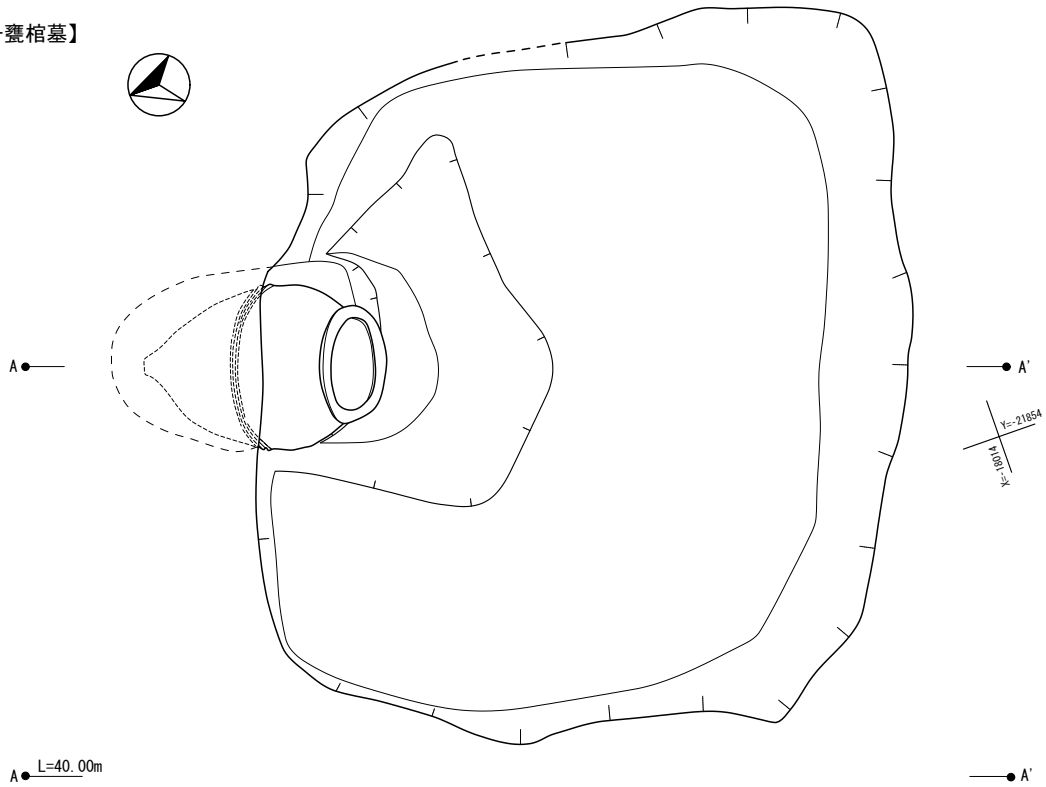
2区の北側C-9・C-10グリッドに位置する甕棺墓である。掘方の規模は長軸約1.37m、短軸約0.79m、深さ約0.55mで、平面形の形状は楕円に近い不定形である。甕棺の埋設方位はN-18度-E、埋納角度は18度で、掘方の南壁ほぼ中央下方に斜めに掘り込まれたところに、甕棺が埋納されていた。甕棺は、上甕の鉢と下甕の壺の組み合わせで下甕はほぼ完形であった。下甕に対して上甕が大きく、下甕の頸部まで上甕がかぶっていた。甕棺の中には埋土①と同じ土で満たされていた。埋納後、甕棺の割れ目から混入したと思われる。埋土を観察すると、甕棺を埋納した後一気に埋め（埋土②）、それから掘方の部分を一気に埋めた（埋土①）ようである。人骨や副葬品等の遺物はなかった。甕棺墓の時期は、甕棺の特徴から弥生時代中期後半と考えられる。

出土遺物（遺物番号）59は上甕の鉢で、口径29.3cm、器高15.9cm、底径11.3cmである。口縁部は内側に傾

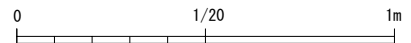


第35図 1号甕棺墓(S230)・2号甕棺墓(S228)・3号甕棺墓(S229)実測図

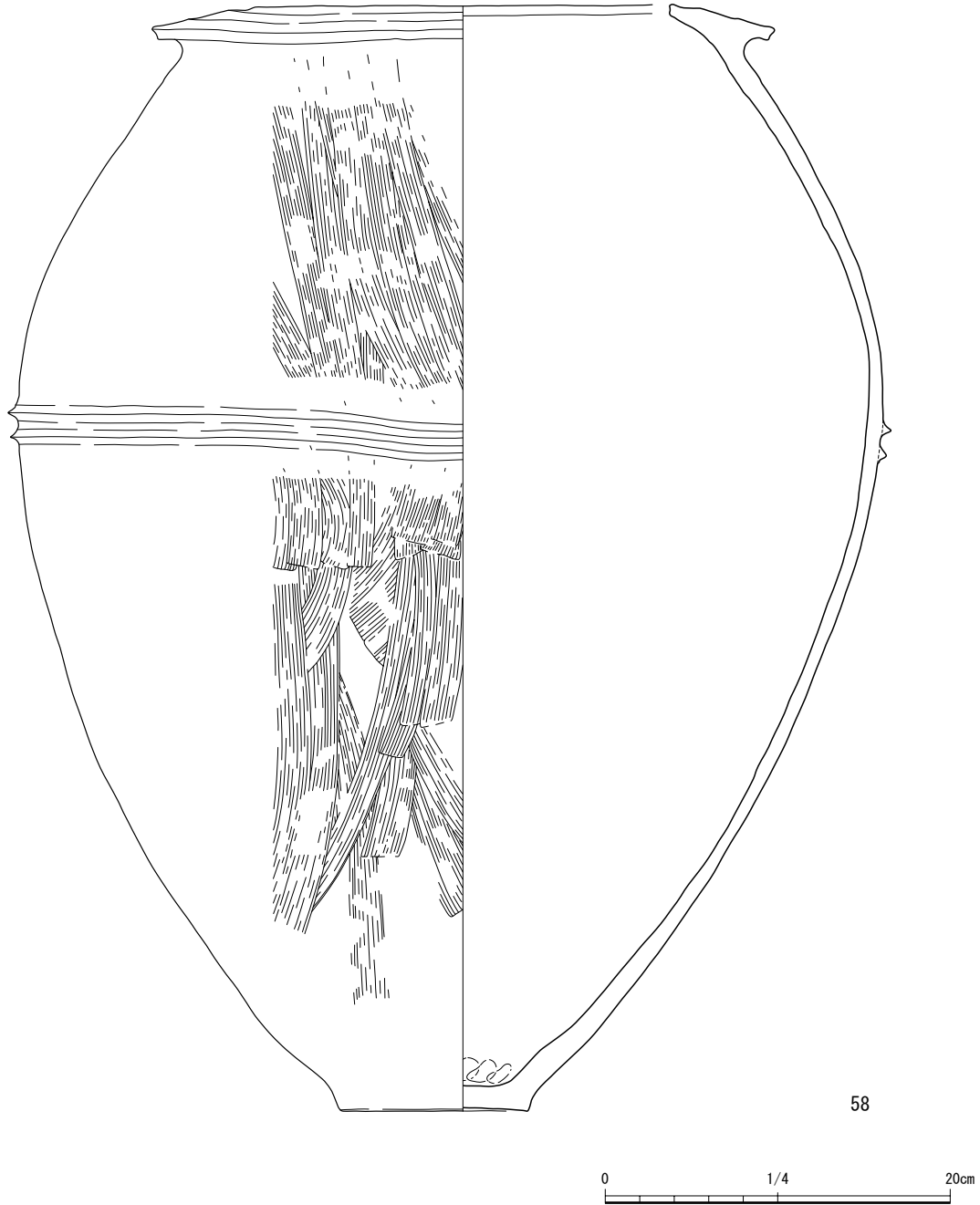
【1号甕棺墓】



- ①: にぶい黄褐(10YR4/3) しまりあり 粘性なし。
硬質砂層の中ブロックを転々と含む。部分的に黒っぽい土が混入するが明るい印象。
- ②: 暗褐(10YR3/3) しまりあり 粘性なし。
部分的に硬質砂のブロックを含むが、全体からすると混じりは少ない。
- ③: 黒褐(10YR3/1) しまりあり 粘性なし。
カーボン、焼土を小粒子でわずかに含む。硬質は少ない。
- ④: 灰黄褐(10YR4/2) しまりあり 粘性なし。
上部には明るい土、下部には暗い土が混入する。硬質砂のブロックは少ない。
- ⑤: 黒褐(10YR3/2) しまりあり 粘性なし。
明るい土が多く入り、全体的に明るい印象。硬質ブロックが多く混入する。
- ⑥: 黒褐(10YR3/2) しまりあり 粘性なし。
明るい黄褐色の土と黒の土をブロックで含む。硬質の混じり少ない。
- ⑦: 暗褐(10YR3/3) しまりあり 粘性なし。
砂質が強くなる。硬質ブロックの混入は少なくなる。
- ⑧: 黒褐(10YR3/1) しまりあり 粘性なし。
下部から小礫が出土。黒味が強い。硬質ブロックも含む。
- ⑨: 黒褐(10YR3/1) しまりなし 粘性なし。綺麗な砂。甕棺の中にも入る。

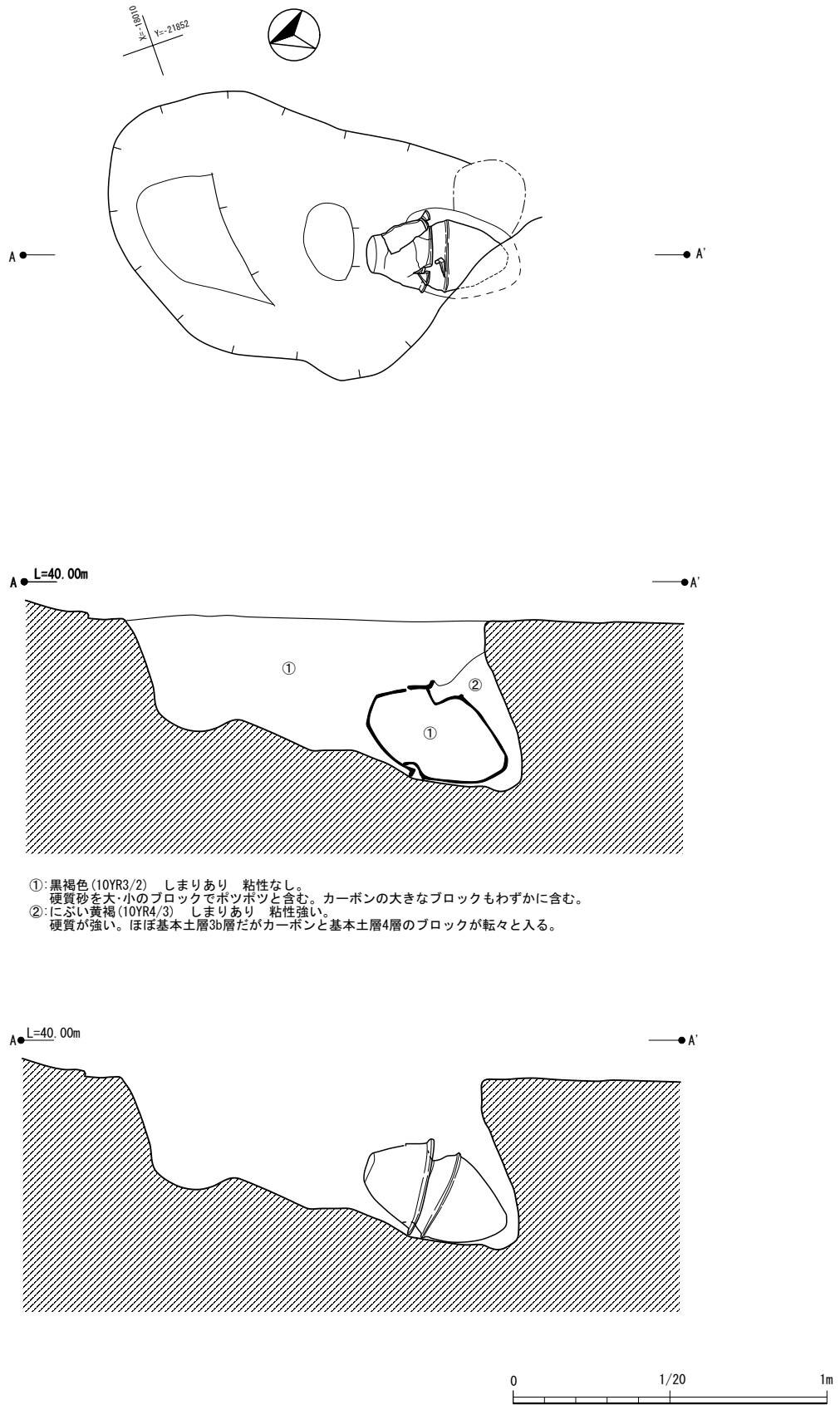


第36図 1号甕棺墓(S230)実測図及び断面図

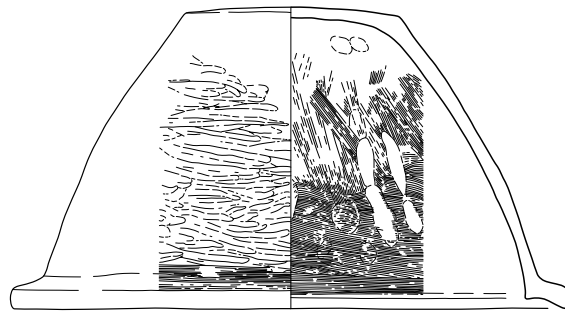


第37図 1号甕棺墓(S230)甕棺実測図

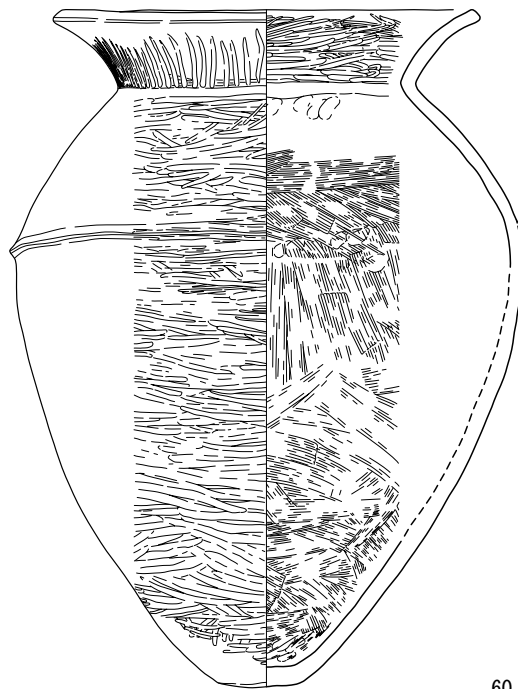
【2号甕棺墓】



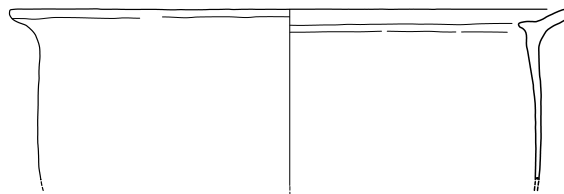
第38図 2号甕棺墓(S228)実測図及び断面図



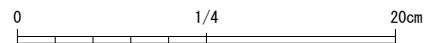
59



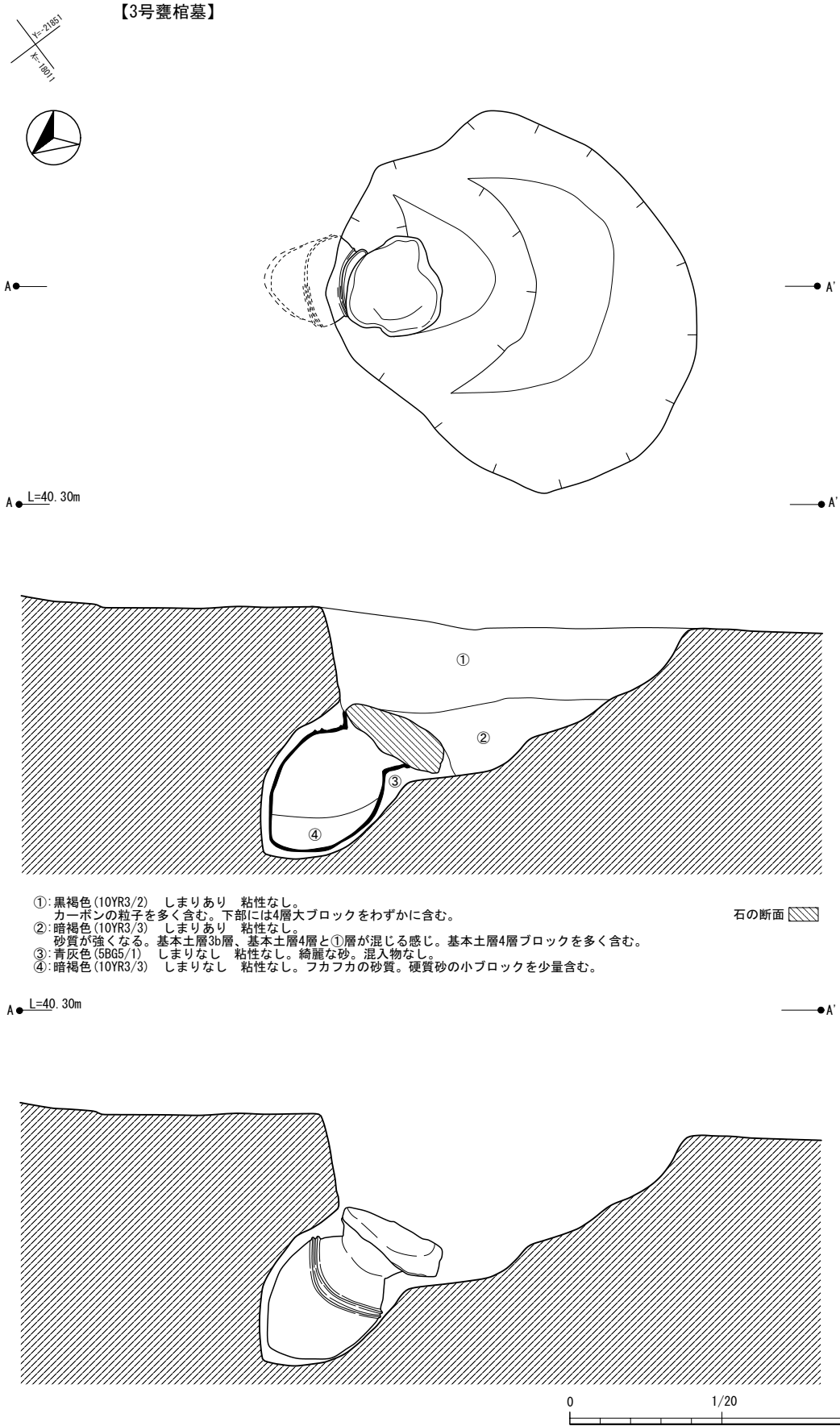
60



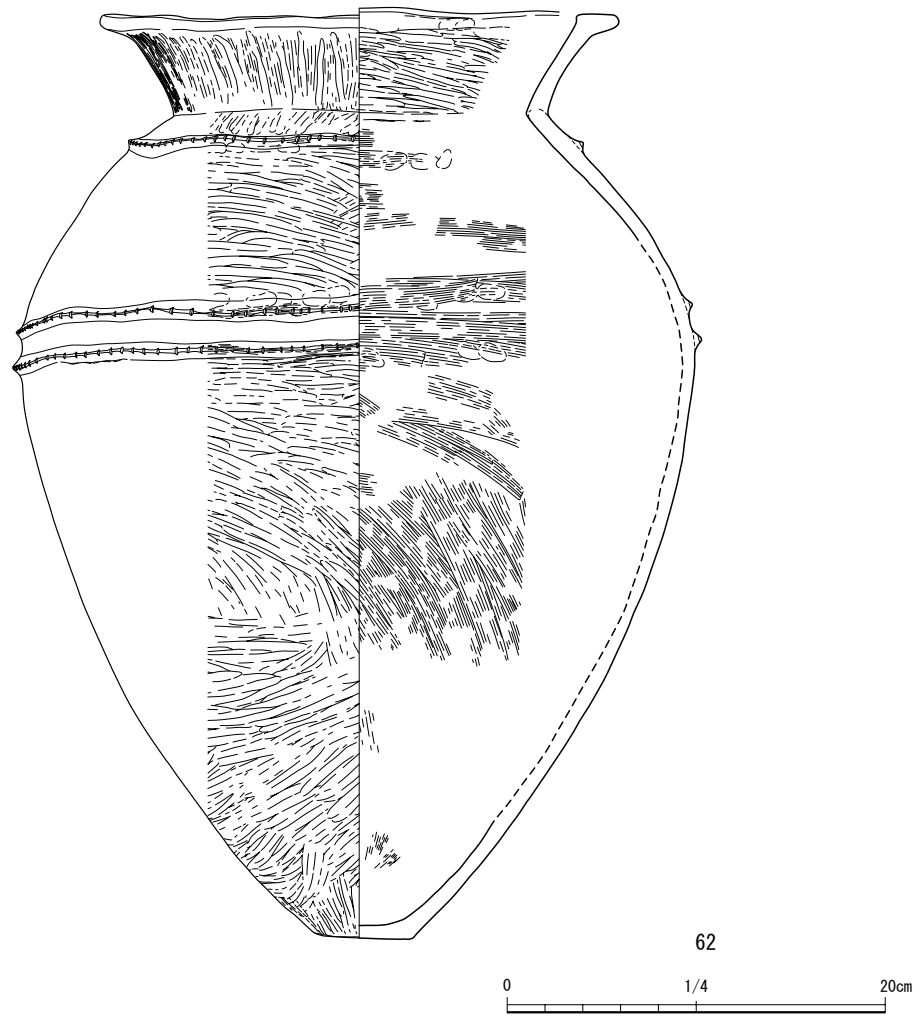
61



第39図 2号甕棺墓(S228)甕棺及び出土遺物実測図



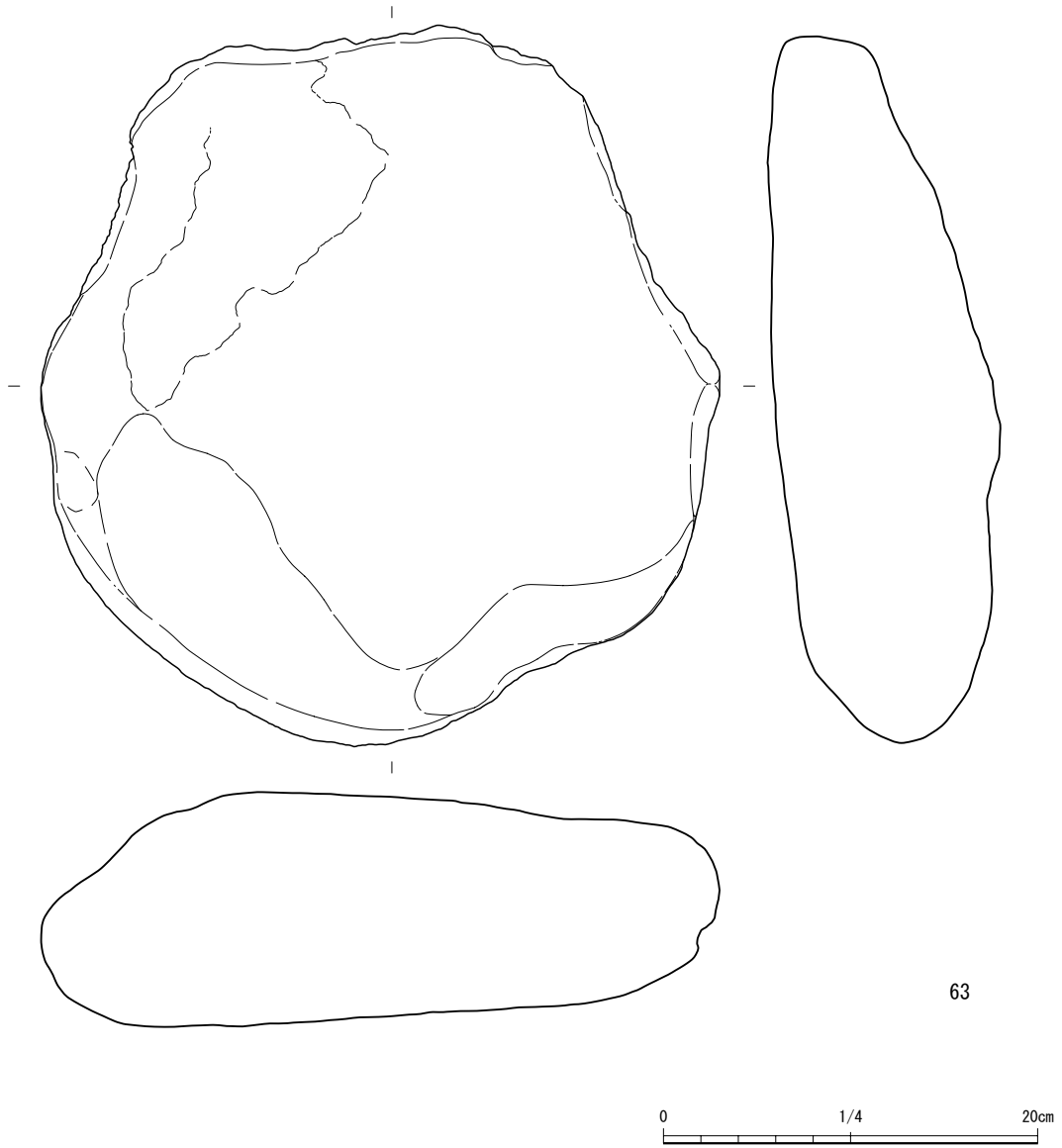
第40図 3号甕棺墓(S229)実測図及び断面図



第41図 3号甕棺墓(S229)甕棺実測図

表5 上南部遺跡甕棺一覧表

遺構名	報番	挿図 No.	図版 No.	調査 区	出土地点		規模	埋設方位	埋納 角度	残存度	器種	法量(cm)				備考
					調査時	種別						口径	器高 (残存)	最大 胴径	底径	
1号甕棺墓	58	37	23	2	S230	甕棺墓	小型	N-19.4° -E	32	完形	甕	24.3	64.2	50.8	10.7	張り出し部に2条の突帯 黒斑あり、内外ともに剥落が顕著
2号甕棺墓	59	39	23	2	S228	甕棺墓	小型	N-18° -E	13	完形	鉢	29.3	15.9	—	11.3	黒斑あり
2号甕棺墓	60	39	23	2	S228	甕棺墓	小型	N-18° -E	18	完形	壺	21.6	35.9	27.1	4.6	突帯付近及び底部の一部に黒斑あり 頸部に暗文
3号甕棺墓	62	41	23	2	S229	甕棺墓	小型	N-40° -E	49	完形	壺	27.5	49.3	36.3	5.3	胴部に黒斑あり。内面頸部～底部に かけて剥落が顕著 頸部に暗文



第42図 3号甕棺墓(S229)石蓋実測図

表6 上南部遺跡甕棺墓石蓋一覧表

遺構名	報番	挿図 No.	図版 No.	調査 区	出土地点		遺物 種類	法量 (cm)				材質	備考
					調査時	種別		長さ	幅	高さ	重量 (g)		
3号甕棺墓	63	42	23	2	S229	甕棺墓	石蓋	38.50	36.25	12.50	200,100	安山岩?	部分的にもろく表面がはがれやすい。 人為的な加工の痕跡は観察されない

き、わずかに内側に張り出し、上面はわずかにくぼむ。底部は広く平底である。60は下甕の壺で、口径21.6cm、器高35.9cm、最大胴径27.1cmである。「く」の字型の口縁部で、最大胴径は高い位置にあり、そこに1条の突帯がめぐる。頸部には暗文が施されている。底部は平底となり、脚を持たない。61は掘方埋土①から出土した弥生土器の甕の口縁～胴部で、甕棺とは別個体のものである。口縁部は内側に傾き、内側に張り出す。体部の器壁は非常に薄い作りである。第39図では縮尺4分の1で反転復元して図化している。これらの特徴からいずれも弥生時代中期後半のものと考えられる。

3号甕棺墓【S229】（第35・40・41・42図、図版12・23）

2区の北側C-10グリッドに位置する甕棺墓である。掘方の規模は長軸約1.21m、短軸約1.19m、深さ約0.82mで、平面形の形状は楕円形である。甕棺の埋設方位はN-40度-E、埋納角度は49度で、掘方の北東角に斜めに硬質砂層をくりぬいたところに甕棺が埋納されていた。石蓋と下甕の壺の組み合わせである。土層断面を観察すると、甕棺の部分を一気に埋め、後に掘方部分を一気に埋めている。壺は完形で、中には硬質砂の小ブロックを少量含む砂質土（埋土④で埋土②の土と似ている）が3分の1程度入っており、上方は空洞であった。人骨や副葬品等の遺物はなかった。甕棺墓の時期は、甕棺の特徴から弥生時代中期後半と考えられる。

（遺物番号）62は下甕の壺である。口唇部は平坦で内側にわずかに張り出す。頸部の下に1条の刻目突帯がめぐる。最大胴部はやや上側にあり、2条の刻目突帯がめぐる。底部は平底である。63は石蓋である。直径38.5cmの円形の石で厚さは12.5cmの平らであった。また、埋土から少量の土器細片が出土したが、細片のため図化していない。

溝状遺構

今回の調査で、2区のD-10～D-12・C-11～C-13グリッドにまたがって南北に延びる溝状遺構が3条検出された。検出時は1条の溝を想定していたが、溝の中央部で複数の土層断面で確認した結果、3条の溝であると判断した。約12mある3号溝と5号溝が約5mの4号溝を挟み、一見すると1条の溝に見える形になる。それぞれの溝状遺構の埋土からの遺物は、少量かつ細片のため、時期を判断することはできなかった。また、土層断面より流水の痕跡も確認できず、遺構の性格もわからなかった。

3号溝【S216】（第43図、図版12）

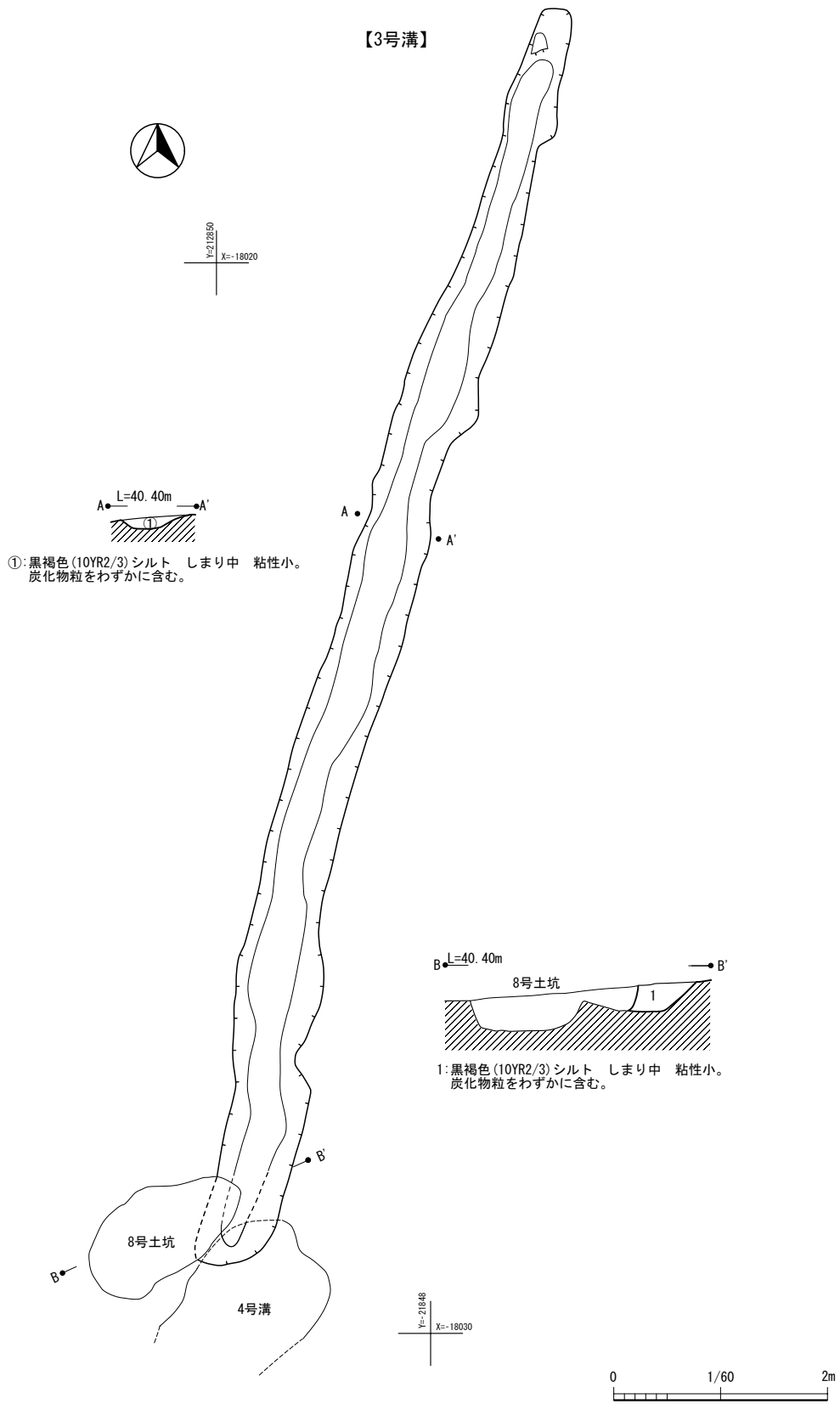
2区のD-10・D-11・C-11グリッドにまたがって南北に延びる溝状遺構である。最大幅約0.74m、長さ約12.11m、深さ約0.13mである。8号土坑に切られ、4号溝を切る。北から南へと傾斜する。

4号溝【S217】（第44図、図版13）

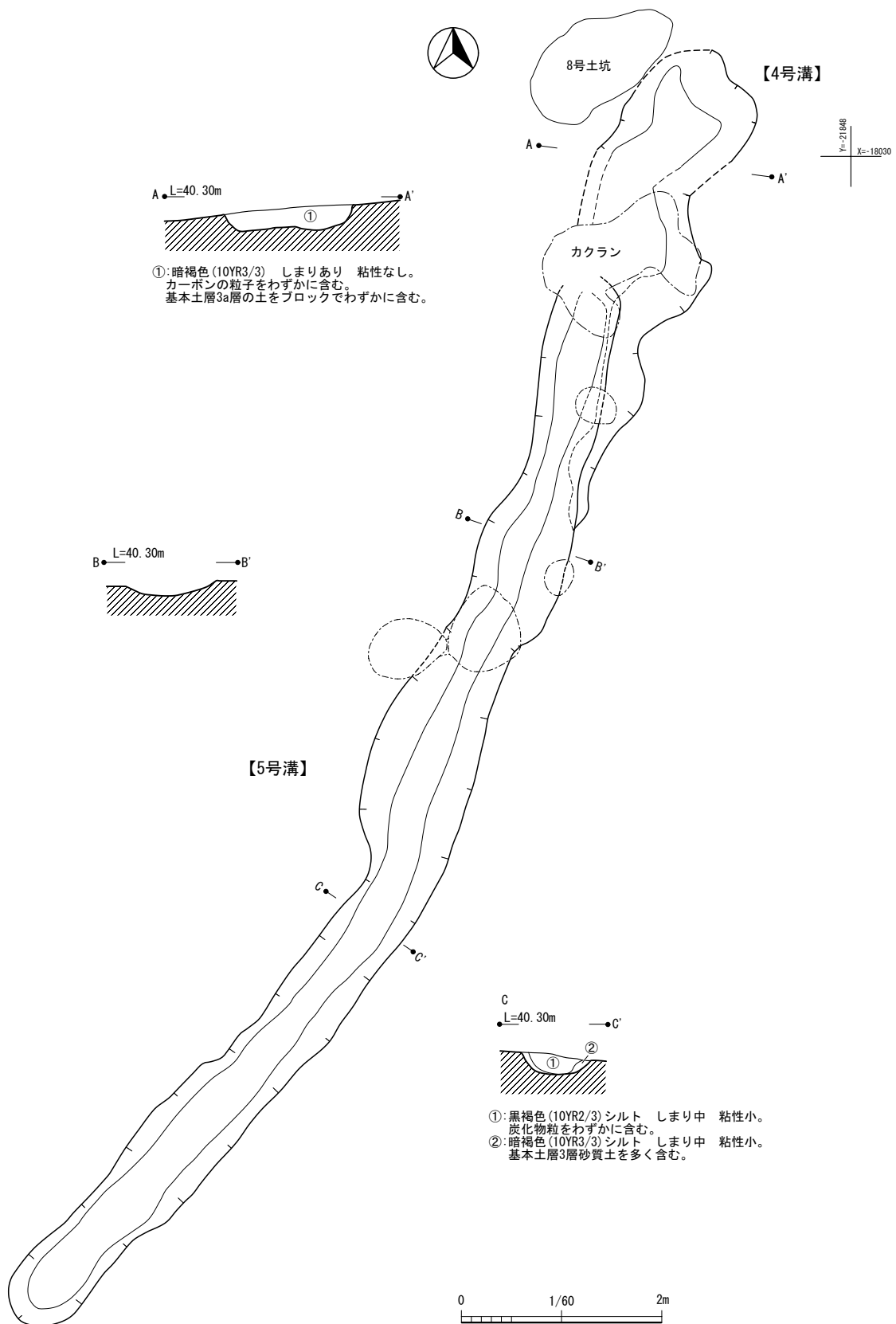
2区のC-11・C-12・D-11・D-12グリッドにまたがって位置する溝状遺構である。最大幅約1.21、長さ約4.98m、深さ約0.27mである。3号・5号溝に切られる。遺構の一部がピット状に深くなっている。

5号溝【S214】（第44図、図版13）

2区のC-12・C-13グリッドにまたがって南北に延びる溝状遺構である。大きさは最大幅約1.08m、長さ約12.11m、深さ約0.21mである。4号溝を切る。北から南へと傾斜する。南側は緩やかに西に湾曲していき、徐々に浅くなり調査区の途中で途切れる。



第43図 3号溝状遺構(S216)実測図



第44図 4・5号溝状遺構(S217・S214)実測図

土坑

4号土坑【S231】(第45図、図版13)

2区の北側B-9グリッドに位置する土坑である。西側は調査区外に展開する。長軸約1.50m以上(調査区外に延びる)、短軸約1.02m、深さ約0.41mで、平面形の形状は楕円形である。甕棺墓を検出した後での、同規模の土坑の検出だったので注意深く掘削をしたが、甕棺は存在せず土坑と判断した。土坑の埋土からの遺物は、少量かつ細片のため、遺構の時期や性格を判断することはできなかった。

5号土坑【S232】(第45図、図版13)

2区の北側B-9・B-10グリッドにまたがって位置する土坑である。長軸約0.81m、短軸約0.80m、深さ約0.28mで、平面形の形状は円形である。甕棺墓を検出した後での、同規模の土坑の検出だったので注意深く掘削をした。結果的に浅い土坑と判断した。土坑の埋土からの遺物は、少量かつ細片のため、遺構の時期や性格を判断することはできなかった。

6号土坑【S219】(第45図、図版14・24)

2区の北側B-10グリッドに位置する土坑である。長軸約2.06m、短軸約1.06m、深さ約0.41mで、平面形の形状は長方形である。5号竪穴建物を切る。検出時は、5号竪穴建物の一部と考えていたので平面形態がいびつな竪穴建物となった。納得のできる平面形態ではなかったのでトレンチを設定し、土層断面で確認することにした。すると本遺構がより深く、切り合い関係も確認することができたので、5号竪穴建物とは別個の土坑と判断した。土坑の埋土からの遺物は、少量かつ小破片のため、遺構の時期や性格を判断することはできなかった。

出土遺物(遺物番号)64は弥生土器の甕または壺の底部である。底部は厚く、体部は徐々に薄くなっている。その他長径41cm、短径31cm、厚さ15cmの台石を写真図版のみで掲載している。

7号土坑【S233】(第45図、図版14)

2区の北側C-10・D-10グリッドに位置する土坑である。長軸約1.49m、短軸約1.23m、深さ約0.79mで、平面形の形状はいびつな楕円形である。甕棺墓を検出した後での、同規模の土坑の検出だったので注意深く掘削をしたが、甕棺は存在せず土坑と判断した。土坑の埋土からの遺物は、少量かつ細片のため、遺構の時期や性格を判断することはできなかった。

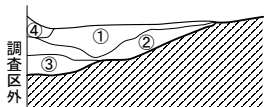
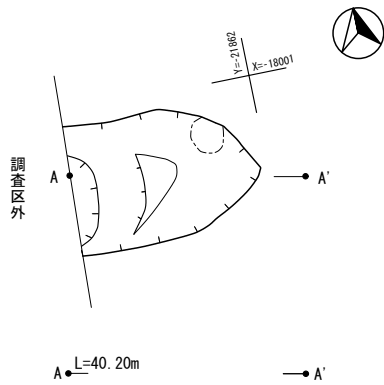
8号土坑【S221】(第46図、図版14)

2区のはほぼ中央C-11・D-11グリッドに位置する土坑である。長軸約1.59m、短軸約0.83m、深さ約0.45mで、平面形の形状は楕円形である。3号溝を切る。土坑の埋土からの遺物は、少量かつ細片のため、遺構の時期や性格を判断することはできなかった。

9号土坑【S210】(第46図、図版14・24)

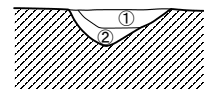
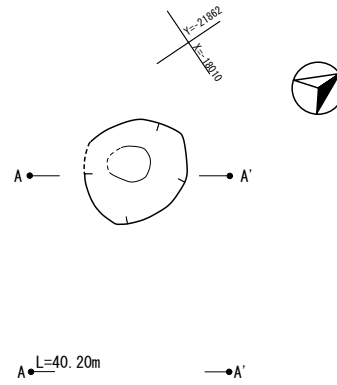
2区のはほぼ中央C-11・D-11グリッドに位置する土坑である。長軸約1.83m、短軸約1.39m、深さ約0.46mで、平面形の形状は楕円形である。壁は立ち上がり急で遺構底部も平らでとても整った作りであった。土坑の埋土からは、土器の小破片がわずかに出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、土坑の時期は、遺物から弥生時代中期前半の可能性はある。

【4号土坑】



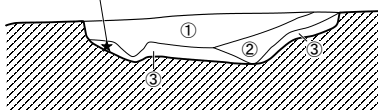
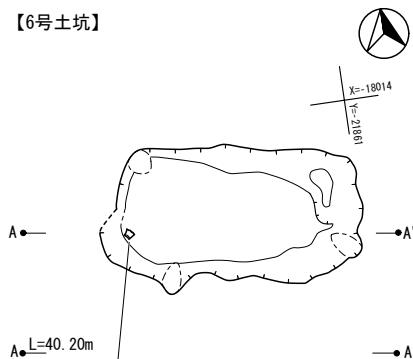
- ①: 黒褐色 (10YR2/2) シルト しまり中 粘性小。
- ②: 黒褐色 (10YR2/3) シルト しまり中 粘性小。
基本土層3層砂質土を含み硬質ブロックも1cm以下でやや入る。
- ③: 暗褐色 (10YR3/3) シルト しまり中 粘性中。
基本土層3層をまだらに含む。
- ④: 黒色 (10YR2/1) シルト しまり小 粘性小。

【5号土坑】



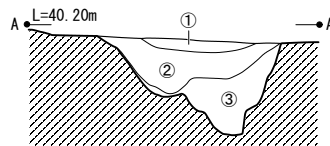
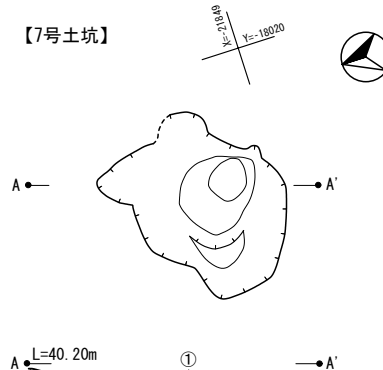
- ①: 黒褐色 (10YR2/2) シルト しまり中 粘性小。
基本土層3層をまだらに含む。
- ②: 暗褐色 (10YR3/3) シルト しまり中 粘性小。
基本土層3層を多く含む。

【6号土坑】

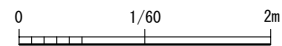


- ①: 黒褐色 (10YR2/2) シルト しまり中 粘性中。
基本土層3層ブロック1cm程をやや含む。
- ②: 黒褐色 (10YR2/3) シルト しまり中 粘性小。
基本土層3層を多く含む。
- ③: 暗褐色 (10YR3/3) シルト しまり中 粘性小。
基本土層3層を多く含む硬質ブロックも多い。

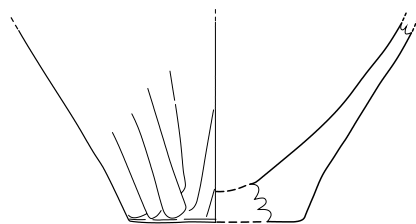
【7号土坑】



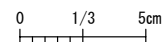
- ①: 黒褐色 (10YR2/3) シルト しまり小 粘性小。
- ②: 黒褐色 (10YR2/3) シルト しまり中 粘性小。
基本土層3層硬質ブロックと1cm大でやや含む。
- ③: 暗褐色 (10YR3/3) シルト しまり中 粘性小。
基本土層3層砂質土を多く含む5cm大の硬質ブロックも入る。



【6号土坑出土遺物】

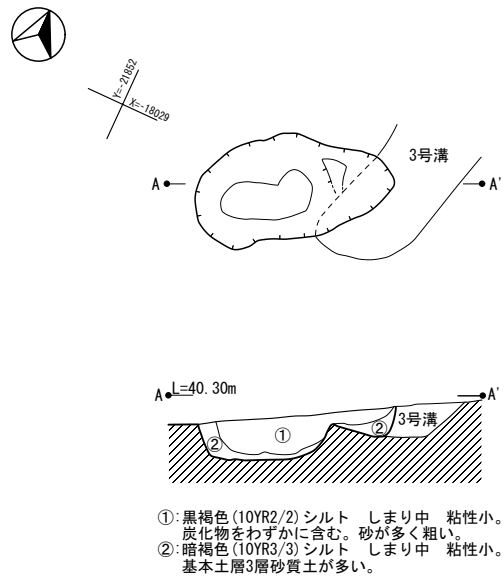


64

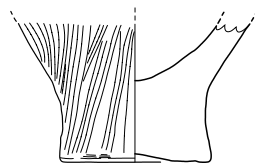
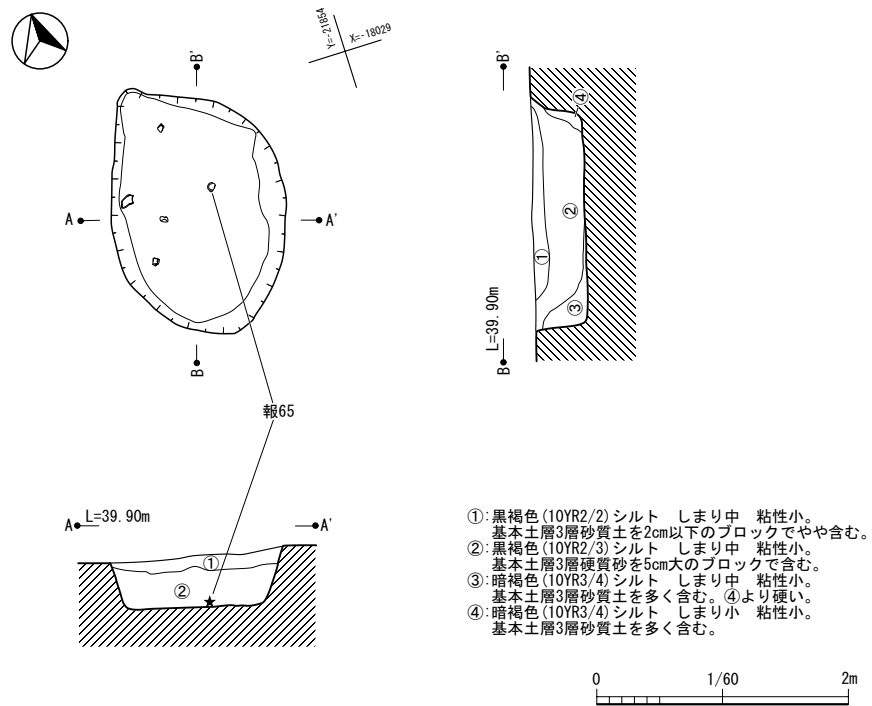


第45図 4・5・6・7号土坑 (S231・S232・S219・S233) 実測図及び出土遺物実測図

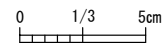
【8号土坑】



【9号土坑】

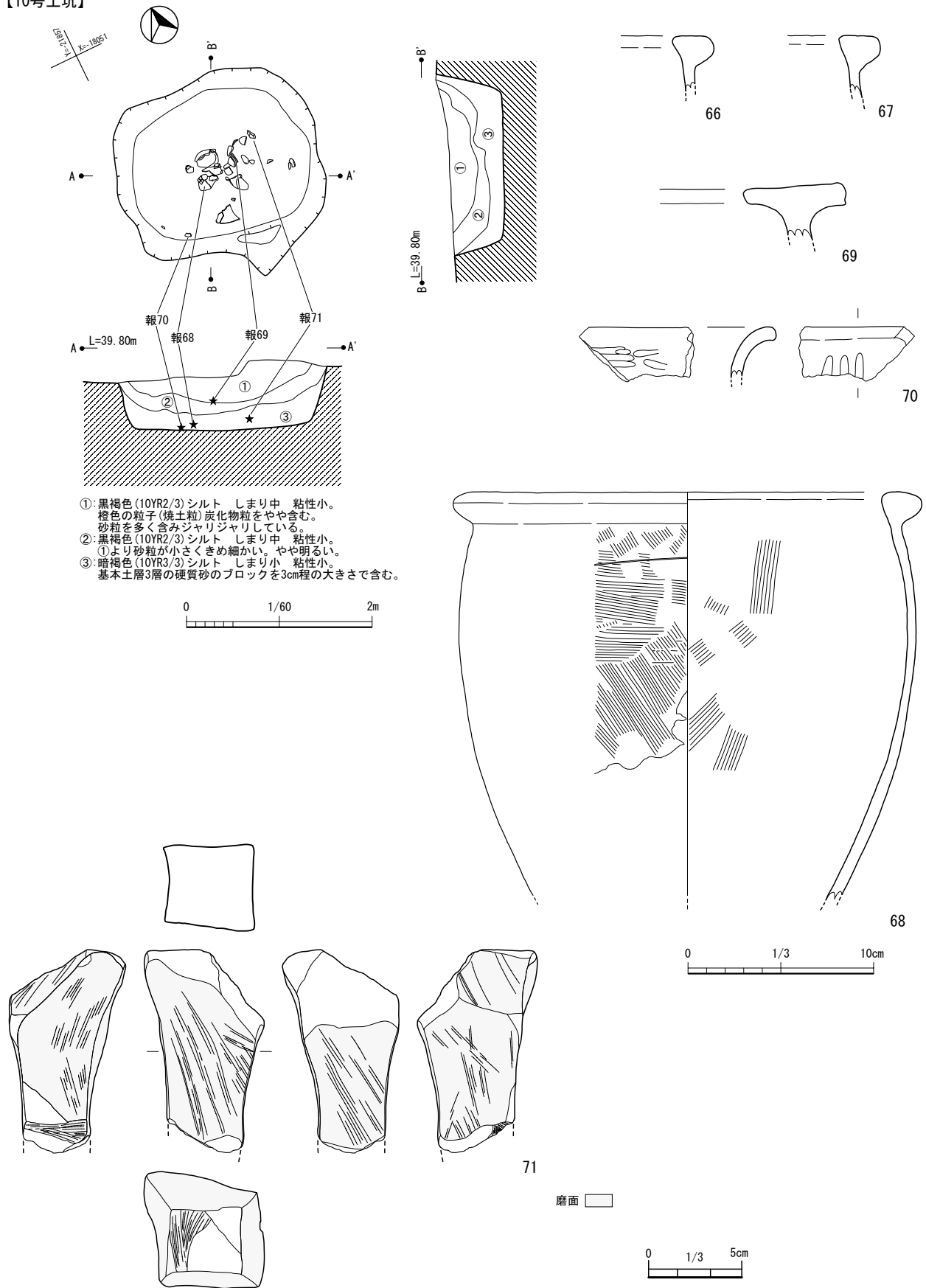


65



第46図 8・9号土坑(S221・210)実測図及び出土遺物実測図

【10号土坑】



第47図 10号土坑 (S204) 実測図及び出土遺物実測図

出土遺物（遺物番号）65は弥生土器の甕の脚部で、ほぼ直に立ち上がる。体部はあまり外側に開かない。底部はわずかに上げ底となり、端部は丸みを帯びない。弥生時代中期前半のものと思われる。

10号土坑【S204】（第47図、図版15・24）

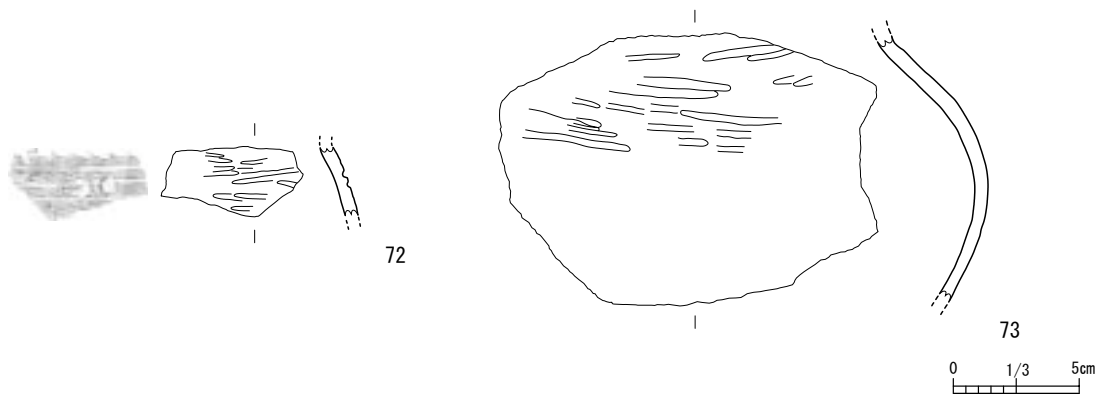
2区の南側C-14グリッドに位置する土坑である。長軸約2.25m、短軸約2.20m、深さ約0.73mで、平面形の形状は方形である。遺構の壁も底部も平らの整った形である。土坑の埋土からは、土器の小破片、砥石が出土している。出土遺物が少ないため時期の特定は困難だが、土坑の時期は、遺物から弥生時代中期前半の可能性はある。

出土遺物（遺物番号）66～69は弥生土器の甕の口縁部である。66・67は厚みのある口縁部で、内側に張り出している。68は口縁～胴部で、厚みのある口縁部の下方には沈線が施されている。これらはいずれも弥生時代中期前半のものと思われる。69は内側への張り出しが大きく、口唇部は水平となる。70は弥生土器の壺の口縁部で、外面には暗文が施されている。71は砂岩製の砥石である。その他表裏全体に被熱を受けた拳大の石が1点出土しているが、加工痕や使用痕などは確認できなかったため、写真図版のみ掲載している。

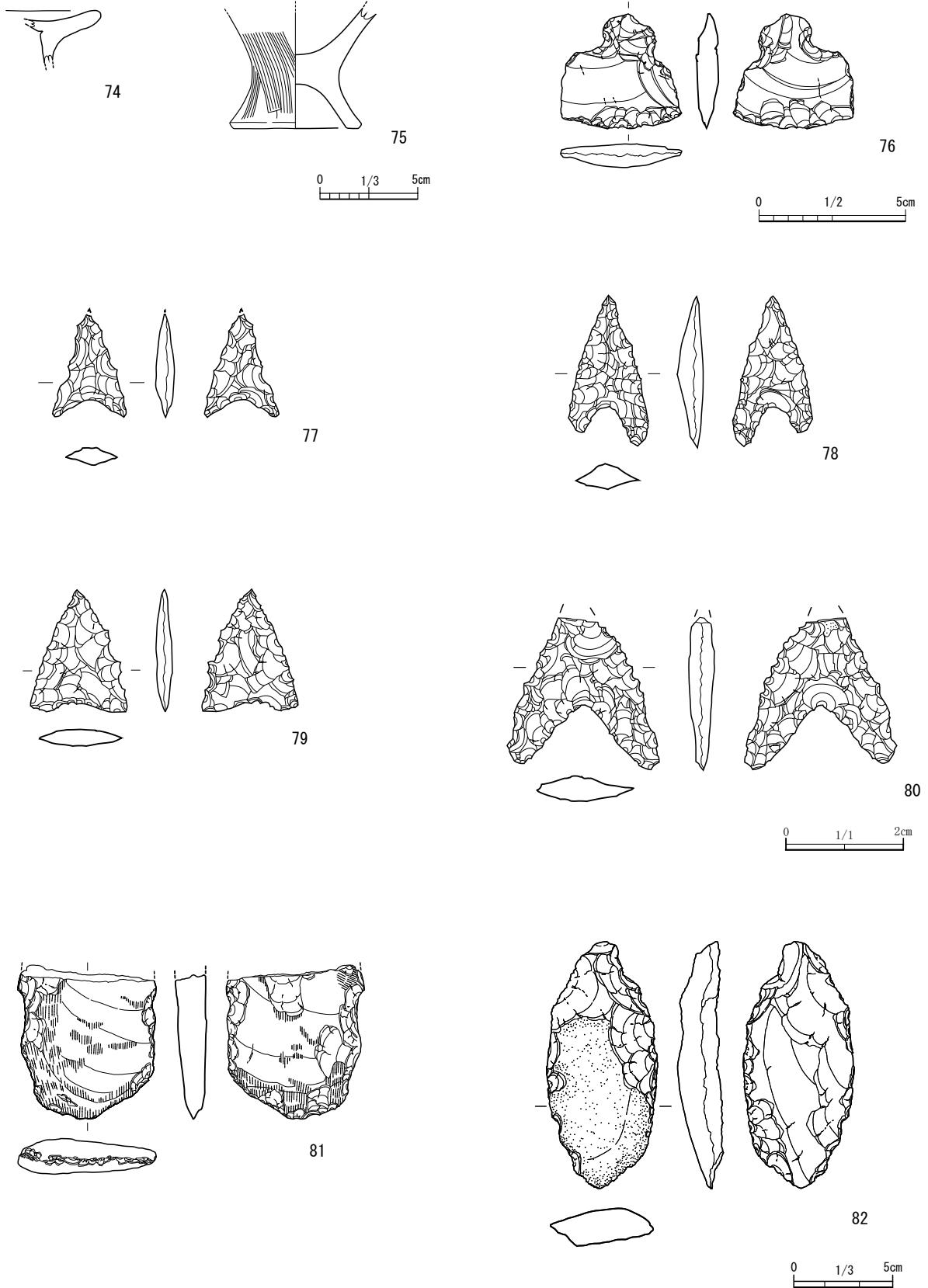
調査2区包含層の出土遺物について（第48・49図、図版24・25）

調査2区より出土した遺物は、そのほとんどが小片であり、器種や時期を判断できる遺物は少なかった。そのため、器種や時期を判断できるような遺物で図化可能なもののみを以下に掲載している。またピット（Pit2117）の底から礎石のような石が出土しているが、掘立柱建物や柵状遺構となるような他のピットは確認できなかった。この石は写真図版のみで掲載している。出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、観察表のとおりである。

出土遺物（遺物番号）72・73は縄文土器の鉢の胴部と考えられる。72の外面にはX文があり、73の外面はミガキ痕がある。74・75は弥生土器で、74は甕の口縁部で、破損しているが内側に張り出す形である。75は甕の脚部で外に開き、体部は外側に開いていく。弥生時代中期後半のものと思われる。76～82は石器である。76は安山岩製の石匙で、横幅は狭く、つまみ部分はあまりくびれていない。77～80は石鏃である。77は安山岩製で、先端部がわずかに欠損している。78は黒曜石製、79は安山岩製である。80は黒曜石製で、先端部が欠損している。81は安山岩製の局部磨製石斧で、基部は欠損している。82は安山岩製の打製石斧で、表面には自然面、裏面に素材の面が残る。



第48図 2区包含層出土遺物実測図(1)



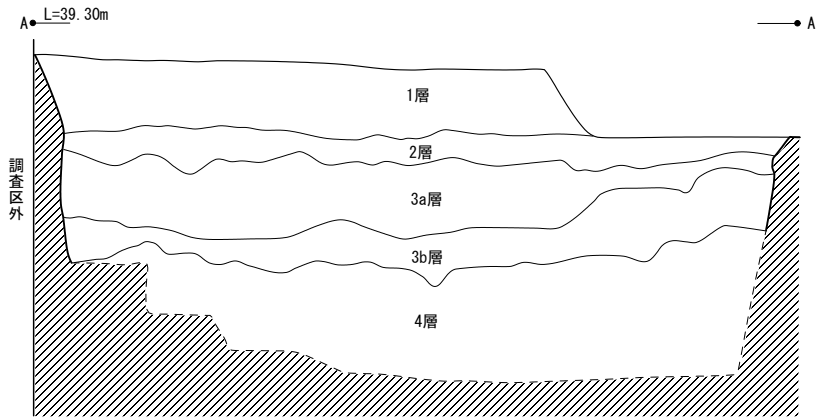
第49図 2区包含層出土遺物実測図(2)

第5節 3区の調査成果

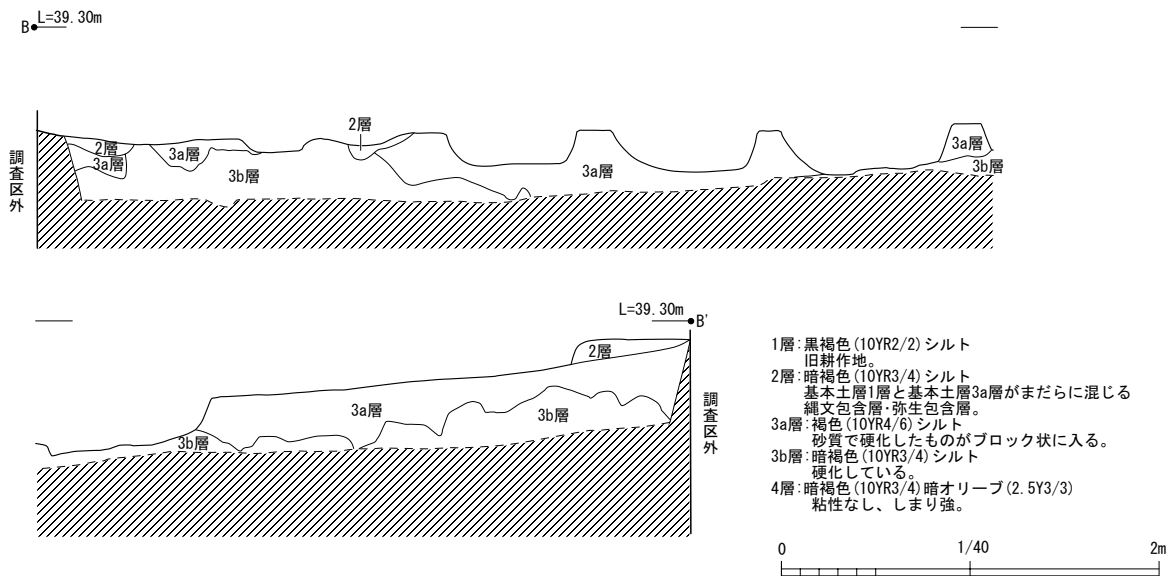
今回の調査区の中で一番南に位置し、面積は約1560㎡となる。調査区を南北に後世の農耕の跡と思われるカクランが帯状に数本入っていたため、遺構検出も難しく、今回検出した遺構のすべてが一部削平されていた。第52図のとおり調査3区では、土坑3基、多数のピットを検出した。ピットは柱痕跡を確認できるものや、位置関係から掘立柱建物や柵状遺構となるようなものは確認できなかった。

第50・51図の土層断面を見ると、図中の3b・4層は1・2区と同様に川に向かって傾斜しているが、1・2層は水平堆積に近い。1区から3区まで川に向かって傾斜しているが、その度合いは、1区では急角度の傾斜で2区、3区と傾斜は緩やかになっていく。

【4Tr. A-A' 断面図】



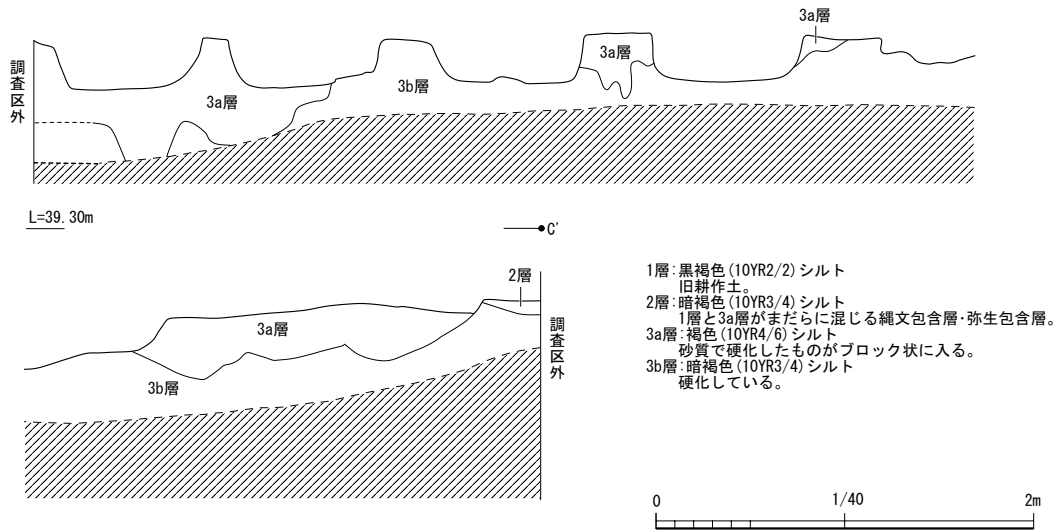
【5Tr. B-B' 断面図】



第50図 3区 4 Tr.・5 Tr. 断面図

【6Tr. C-C' 断面図】

C L=39.30m



第51図 3区 6 Tr. 断面図

土坑

11号土坑【S302】(第53～55、図版17・25・26)

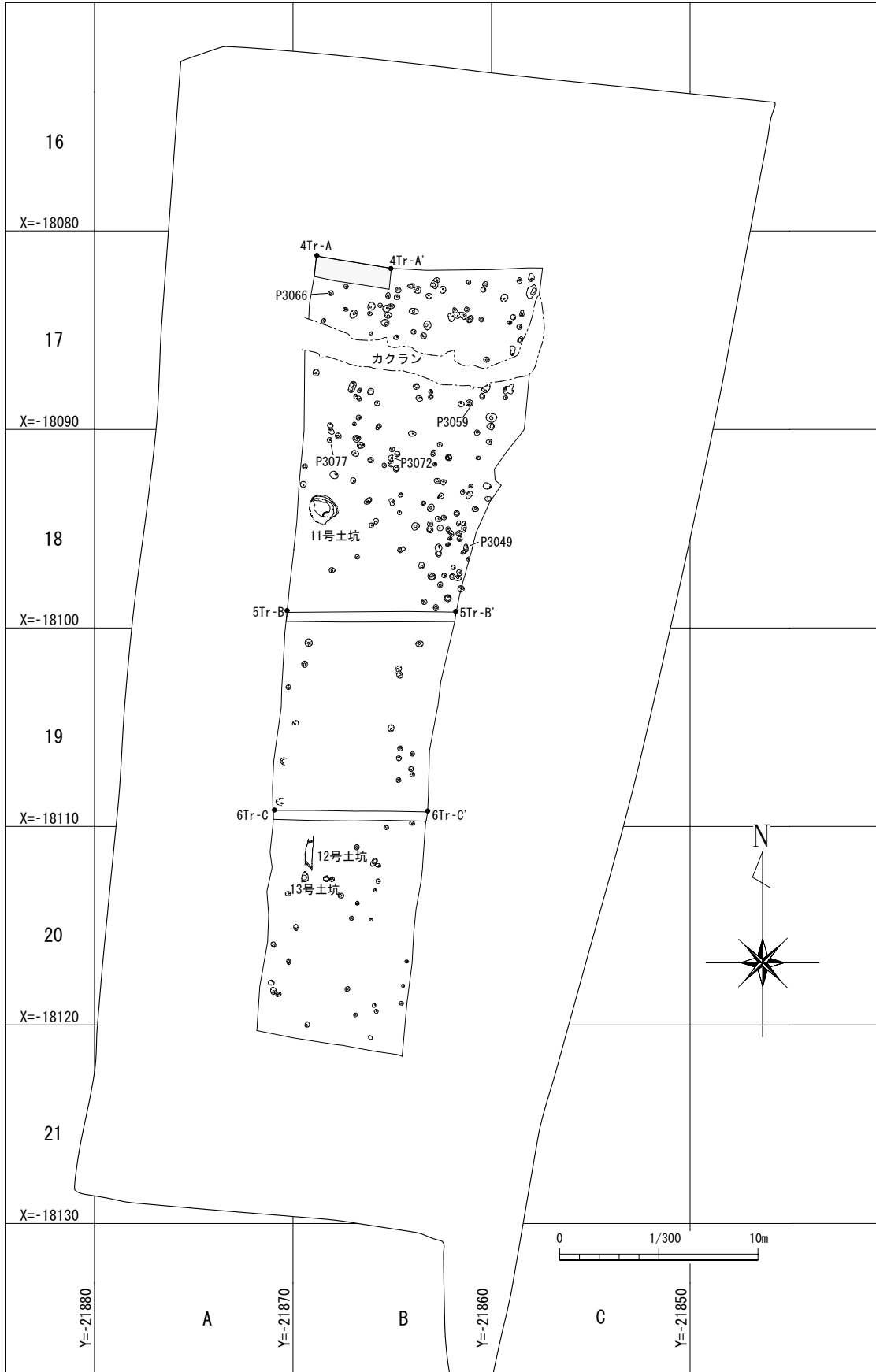
3区の中央よりやや北側B-18グリッドに位置する土坑である。長軸約1.46m、短軸約1.41m、深さ約0.92mで、平面形の形状は円形である。埋土上層から多数の土器片と、20cm大の礫が数点出土し、埋土下層からも数点土器小片が出土している。遺構の北側にはテラスの痕跡が見られる。

土坑の埋土からの遺物は、縄文時代後期～晩期の土器の小破片が多く出土した。石器も数点出土し、安山岩の打製石鏃が1点及び打製石斧の破片2点が出土している。上層から出土している縄文時代後期～晩期の土器は流れ込みの可能性も考えられるのが、最下層及び床直上からも縄文時代後期～晩期の土器が数点出土している。このことから遺構の時期は縄文時代後期～晩期と考えられる。

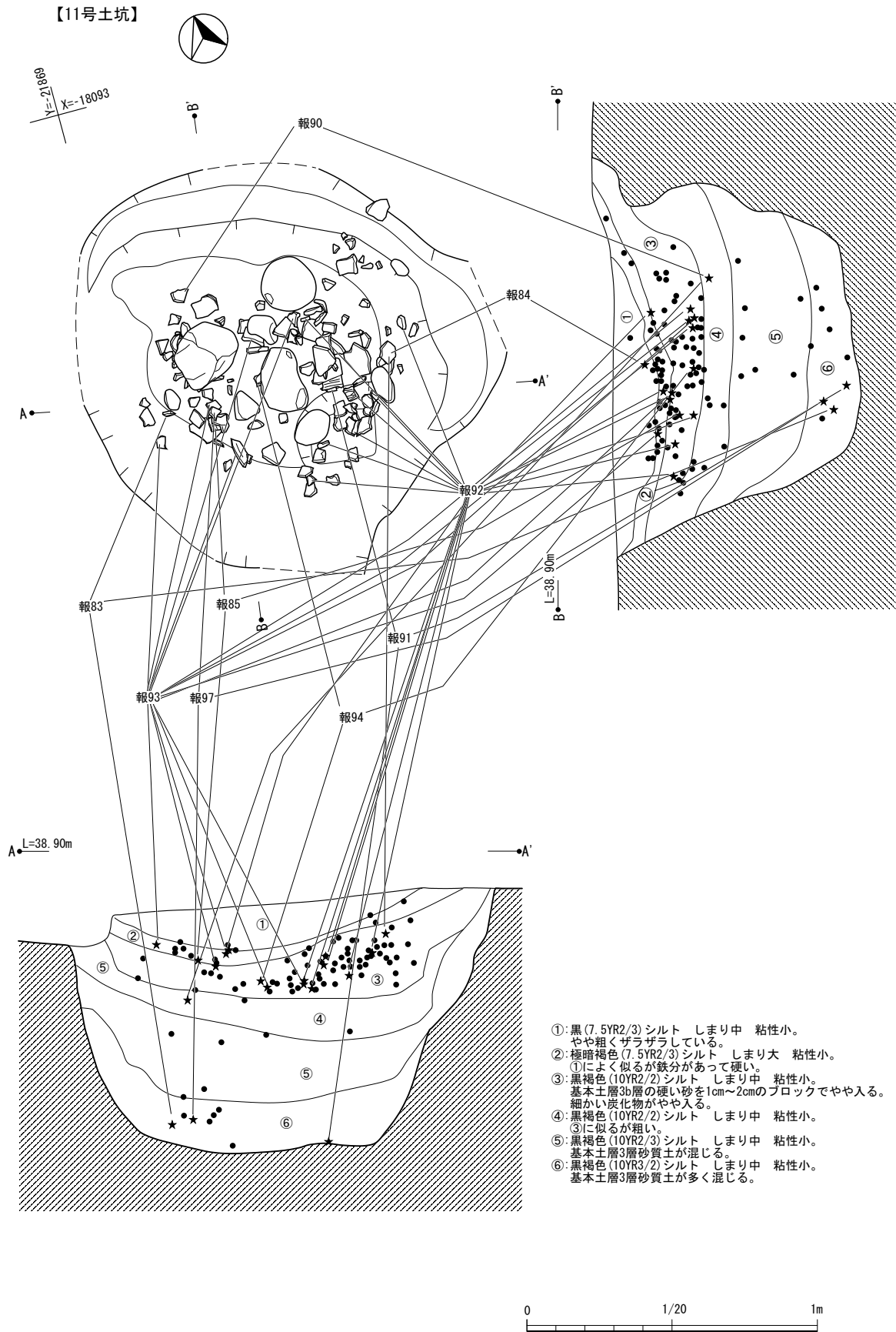
出土遺物(遺物番号)83～95は縄文土器である。83・84・86～89・91・92は鉢の口縁部、85は鉢の胴部、90は鉢の頸～胴部である。91～93は口縁にリボン状の突起を持つ黒川式土器の特徴といえよう。また93は深鉢で内外に条痕がある。完形ならば口径38.4cm、器高33cm以上はあろうと思われるが、残念ながら一部しか復元できなかった。94は鱗状突帯が貼り付けられた胴部である。95はやや上げ底の鉢の底部である。96～98は石器である。96は基部抉り込みの深い安山岩製の石鏃、97・98は打製石斧の破片で、97は粘板岩製と思われる98は安山岩製である。

12号土坑【S304】(第55図、図版17)

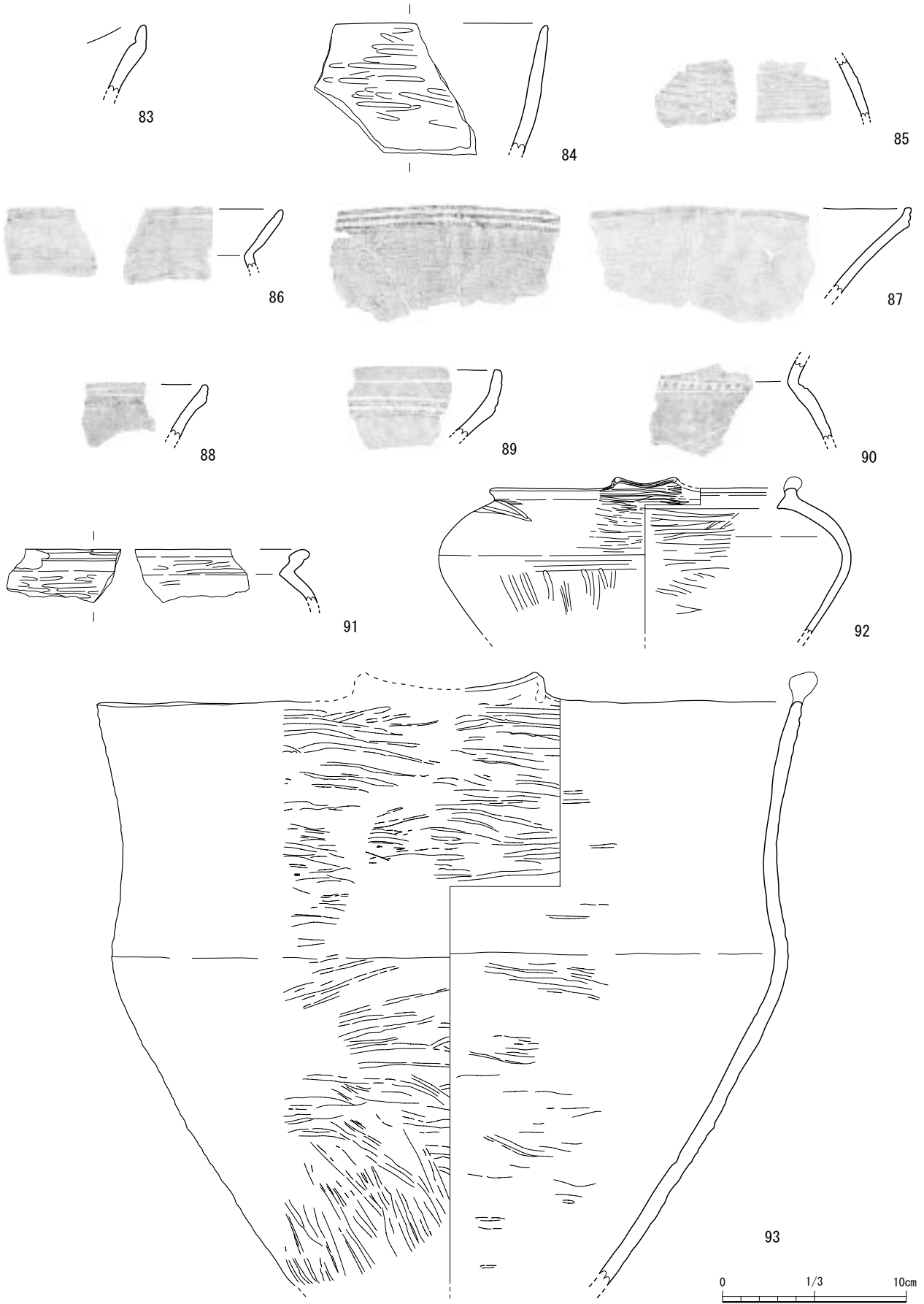
3区の南側B-20グリッドに位置する土坑である。長軸約1.39m、短軸約0.38m以上(カクランに切られる)、深さ約0.12mで、平面形の形状は楕円形と推定する。上層からのカクランによる影響が大きく残存状況は悪い。土坑の埋土からの遺物は、少量かつ細片のため、遺構の時期や性格を判断することはできなかった。



第52図 上南部遺跡 3区遺構配置図及びグリッド図 (S=1/300)

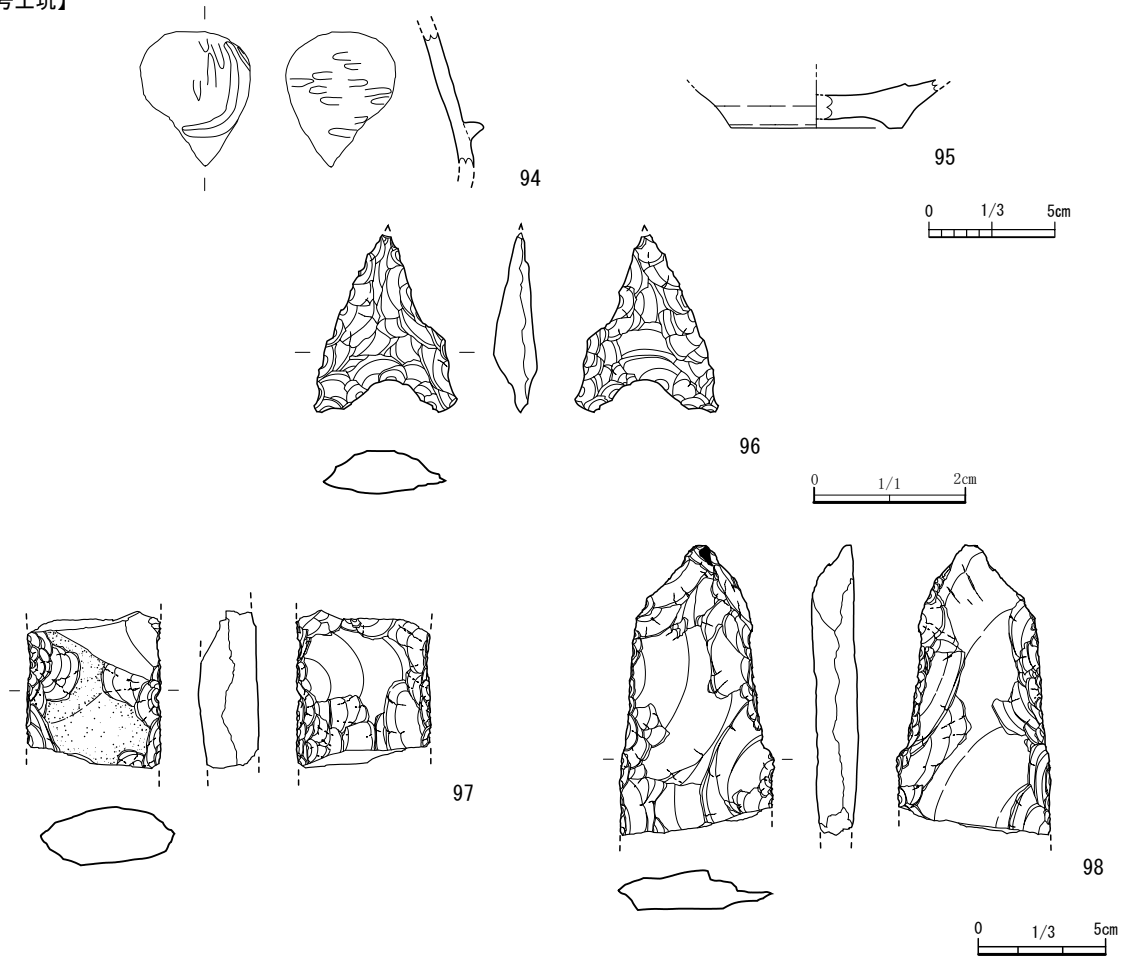


第53図 11号土坑(S302)実測図

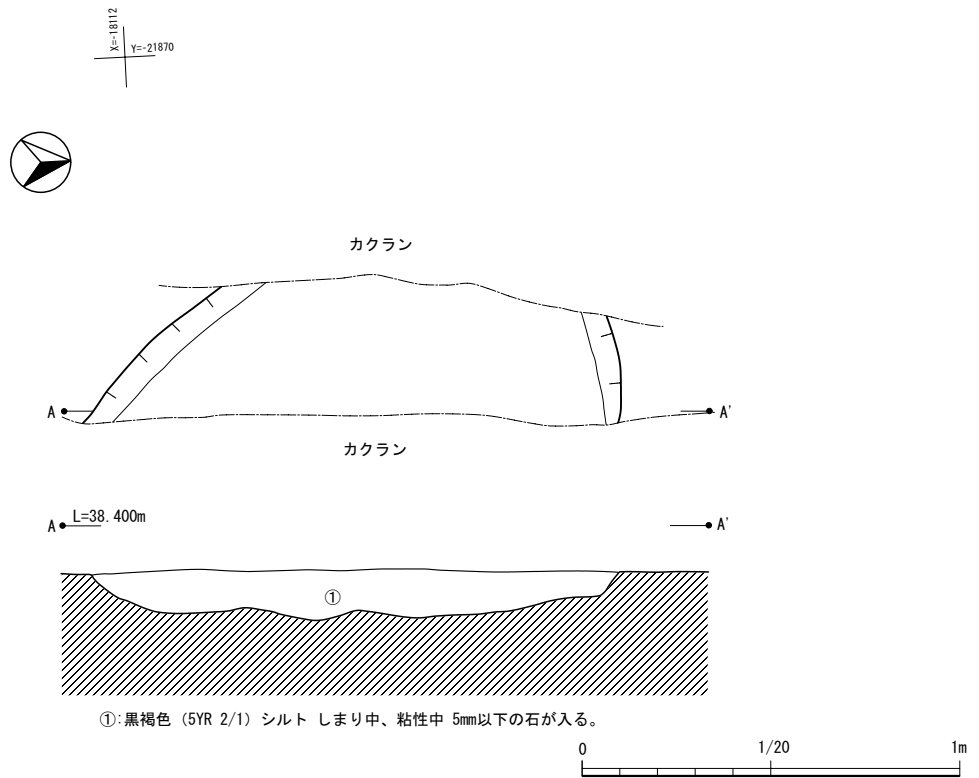


第54図 11号土坑(S302)出土遺物実測図(1)

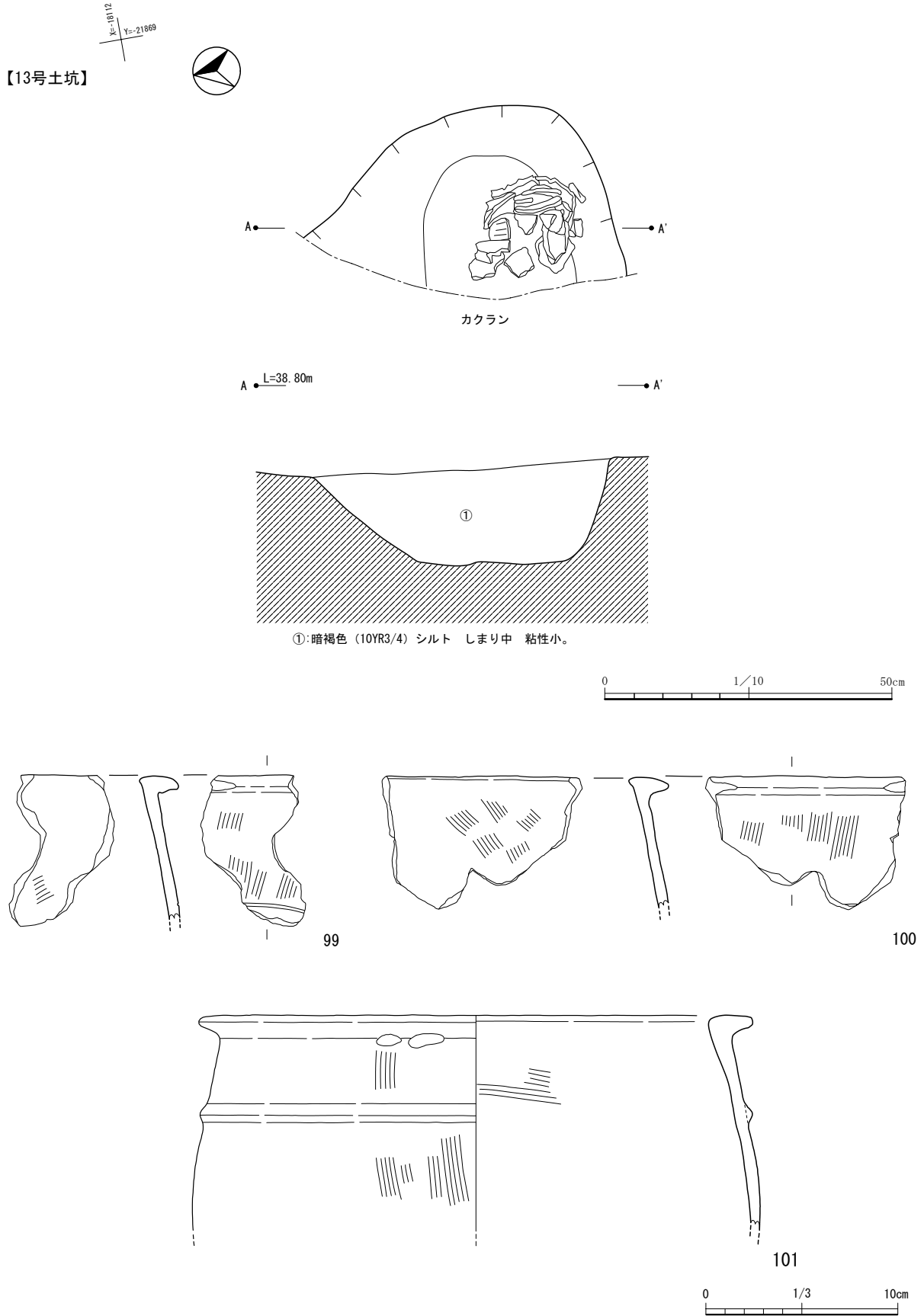
【11号土坑】



【12号土坑】



第55図 11号土坑(S302)出土遺物実測図(2)及び12号(S304)実測図



第56図 13号土坑(S301)実測図及び出土遺物実測図

13号土坑【S301】(第56図、図版17・18・26)

3区の南側B-20グリッドに位置する土坑である。長軸約0.50m、短軸約0.33m以上(カクランに切られる)、深さ約0.19mで、平面形の形状は楕円形と推定する。上層からのカクランに遺構の半分は切られているが、残存した部分に遺物がまとまって出土した。床直上で出土したものもある。遺物の特徴から遺構の時期は弥生時代中期前半と推定される。

(遺物番号)99~101は弥生土器の甕の口縁部である。遺物を取り上げる時点では、同一個体と考えていたが、その後、99・100と101の2個体であると判断した。99・100の口縁部は内側に張り出し、形も類似する。沈線もほぼ同じ位置に存在するので同一個体と判断した。101は内側への張り出しはないが、口縁部より5cm程下に突帯を持つ。これらの特徴から、いずれも弥生時代中期前半のものと考えられる。

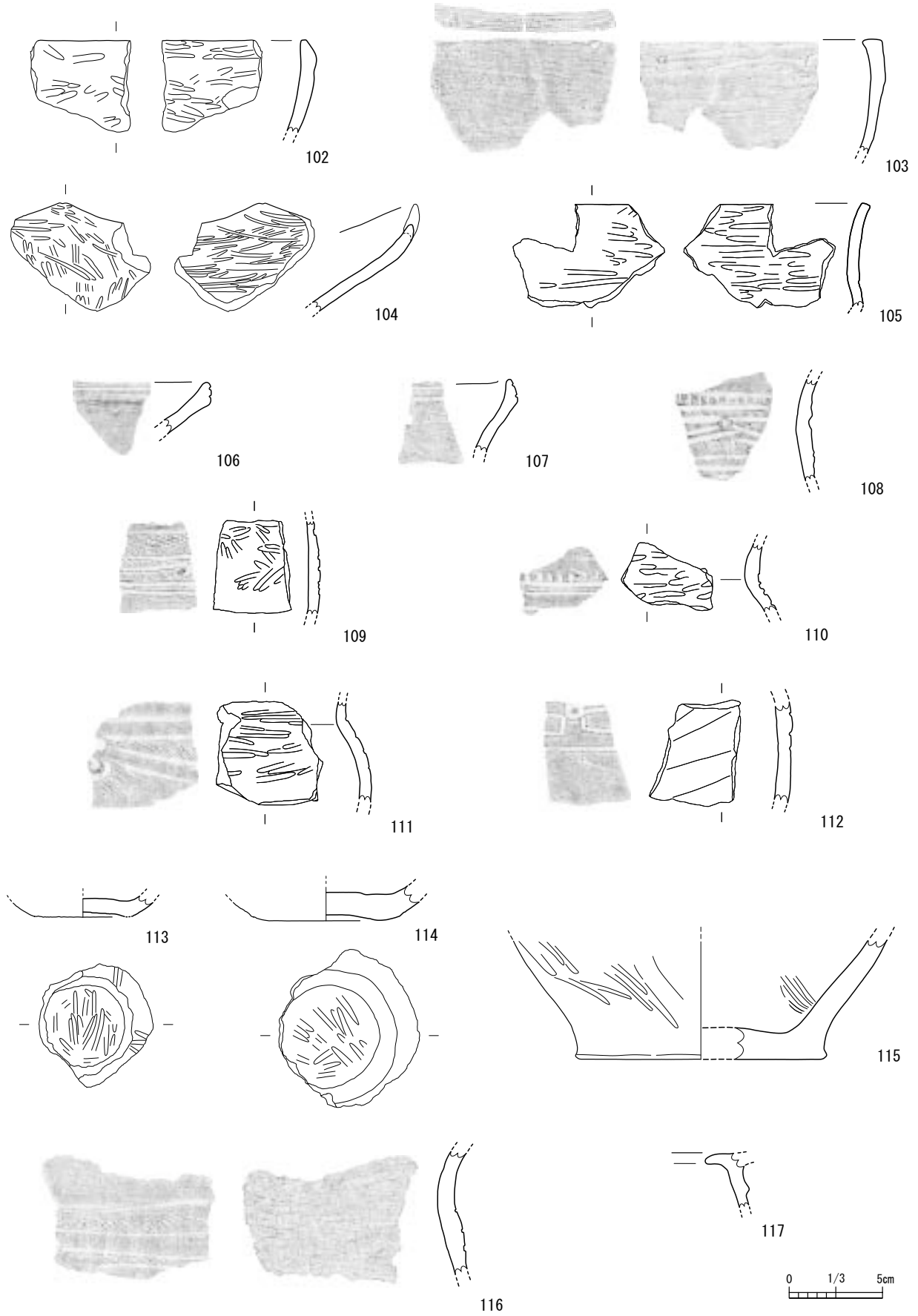
調査3区の包含層出土遺物について(第57・58図、図版26・27・28・29)

3区は、1・2区と比べると縄文土器の出土率が高かったが、調査区全体としては、1・2区同様出土遺物は少なかった。また、小破片がほとんどで器種や時期を判断することはあまりできなかった。そのため、器種や時期を判断できるような遺物で図化可能なもののみを以下に掲載している。出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、観察表のとおりである。その他の図化不可能な小破片等については、写真図版のみで掲載している。

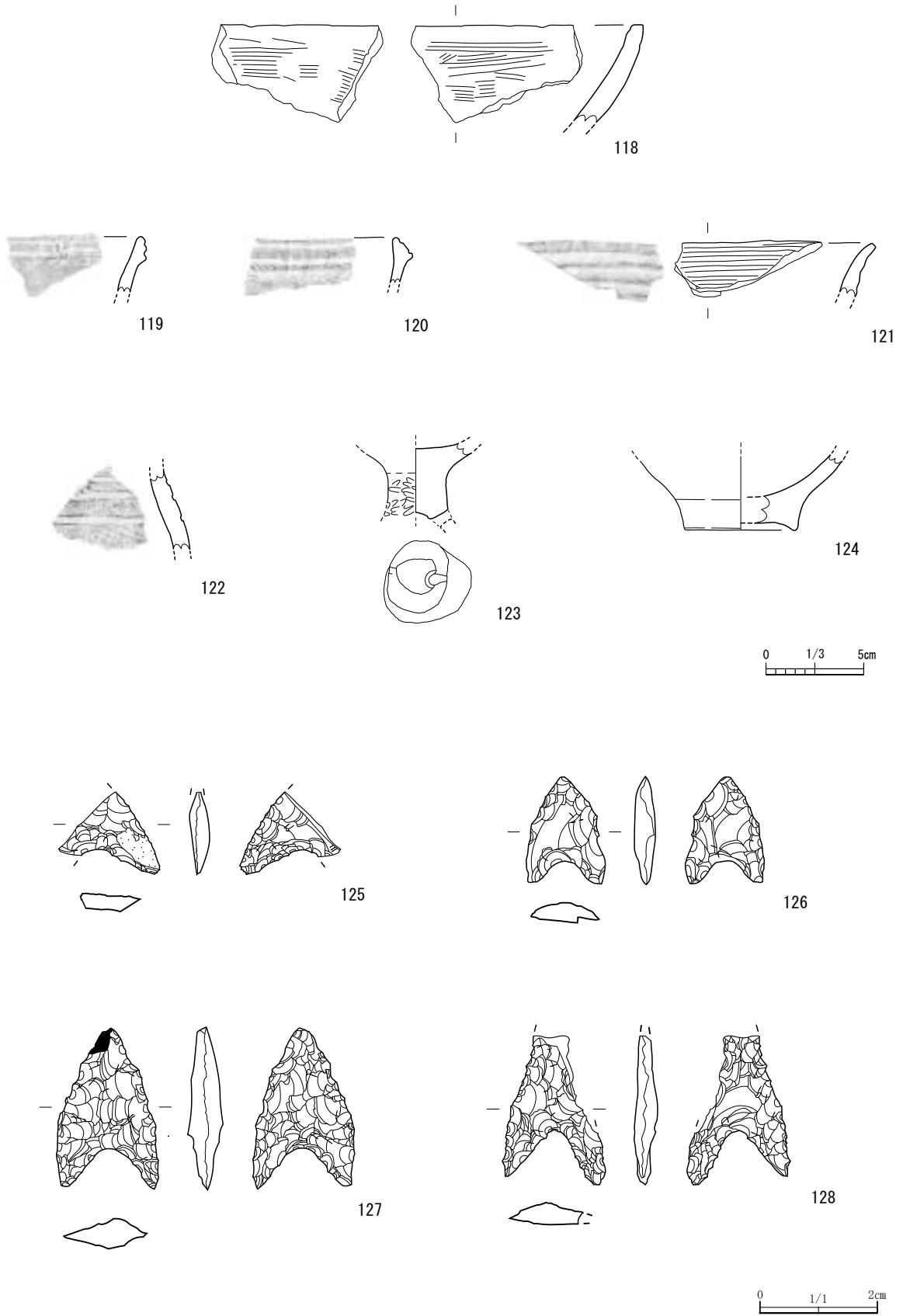
図化した遺物は、土器についてはグリッド毎にまとめている。出土遺物(遺物番号)102~115はB-17グリッドの出土遺物で、すべて縄文時代の浅鉢もしくは深鉢である。102~107は口縁部、108~112は胴部である。113~115は底部で、113・114はやや上げ底でミガキ痕がある。115は平底である。116・117はB-18グリッドの出土遺物である。116は縄文土器の頸~胴部である。117は弥生土器の甕の口縁部で内側に大きく張り出し、口縁部下に突帯がある。118はB-19・B-20グリッドそれぞれで出土した2点を接合した縄文土器の鉢の口縁部である。119~124はA-20グリッドの出土遺物である。119~123は縄文土器で、119~121は鉢の口縁部、122は鉢の胴部、123は坏の一部のようであるが詳細は不明である。124は土器の底部であるが、時期は不明である。125~128は石鏃で、基部の抉り込みの浅いものと深いものがある。125・127・128は黒曜石、126は安山岩製である。

調査区の北部A・B・C-17グリッドでは、幅120cm程の溝状のカクランが調査区を南北に切る。ここからは土器片の他に中世の龍泉窯系青磁、瓦、火鉢、江戸時代や明治時代の陶磁器類が出土した。また時期不明の鉄製品も数点出土した。出土遺物の時期が多様であったためカクランとし、これらの遺物は写真図版のみで掲載している。

なお、鉄製品については上記の3区カクランの他に1区D-2グリッド、2区C-14グリッドからも1点ずつ出土しており、ここで鉄製品3点をまとめて写真図版のみで掲載している。



第57図 3区包含層出土遺物実測図(1)



第58図 3区包含層出土遺物実測図(2)

第IV章 総括

1 はじめに

上南部遺跡は白川中流域左岸、蛇行の激しい遺跡の集中域に位置している。これらの遺跡の多くで確認されているのが、縄文時代と弥生時代の遺構や遺物である。上南部遺跡は、以前に熊本市により調査されており、縄文時代後期～晩期の土器や多量の土偶、建物跡が確認されている。また、弥生時代前・中期の土器が出土しているが、遺構は確認されていない。

今回の調査で確認できた遺構の時期は、縄文時代後期～晩期、弥生時代中・後期で、弥生時代中期が主体であった。竪穴建物14軒、甕棺墓3基、円形周溝1条、溝状遺構5条、土坑13基、不明遺構1基、ピット多数を確認した。しかし、全体的に出土遺物が少ない上に遺構床面直上の出土遺物は更に少なく、遺構の時期を断定することは難しかった。あえて可能性も含めて遺物から遺構の時期を推定し、時期ごとに分類すると図IVのとおりとなる。弥生時代中期の遺構が18基と最も多く、弥生時代後期が3基、縄文時代後期～晩期の遺構が1基であった。更に出土遺物の特徴から弥生時代中期を前半と後半の2区分として表示した。

調査区ごとにみると、遺構の数は、2区が竪穴建物12軒、甕棺墓3基、溝状遺構3条、土坑7基と最も多く、1区が竪穴建物2軒、円形周溝1条、溝状遺構2条、土坑3基、不明遺構1基と続き、3区が土坑3基と最も少なかった。検出面である3a層の標高は、3区は約39m、2区は約40m、1区は約41mと白川沿いを北（上流）に向かってゆるやかに高くなっていく。また、調査区ごとに遺構や遺物から時期を判断すると、1区は弥生時代後期、2区は弥生時代中期、3区は縄文時代後期～晩期と考えられ、白川沿いを北（上流）に向かって時期は新しくなる傾向がある。

上南部遺跡において、これまで弥生時代の集落は知られていなかったが、今回の調査で弥生時代の集落が確認されたことは大きな成果と言えよう。ここでは、縄文時代・弥生時代・その他の時期の遺構と遺物、周囲の遺跡との関連性について述べて本報告のまとめとしたい。

2 縄文時代

上南部遺跡は、これまでに熊本市教育委員会により、図I中のA～C地点で発掘調査が行われている。A地点は、遺構は確認できなかったが、当時熊本県下でまとまった出土例が少なかった縄文時代晩期末の土器が多く出土している。B地点では、直径1mの範囲のみに集中して縄文時代早期～前期の土器が出土している。C地点では、縄文時代の住居址5軒、疑住居址7軒、特殊石組遺構1基、埋甕16基の遺構が検出された。中央に広場を共有し、その周りを建物等が



図I 上南部遺跡調査配置図

馬蹄形に広がる集落が確認されている。出土土器は縄文時代後期の黒色磨研土器が主体で、それに後続する黒川式・山ノ寺式も出土しており、縄文時代後期後半～晩期前半の集落として認識されている。

今回の調査で縄文時代の土坑が検出された3区は、C地点からは約330m離れている。C地点の遺構検出面の標高が約49mに対し、3区の遺構検出面の標高は約39mなので標高差は約10mとなる。また、3区はB地点からは約125m、A地点からは約80m離れている。A地点の標高は約48mで3区との標高差は約9mとなる。C地点からA地点まではゆるやかに傾斜し、A地点から3区にかけては急激に傾斜していることになる。今回の調査で検出した縄文時代後期～晩期の遺構は、縄文土器がまとまって出土した3区の11号土坑1基のみである。また、縄文時代後期～晩期の土器は、ほとんどが3区からの出土で、1・2区からはほとんど出土していない。これらのことから、縄文時代後期～晩期にかけての集落の中心は、白川の河岸段丘上であるC地点にあり、集落から離れた場所にある白川河川敷の3区は、水の入手など一時的な利用場所であったと推測する。

3 弥生時代

今回の調査において出土した弥生時代の遺構や遺物は、ほとんどが1・2区で確認された。その中でも、調査の中心は竪穴建物と甕棺墓であった。ここではこれらについて考察したい。

(1) 竪穴建物について

竪穴建物	調査区	形態	長軸×短軸	面積(m ²)	柱(本)	硬化面	炉	被熱石(個)	甕脚部(個)	貯蔵穴	備考	時期
1号	1	方形	5.49 × 4.33以上	推定23.8	2	有	—	1(5cm程)	—	有	調査区外に伸びる	後期
2号	1	方形	4.11以上 × 4.07	16.9以上	2	有	有	1	1	—	調査区外に伸びる	後期
3号	2	円形	6.16 × 5.64	28.0	6	有	有	6(45cm大1)	—	—		中期後半
4号	2	方形	4.19 × 3.71	15.1	2	有	—	1	—	—		中期前半
5号	2	方形	3.83 × 1.80以上	推定15.1以上	—	1/2程度	—	—	1	有	調査区外に伸びる	中期前半
6号	2	方形	推定一辺 3.70	推定13.7	2	有	—	—	—	—	東側半分検出	中期後半
7号	2	方形	3.94 × 3.66	13.8	4	有	—	10以上	1	有		中期前半
8号	2	方形	4.16 × 3.59	14.5	4	有	—	1	1	—		中期前半
9号	2	方形	3.06 × 2.93	8.3	2	有	—	1	1	—		中期前半
10号	2	方形	3.48 × 3.10	10.3	2	1/4程度	有	—	—	—		中期後半
11号	2	方形	3.76 × 3.74	12.7	4	2/3程度	有	—	1	—		中期前半
12号	2	方形	3.28 × 2.98	9.5	4	極めて狭い	有	—	—	—		中期前半
13号	2	方形	4.11 × 3.08	12.6	2	1/2程度	—	4	1	有	14号に切られる	中期前半
14号	2	方形	3.66 × 3.28	9.8	4	有	—	1	1	有	13号を切る	中期前半

*—: 無または検出できず *面積(m²) 推定: 調査区外の広がりを含む *硬化面 有: ほぼ全面に広がる 分数: 全面に対する割合

表1 上南部遺跡竪穴建物一覧表

1区で2軒、2区で12軒の竪穴建物が確認できた。第三章で述べた竪穴建物についてまとめると表Iの通りとなる。竪穴建物の形状は、方形13軒、円形1軒であった。今回確認できた14軒すべてを弥生時代の竪穴建物と考えている。時期の決め手となる遺物の出土が少なく、根拠は竪穴建物の形態と小破片のわずかな遺物によるものであり、竪穴建物の時期は、可能性を指摘するにとどめたい。

① 調査区と竪穴建物の時期

図IVのとおり竪穴建物の時期は、1区の2軒(1・2号)は弥生時代後期、2区の12軒(3～14号)は弥生時代中期と考えている。さらに2区の12軒を中期の前半9軒(4・5・7・8・9・11・12・13・14号)と後半3軒(3・6・10号)とに区分した。1区と2区は、平面で約40m離れており、検出面での標高は1区が2区より約1m高く、2区から1区へと緩やかに低くなる。中期から後期にかけて、集落はより高い方へと移動していったと考えられる。また、縄文時代の項で述べたように狩猟を行っていた縄文時代後期～晩期の集落は河岸段丘上で営まれ、その後、弥生時代には稲作や生活に必要な水を求めて白川から近いところに移り住み、集落が営まれたと推測する。

② 竪穴建物の規模と分布

図IIは、今回の調査で確認した竪穴建物14軒を並べた図である。表Iと図IIより、1区の弥生時代後期の2軒（1・2号）の方が、円形の3号を除く他の2区の弥生時代中期の11軒より大きいことがわかる。中期の竪穴建物より、後期の竪穴建物の方が大きなつくりであったようである。また、図IVより9～14号は、方形の竪穴建物13軒の中で小さい方からの6軒で、2区の南側に集中し、建物と建物の間隔も近い。1区の2軒（1・2号）と2区北側の6軒（3～8号）は、間隔も2区南側の6軒と比べると広く、南北方向に等間隔に建てられているようにも見える。2区の検出面の標高は、北から南へと緩やかに低くなっていく。標高が低い南側の6軒の建物と建物の間隔が近いのは、13・14号では切り合いもあるように、白川の氾濫により建て替えが行われた結果ではないかと推測する。

また、3号は第三章で述べたように、中央の炉の周りに6本の柱がめぐる唯一の円形竪穴建物であり、14軒の中で最も大きな竪穴建物である。この集落にとって極めて特殊な建物と言える。おそらく他の竪穴建物とは異なった用途のために建てられたのであろう。集落の集会場として使用された可能性も考えられる。

③ 竪穴建物の構造に関すること

< 竪穴建物の軸について >

14軒の竪穴建物の軸は大きくぶれることなく、ほぼ北北東を向いている。この集落の1つの特徴と言えるだろう。

< 2本柱の位置について >

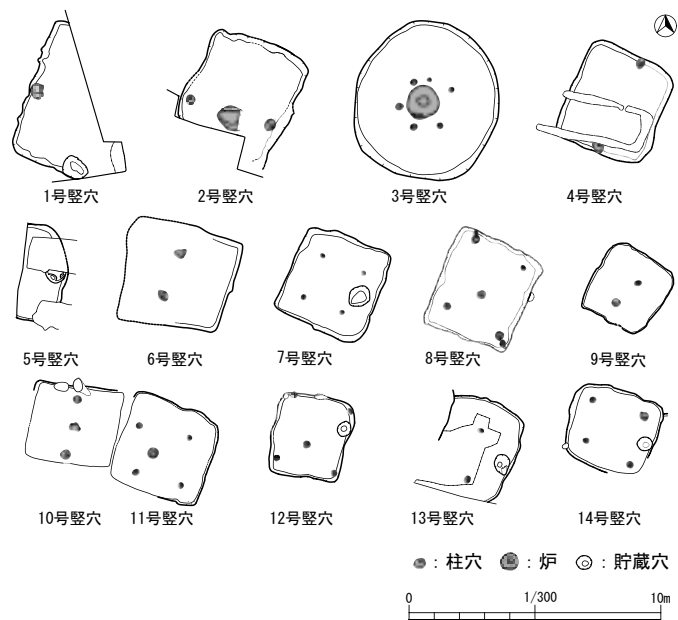
2本柱の建物に注目すると、1区の2軒（1・2号）の柱は東西軸につくられ、2区の5軒（4・6・9・10・13号）の柱は南北軸につくられている。これらから上南部遺跡において中期は2本柱の竪穴建物は南北軸に柱をつくり、後期は東西軸に柱をつくる傾向があると考えられる。また、15.1㎡以上の大きい方形の竪穴建物3軒（1・2・4号）は、壁の近くに柱をつくる傾向がうかがえる。

< 炉について >

炉を確認できた竪穴建物は少なく、2・3・10・11・12号の5軒であった。また今回の調査では、竪穴建物の多くから被熱を受けた石（以降「被熱石」と記述する）が出土した。そのため、被熱石と炉の関係について考察したい。被熱石との判断は肉眼観察によるもので、石表面の赤色化や黒色化をその判断理由とした。被熱石が出土した竪穴建物9軒のうち、炉が確認できたのは2軒であった。被熱石が出土しなかった竪穴建物5軒のうち、炉が確認できたのは3軒であった。炉が確認できなかった竪穴建物9軒のうち、被熱石が出土したのは7軒であった。これらから炉が確認できなかった竪穴建物には、被熱石が出土する傾向がみられる。これらのことから被熱石と炉の関係にはなんらかの意味があると考えられるが、詳細は不明である。

< 貯蔵穴について >

貯蔵穴を持つ竪穴建物は、1・5・7・12・13・14号の6軒であった。1号以外の中期の竪穴建物の貯蔵穴は、東側の壁近くにつくられている。後期の1号は南側の壁近くに貯蔵穴を持つが、1軒だけなので後期の竪穴建物の貯蔵穴は南側の壁近くにつくられているとは言い難い。



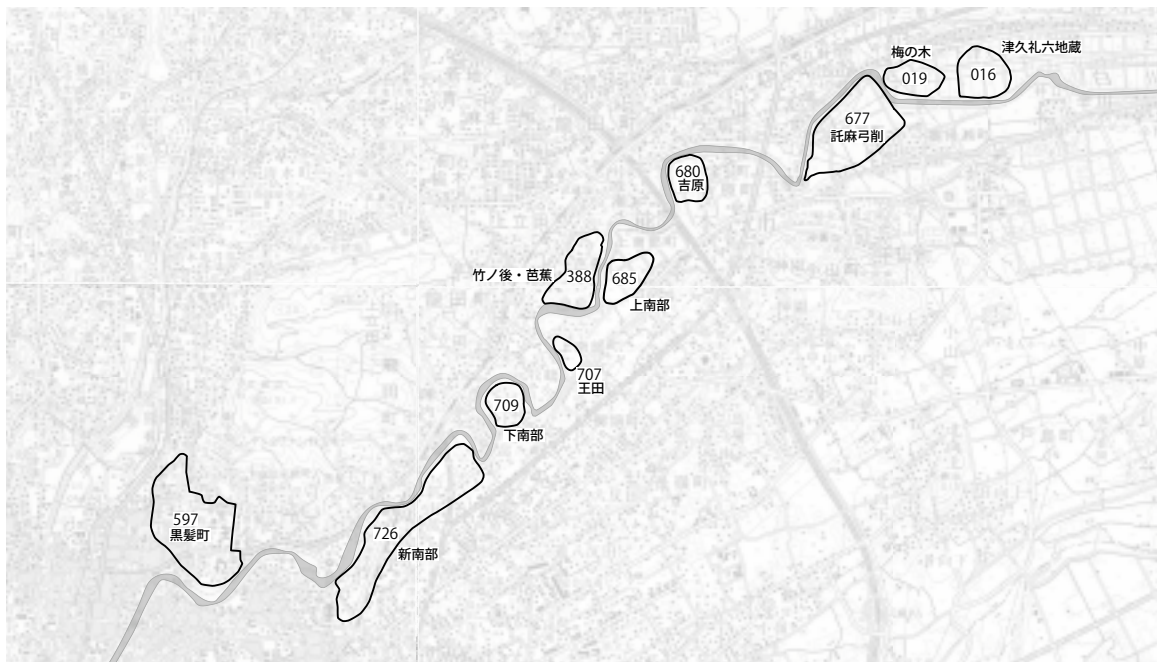
図II 上南部遺跡竪穴建物一覧

④被熱石と弥生土器の甕の脚部について

今回の調査で検出した竪穴建物の多くから被熱石と弥生土器の甕の脚部（以降「脚部」と記述する）が出土した。14軒中6軒（2・7・8・9・13・14号）からは、被熱石と脚部がセットで出土した。そのため、これらと竪穴建物の時期や位置・規模等について何らかの関係がないか考察を試みたが、被熱石と脚部が出土することの意味を導き出すことはできなかった。今後の発掘調査により類例が増加し、その意味を導き出せればと思う。

(2)甕棺墓について

白川中流域では、図Ⅲのようにいくつかの遺跡で甕棺墓が確認されている。上流から白川右岸に位置する津久礼六地藏遺跡、梅の木遺跡、上南部遺跡の対岸となる竹ノ後・芭蕉遺跡群、黒髪町遺跡群がある。また左岸には上流から託麻弓削遺跡群、吉原遺跡、王田遺跡、下南部遺跡、新南部遺跡群がある。記憶に新しいのは2016年熊本県報告の新南部遺跡群11次と吉原遺跡の甕棺墓である。新南部遺跡群11次では、調査区が約473㎡と比較的狭い範囲の中に、出土例も非常に珍しい標石を持つ甕棺墓2基を含む甕棺墓7基、木棺墓3基が確認されている。このことから新南部遺跡群11次の調査区は、墓域として捉えることができる。それに対して吉原遺跡では居住域の中に甕棺墓と土壇墓が2～4基の少数グループを作る形態で3調査区それぞれに確認された。また、新南部遺跡群11次の調査区のように墓域と捉えることができる甕棺墓が多く出土する遺跡の多くは、大型甕棺が多いようである。また、吉原遺跡や今回の調査のように居住域の中に少数のグループをつくる形態で確認された甕棺は小型である。吉原遺跡の甕棺には小児骨が残っていたことから小児用の甕棺と言える。本遺跡の甕棺には何も残っていなかったが、大きさは吉原遺跡の甕棺と同等であるため、本遺跡出土の甕棺も小児用と考えられる。



図Ⅲ 甕棺墓が出土している白川中流域の遺跡

(3)弥生時代の集落について

縄文時代の項で述べたとおり、地形はA地点から今回の調査区にかけて急激に傾斜している。今回の調査区より東側には、同じレベルの平坦部はないことが想像できる。つまり、集落が東に広がったとしてもそれほど広さはないであろう。当時の白川の位置はほとんど変化していないことを考えると西側への広がりも考えられない。南側は、3区の遺構の主体が縄文時代であることから弥生時代の広がりは見られない。弥生

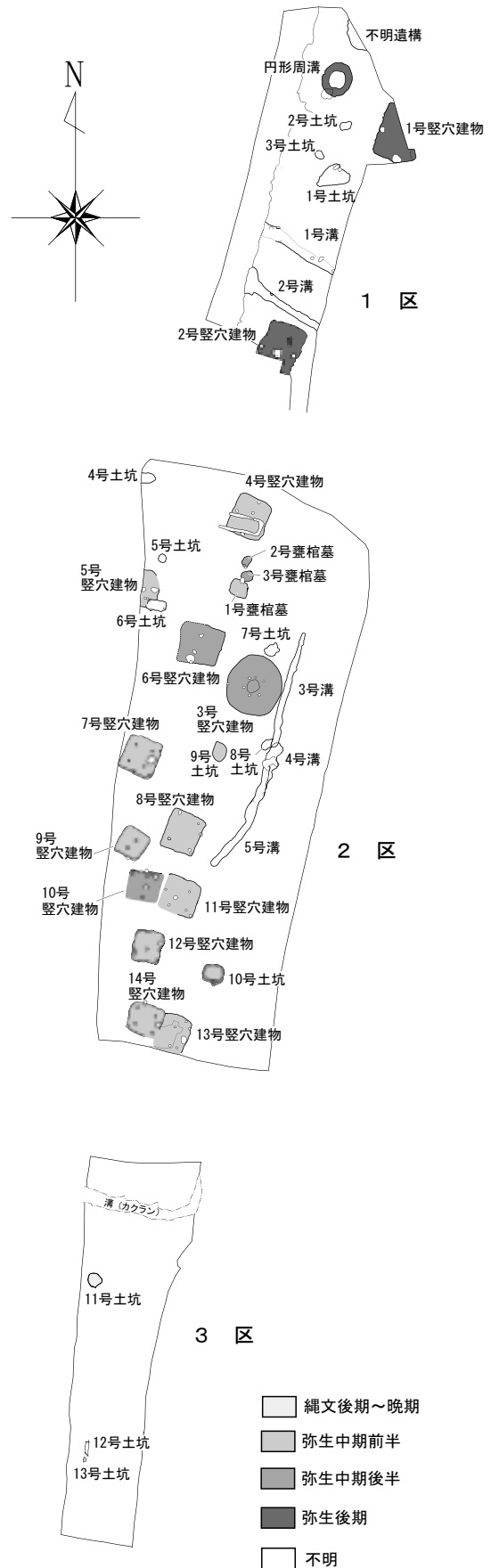
時代後期の集落は、まだ北に広がる可能性はあるかもしれない。しかし、弥生時代中期の集落は、2区を中心にならずに広がる可能性はあるが、小規模な集落であると推測される。

今回の調査区では、竪穴建物群の中に甕棺墓があり、居住域と墓域は区分されていないようである。また、居住域の中にあつた甕棺墓は子供の墓であり、大人の墓を確認することはできなかった。角南聡一郎氏は「弥生時代前期の土器棺葬」（第48回埋蔵文化財研究集会2000）で、『土器棺葬をおこなう背景として、東アジアに広く分布する誕生説話からのアナロジーとして、土器の棺を、繭や卵、もしくは疑似的子宮に見立てて早世した「子供」の再生を願ったことが想起される』と土器棺について述べている。これは本遺跡出土の甕棺墓にもあてはまるのではないかと考える。このことから、幼い子供をなくした親が、子供がさびしがらないように家の近くに墓をつくり、子供の再生を願って甕棺に埋葬したのではなかろうかと推測する。また、今回確認できなかった大人の墓については、新南部遺跡群11次のように、今回の調査区の周辺部のどこかに墓域が形成され、そこに大人の墓があるのではないかと推測する。

4 終わりに

3区の北部には幅120cm程の溝（第III章ではカクランと記述）があり、縄文時代や弥生時代の土器片の他に、中世の龍泉窯系青磁、瓦、火鉢、江戸時代や明治時代の陶磁器類が出土した。また時期不明の鉄製品も数点出土した。このように縄文時代から近世までの広い時代の遺物が出土している。近世（17C初）には、加藤清正により馬場楠井出が引かれ水田化が進み、今回の調査に至るまでは田畑として活用されていた。これらのことから上南部の地域は縄文時代の遠い時代から現代に至るまで、白川の恵み、そして繰り返す氾濫と復興など人々の生活は白川とともにあったことがうかがえる。

今回の調査区は限られた範囲であるため、ここで述べたことには推測の域を出ない事項が多々ある。今後の発掘調査で、更に白川と人々の生活の営みの歴史が明らかにされていくことに期待する。



図IV 上南部遺跡時期別遺構配置図

表7 上南部遺跡遺構一覧表

調査区	時代	報告	調査時	種別	形状	規模(m)				備考
						長軸	短軸	深さ	面積(m ²)	
1	弥生	1号竪穴建物	S107	竪穴建物	方形	+5.49	+4.33	0.11	+13.98	
1	弥生	2号竪穴建物	S113	竪穴建物	方形	+4.11	4.07	0.42	+16.87	
1	弥生	円形周溝	S108	溝	ドーナツ状	3.62	2.90	0.37	+7.72	溝幅 0.55m~0.97m
1	不明	1号溝	S112	溝	溝状	8.80	0.95	0.24	+7.38	溝幅 0.74m~0.95m
1	不明	2号溝	S106	溝	溝状	+8.76	+0.97	0.40	+8.81	溝幅 0.65m~0.97m
1	不明	1号土坑	S115	土坑	楕円	3.52	2.16	1.15	5.10	
1	不明	2号土坑	S102	土坑	楕円	1.28	0.71	0.58	0.81	
1	不明	3号土坑	S104	土坑	円形	0.97	0.68	0.18	0.19	
1	不明	不明遺構	S101	不明遺構	不明	+3.68	+1.08	0.58	+2.72	
2	弥生	3号竪穴建物	S215	竪穴建物	円形	6.16	5.64	0.40	28.02	
2	弥生	4号竪穴建物	S222	竪穴建物	方形	4.19	3.71	0.35	+15.10	
2	弥生	5号竪穴建物	S220	竪穴建物	方形	+3.83	+1.80	0.29	+5.32	
2	弥生	6号竪穴建物	S218	竪穴建物	方形	—	3.70	0.18	+8.43	半裁されている
2	弥生	7号竪穴建物	S209	竪穴建物	方形	3.94	3.66	0.35	13.76	
2	弥生	8号竪穴建物	S208	竪穴建物	方形	4.16	3.59	0.46	14.51	
2	弥生	9号竪穴建物	S207	竪穴建物	方形	3.06	2.93	0.15	8.34	
2	弥生	10号竪穴建物	S205	竪穴建物	方形	+3.48	+3.10	0.07	+10.33	
2	弥生	11号竪穴建物	S206	竪穴建物	方形	+3.76	+3.74	0.26	+12.67	
2	弥生	12号竪穴建物	S203	竪穴建物	方形	3.28	2.98	0.17	9.49	
2	弥生	13号竪穴建物	S202	竪穴建物	方形	+4.11	+3.08	0.39	+12.56	
2	弥生	14号竪穴建物	S201	竪穴建物	方形	3.66	3.28	0.35	+9.81	
2	弥生	1号甕棺墓	S230	甕棺墓	—	1.86	1.72	1.53	+2.84	
2	弥生	2号甕棺墓	S228	甕棺墓	—	+1.37	0.79	0.55	+0.77	
2	弥生	3号甕棺墓	S229	甕棺墓	—	1.21	1.19	0.82	1.07	
2	不明	3号溝	S216	溝	溝状	12.11	0.74	0.13	+7.23	溝幅 0.34m~0.74m
2	不明	4号溝	S217	溝	溝状	+4.98	+1.21	0.27	+3.73	溝幅 1.21m~? 殆ど削平されている
2	不明	5号溝	S214	溝	溝状	12.11	+1.08	0.21	+9.06	溝幅 0.66m~1.08m
2	不明	4号土坑	S231	土坑	楕円	+1.50	+1.02	0.41	+1.31	
2	不明	5号土坑	S232	土坑	円形	+0.81	+0.80	0.28	+0.53	
2	不明	6号土坑	S219	土坑	楕円	2.06	1.06	0.41	+1.95	
2	不明	7号土坑	S233	土坑	楕円	1.49	1.23	0.79	+1.34	
2	不明	8号土坑	S221	土坑	楕円	1.59	0.83	0.45	1.02	
2	弥生	9号土坑	S210	土坑	楕円	1.83	1.39	0.46	2.17	
2	弥生	10号土坑	S204	土坑	方形	2.25	2.20	0.73	3.83	
2	不明	B-12	Pit2069	—	円形	0.31	0.29	—	0.18	
2	不明	B-11	Pit2046	—	円形	0.26	0.24	—	0.05	
2	不明	C-12	Pit2047	—	円形	0.48	0.36	—	0.14	
2	不明	C-12	Pit2059	—	円形	0.29	0.22	—	0.06	
2	不明	D-10	Pit2117	—	円形	0.36	0.30	—	0.10	
3	縄文	11号土坑	S302	土坑	円形	+1.46	+1.41	0.92	+1.54	
3	不明	12号土坑	S304	不明土坑	楕円	+1.39	+0.38	0.12	+0.44	
3	弥生	13号土坑	S301	土坑	楕円	+0.50	+0.33	0.19	+0.11	
3	不明	B-18	Pit3049	—	円形	0.39	0.21	—	0.07	
3	不明	B-17	Pit3059	—	円形	0.32	0.31	—	0.09	
3	不明	B-17	Pit3066	—	円形	0.25	0.23	—	0.05	
3	不明	B-18	Pit3072	—	円形	0.29	+0.24	—	0.05	
3	不明	B-18	Pit3077	—	円形	0.24	0.20	—	0.05	

※数値の後に+が付くものは残存値

表8 上南部遺跡出土土器観察表

挿図 No.	図版 No.	調査 区	出土地点		出土 層位	器種	器形	時期	部位	量 (cm)			色 調		調 整		胎土	焼成	備考
			報告	調査時						口径	器高	胴径	底径	外面	内面	外面			
10	1	1	1号竪穴建物	S107	埋1	弥生土器	壺	弥生	口縁部	-	2.6+	-	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	ナデ	ナデ	長石	良好	内外面に赤彩
10	2	1	1号竪穴建物	S107	埋1	弥生土器	壺	弥生	胴部	-	15.9+	(32.0)	にぶい黄橙 (7.5YR5/4)	灰黄褐 (10YR6/2)	刻目突帯、ハケメ、ナデ	ハケメ	長石、雲母、石英	良好	内面は剥離が大
12	3	1	2号竪穴建物	S113	埋2	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	2.6+	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (7.5YR5/4)	ハケメ後ナデ	ハケメ	長石、雲母	良好	
12	4	1	2号竪穴建物	S113	埋2	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	3.0+	-	暗灰黄 (2.5Y5/2)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	ナデ	ナデ	長石、雲母、石英、 角閃石	良好	
12	5	1	2号竪穴建物	S113	埋2	弥生土器	甕	弥生	口縁部	(24.0)	8.9+	-	浅黄 (2.5Y7/4)	浅黄 (2.5Y7/4)	ナデ、ハケメ後ナデ	ナデ、ハケメ後ナデ	長石、雲母	良好	
12	6	1	2号竪穴建物	S113	埋2	弥生土器	甕?	弥生	胴部	-	4.0+	-	にぶい橙 (5YR6/4)	黄灰 (2.5Y4/1)	ハケメ、線刻	ハケメ後ナデ	雲母、石英	良好	
12	7	1	2号竪穴建物	S113	埋2	弥生土器	壺	弥生	胴部	-	15.7+	(37.8)	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	ハケメ、刻目突帯	ハケメ	長石、雲母、石英、 角閃石	良好	スス付着
12	8	1	2号竪穴建物	S113	埋2	弥生土器	壺	弥生	口縁～胴部	(9.4)	17.7+	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	褐 (10YR4/4)	ハケメ、ナデ、口縁部打 ち欠き	ナデ、ハケメ、指頭庄 痕、口縁部打ち欠き	長石、石英、角閃石、 白色粒子	良	口縁部打ち欠きと思われ る
12	9	1	2号竪穴建物	S113	PI2	弥生土器	甕	弥生	胴部	-	6.2+	-	浅黄 (2.5Y7/4)	黄灰 (2.5Y4/1)	ハケメ	ハケメ後ナデ	石英、長石、角閃石	良好	
13	12	1	円形周溝	S108	埋1	弥生土器	壺	弥生	口縁～胴部	(21.2)	29.0+	-	明赤褐 (5YR5/8)	明赤褐 (10YR6/3)	突帯、刻目突帯	ハケメ、ナデ、指頭庄 痕	石英、角閃石	良	上部の突帯は一箇所のみ に貼りつけられている
13	13	1	円形周溝	S108	埋1	弥生土器	壺	弥生	底部	-	5.0+	-	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	ハケメ、ナデ	ナデ	長石、石英、角閃石	良	内面、剥落大
15	14	1	2号溝	S106	埋1	縄文土器	浅鉢	縄文	口縁部	-	3.0+	-	灰黄 (2.5Y6/2)	黄灰 (2.5Y4/1)	ミガキ、沈線	ミガキ	長石、雲母、輝石	良好	
18	15	1	D-2			縄文土器	深鉢	縄文	口縁部	-	7.8+	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	ミガキ	ナデ	雲母、石英	良好	
18	16	1	D-11			縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	3.0+	-	黒褐 (10YR3/1)	灰黄褐 (10YR5/2)	ミガキ	ミガキ	長石、角閃石	良好	
18	17	1	E-2			縄文土器	浅鉢	縄文	口縁部	-	4.2+	-	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	ミガキ、沈線2条、押点 文	ナデ	雲母、長石	良好	波状口縁
18	18	1	D-3			縄文土器	深鉢	縄文	頸部	-	5.2+	-	にぶい黄橙 (10YR5/3)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	ミガキ、沈線、磨消縄文、 X状沈線文	ミガキ	雲母、角閃石	良好	
18	19	1	D-2・D-3			縄文土器	深鉢	縄文	底部	-	3.1+	-	浅黄 (2.5Y7/4)	にぶい黄褐 (2.5Y6/4)	ナデ	ナデ	雲母、石英、角閃石	良好	
18	20	1	D-2・D-3			縄文土器	浅鉢	縄文	底部	-	2.2+	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	ナデ	ナデ	長石、雲母、角閃石	良好	
18	21	1	E-2			弥生土器	甕	弥生	胴部	-	4.5+	(12.1)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	ナデ	ナデ	長石、石英、雲母	良好	
22	22	2	3号竪穴建物	S215	埋土	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	1.9+	-	明赤褐 (10YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	ナデ	ナデ	長石、石英	良好	

表9 上南部遺跡出土土器観察表

挿図 No.	図版 No.	調査 区	出土地点		器種	器形	時期	部位	質量 (cm)			色 調		調 整		胎土	備考	
			報告	調査時					口径	器高	胴径	底径	外面	内面	外面			内面
22	23	20	2	3号竪穴建物	S215	弥生	口縁部	-	3.4+	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	ナデ	ナデ	良	角閃石、石英	
22	24	20	2	3号竪穴建物	S215	弥生	口縁部	-	2.5+	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	ナデ	ナデ	良好	角閃石	
22	25	20	2	3号竪穴建物	S215	弥生	胴部	-	3.3+	-	-	にぶい黄 (2.5Y6/3)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	刻目突帯、暗文	ナデ	良好	長石	
22	26	20	2	3号竪穴建物	S215	縄文	口縁部	-	3.2+	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	条痕、ナデ	ナデ	良好	長石	
22	27	20	2	3号竪穴建物	S215	縄文	口縁部	-	4.3+	-	-	黒褐 (2.5YR4/2)	黄褐 (2.5YR5/3)	条痕、ナデ	条痕、ナデ	良好	長石	穿孔あり
22	28	20	2	3号竪穴建物	S215	縄文	口縁部	-	7.0+	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	条痕、ナデ	条痕、ナデ	良好	輝石	穿孔あり
23	31	21	2	4号竪穴建物	S222	弥生	口縁部	-	7.5+	-	-	にぶい黄 (2.5Y6/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	ハケメ、ナデ、突帯	ハケメ後ナデ	良好	長石、金雲母	
24	32	21	2	5号竪穴建物	S220	弥生	胴部	-	8.6+	-	5.8	にぶい黄橙 (10YR6/4)	黒褐 (10YR3/1)	ハケメ後ナデ	ハケメ、ナデ	良好	長石	外面は剥離が大
25	33	21	2	6号竪穴建物	S218	弥生	口縁部	-	3.6+	-	-	浅黄 (2.5Y7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	ナデ	ナデ	良好	長石、雲母	
25	34	21	2	6号竪穴建物	S218	弥生	口縁部	-	2.9+	-	-	にぶい赤褐 (5YR4/4)	赤褐 (5YR4/6)	ナデ、暗文、赤彩	ナデ、赤彩	良好	長石	
26	35	21	2	7号竪穴建物	S209	弥生	底部?	-	3.5+	-	-	褐灰 (10YR4/1)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	ハケメ	ナデ	良好	石英	
26	36	21	2	7号竪穴建物	S209	弥生	底部?	-	1.65+	-	-	黒褐 (10YR3/1)	黒 (10YR2/1)	ハケメ	ナデ	良好	長石	
26	37	21	2	7号竪穴建物	S209	弥生	底部?	-	3.0+	-	-	にぶい黄 (2.5Y6/3)	明黄褐 (10YR7/6)	ナデ	ナデ	良好	雲母	
26	38	21	2	7号竪穴建物	S209	弥生	口縁部	-	3.7+	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	ミガキ、沈線	ミガキ	良好	長石、雲母	
26	39	21	2	7号竪穴建物	S209	弥生	口縁部	-	3.6+	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	ミガキ	ミガキ	良好	石英	
26	40	21	2	7号竪穴建物	S209	弥生	胴部	-	4.0+	-	7.0	にぶい橙 (7.5YR7/4)	-	ハケメ、ナデ	-	良	粗い砂粒、長石	粗雑な作り、左右対称でなく、歪みありスズ付着
26	41	21	2	7号竪穴建物	S209	弥生	底部	-	5.3+	-	5.3	にぶい褐 (7.5YR5/4)	明黄褐 (10YR7/6)	ハケメ、ナデ 後ミガキ	ハケメ、ナデ	良	長石、雲母	
27	42	21	2	8号竪穴建物	S208	弥生	胴部	-	4.9+	-	6.2	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	ハケメ、ナデ	-	良	長石	
28	43	22	2	9号竪穴建物	S207	弥生	胴部	-	3.7+	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	ハケメ後ナデ、突帯	ハケメ後ナデ	良好	雲母	
28	44	22	2	9号竪穴建物	S207	弥生	胴部	-	6.85+	-	5.8	にぶい黄橙 (10YR6/4)	黒褐 (10YR3/1)	ハケメ、ナデ	ナデ	良	長石	

表10 上南部遺跡出土土器観察表

挿図 No.	図版 No.	調査 区	出土地点		出土 層位	器種	器形	時期	部位	質量 (cm)			色 調		調 整		胎土	備考
			報告	調査時						口径	器高	胴径	底径	外面	内面	外面		
29	45	22	2	10号竪穴建物	S205	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	1.9+	-	黄褐 (2.5Y5/3)	黄褐 (2.5Y5/3)	ナデ	ハケメ、ナデ	雲母	良好
29	46	22	2	10号竪穴建物	S205	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	3.6+	-	褐灰 (10YR4/1)	黄灰 (2.5Y4/1)	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	長石、雲母、石英	良好
29	47	22	2	10号竪穴建物	S205	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	3.7+	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	雲母	良好
30	48	22	2	11号竪穴建物	S206	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	2.8+	-	橙 (7.5YR7/6)	灰オリーブ (5Y6/2)	ハケメ、ナデ	ハケメ後ナデ	長石	良好
30	49	22	2	11号竪穴建物	S206	弥生土器	甕	弥生	胴部	-	2.0+	-	橙 (7.5YR6/6)	-	ハケメ、ナデ	-	長石、石英	良
32	51	22	2	12号竪穴建物	S203	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	2.0+	-	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	ナデ	ナデ	長石	良好
32	52	22	2	12号竪穴建物	S203	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	1.5+	-	明赤褐 (2.5YR 5/6)	明赤褐 (2.5YR 5/6)	ナデ、赤彩	ナデ、赤彩	長石	良好
32	53	22	2	12号竪穴建物	S203	弥生土器	甕	弥生	胴部	-	4.5+	-	浅黄 (2.5Y7/4)	浅黄 (2.5Y7/3)	ナデ、ハケメ、刻目突帯	-	長石	良
32	54	22	2	12号竪穴建物	S203	弥生土器	甕?	弥生	胴部	-	4.6+	-	暗灰黄 (2.5Y5/ 2)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	ナデ、刻目突帯	ナデ	角閃石、長石、石英	良
34	55	22	2	13号竪穴建物	S202	弥生土器	甕	弥生	胴部	-	4.0+	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	-	ハケメ	-	長石	良
34	57	24	2	14号竪穴建物	S201	弥生土器	甕	弥生	胴部	-	3.5+	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	-	ハケメ、ミガキ	-	粗い砂粒、長石	良
39	61	24	2	2号甕棺墓	S228	弥生土器	甕	弥生	口縁~胴部	(29.3)	9+	-	浅黄 (2.5Y /4)	浅黄 (2.5Y /3)	ナデ	ハケメ、ナデ	輝石、長石	良
45	64	24	2	6号土坑	S219	弥生土器	甕? 壺?	弥生	底部	-	7.85+	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	灰黄褐 (10YR4/2)	ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ	白色粒、石英、長石	良好
46	65	24	2	9号土坑	S210	弥生土器	甕	弥生	胴部	-	5.5+	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (5YR6/4)	ハケメ、ナデ	ナデ	石英、長石、白色粒	良
47	66	24	2	10号土坑	S204	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	3.0+	-	浅黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	ナデ、ミガキ、ハケメ	ナデ	雲母	良好
47	67	24	2	10号土坑	S204	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	2.7+	-	浅黄 (2.5Y7/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	ナデ	ナデ	雲母	良好
47	68	24	2	10号土坑	S204	弥生土器	甕	弥生	口縁~胴部	(23.0)	23.0+	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	ハケメ、沈線	ハケメ後ナデ	石英、角閃石、金雲 母、	良
47	69	24	2	10号土坑	S204	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	3.1+	-	橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/8)	ナデ	ナデ	長石、輝石	良好
47	70	24	2	10号土坑	S204	弥生土器	壺	弥生	口縁部	-	3.7+	-	暗灰黄 (2.5Y4/2)	黒褐 (2.5YR3/2)	ナデ、晒文	ミガキ	長石	良好
48	72	24	2		C-10	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	2.7+	-	浅黄 (2.5Y7/4)	灰黄褐 (10YR4/2)	X文、唐消細文	ミガキ	角閃石、雲母	良好

表11 上南部遺跡出土土器観察表

挿図 No.	図版 No.	調査 区	出土地点		出土 層位	器種	器形	時期	部位	質量 (cm)			色 調		調 整		胎土	備考
			報告	調査時						口径	器高	胴径	底径	外面	内面	外面		
48	73	24	2	C-12	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	10.5+	-	-	黒褐 (2.5Y3/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	ミガキ	ナデ	長石	黒色磨研土器
49	74	24	2	P2069	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	3.6+	-	-	黄褐 (2.5Y5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	ナデ	ナデ	長石	
49	75	24	2	P2047	弥生土器	甕	弥生	胴部	-	6.1+	-	6.4	にぶい黄橙 (10YR6/4)	黒褐 (10YR8/1)	ハケメ、ナデ	ハケメ?	長石	
54	83	25	3	11号土坑	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	3.7+	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	ミガキ	ミガキ、沈線	角閃石、雲母、長石	波状口縁
54	84	25	3	11号土坑	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	7.1+	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	条痕	ミガキ	長石、雲母	
54	85	25	3	11号土坑	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	3.1+	-	-	黒褐 (2.5Y3/1)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	ミガキ、沈線	条痕	長石	
54	86	25	3	11号土坑	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	3.6+	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	ミガキ	ミガキ	雲母、長石	
54	87	25	3	11号土坑	縄文土器	深鉢	縄文	口縁部	-	5.8+	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	ミガキ、磨消縄文、沈線	ミガキ	輝石、金雲母、長石	
54	88	25	3	11号土坑	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	3.3+	-	-	黄灰 (2.5Y4/1)	にぶい黄 (2.5Y6/4)	磨消縄文、沈線、ミガキ	ミガキ	金雲母、長石	
54	89	25	3	11号土坑	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	3.9+	-	-	オリーブ黒 (5Y3/1)	オリーブ黒 (5Y3/1)	ミガキ、沈線、磨消縄文	ミガキ	輝石、長石	
54	90	25	3	11号土坑	縄文土器	深鉢	縄文	頸部～胴部	-	4.2+	-	-	黄褐 (2.5Y5/3)	暗灰黄 (2.5Y5/3)	ミガキ、ナデ、沈線、刺突文	ミガキ	長石、雲母	
54	91	25	3	11号土坑	縄文土器	浅鉢	縄文	口縁部	-	2.9+	-	-	黒褐 (2.5Y3/1)	黒褐 (2.5Y3/1)	ミガキ、沈線	ミガキ	長石、雲母	黒色磨研土器
54	92	25	3	11号土坑	縄文土器	浅鉢	縄文	口縁～胴部	(16.0)	8.5+	-	-	黄褐 (10YR5/6)	褐 (10YR4/4)	ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ、ハケメ、ミガキ	角閃石、雲母	口縁部にリボ>状突起 黒色磨研土器
54	93	25	3	11号土坑	縄文土器	深鉢	縄文	口縁～胴部	(38.4)	33.2+	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	条痕、ナデ	条痕、ナデ	角閃石	口縁部にリボ>状突起
55	94	26	3	11号土坑	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	5.3+	-	-	褐灰 (10YR4/1)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	突帯、ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	長石、白色粒	鱗状突帯
55	95	26	3	11号土坑	縄文土器	鉢	縄文	底部	-	1.9+	-	(6.6)	橙 (7.5YR6/6)	褐 (10YR4/6)	ナデ	ナデ	黒色粒	
56	99	26	3	13号土坑	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	7.9+	-	-	黒褐 (10Y3/1)	黒褐 (10Y3/1)	ハケメ、ナデ、沈線	ハケメ	石英、金雲母、長石	
56	100	26	3	13号土坑	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	6.9+	-	-	黒褐 (2.5Y3/1)	黒褐 (2.5Y3/1)	ナデ、ハケメ、沈線	ハケメ	雲母、長石、角閃石	
56	101	26	3	13号土坑	弥生土器	甕	弥生	口縁部～胴部	(26.0)	11.2+	-	(29.6)	にぶい橙 (2.5YR6/4)	にぶい橙 (2.5YR6/4)	ハケメ、突帯、ナデ、指頭位置	ハケメ	雲母	
57	102	26	3	B-17	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	4.9+	-	-	黄灰 (2.5Y4/1)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	ミガキ	ミガキ	角閃石、雲母、石英	

表12 上南部遺跡出土土器観察表

挿図 No.	図版 No.	調査 区	出土地点		器種	器形	時期	部位	量量 (cm)			色 調		調 整		焼成	胎土	備考
			報告	調査時					口径	器高	胴径	底径	外面	内面	外面			
57	103	26	3	B-17	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	6.0+	-	黒褐 (10YR3/1)	浅黄 (2.5YR7/3)	条直文	条直文	良好	雲母、石英	
57	104	26	3	B-17	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	5.7+	-	黒褐 (2.5Y3/1)	黒褐 (2.5Y3/1)	ミガキ	ミガキ	良好	角閃石、長石、雲母	波状口縁
57	105	26	3	B-17	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	5.5+	-	暗灰黄 (2.5Y5/2)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	ミガキ、沈線?	ナデ、ミガキ	良好	長石、雲母	
57	106	26	3	B-17 カクラン	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	2.8+	-	にぶい黄橙 (10YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR5/4)	ナデ、沈線	ナデ、ミガキ	良	角閃石、輝石	
57	107	26	3	B-17	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	3.6+	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	沈線、ミガキ	ナデ、ミガキ	良	角閃石、輝石、石英、 白色粒	
57	108	26	3	B-17	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	5.4+	-	黒褐 (2.5Y3/1)	黒褐 (2.5Y3/1)	刺突文、沈線、磨消縄文	ミガキ	良	雲母、石英、角閃石、 白色粒	
57	109	26	3	B-17 カクラン	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	4.9+	-	黄灰 (2.5Y4/1)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	磨消縄文、沈線、ミガキ、 X文	ミガキ	良	角閃石、黒砂粒	植物痕あり
57	110	26	3	B-17 カクラン	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	3.7+	-	褐灰 (10YR4/1)	褐 (10YR4/6)	磨消縄文、沈線、ミガキ	ミガキ	良	角閃石、石英	
57	111	26	3	B-17	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	5.6+	-	褐灰 (10YR4/1)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	磨消縄文、沈線、ミガキ	ミガキ	良	雲母、長石、石英	
57	112	26	3	B-17 カクラン	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	5.4+	-	にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	ミガキ、沈線	ミガキ	良	雲母、赤褐色粒、白 色粒	
57	113	27	3	B-17	縄文土器	鉢	縄文	底部	-	1.3+	-	灰黄 (2.5Y6/2)	浅黄 (2.5Y7/4)	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	良	雲母、白石粒	底部にミガキ
57	114	27	3	B-17	縄文土器	鉢	縄文	底部	-	1.8	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR7/6)	ナデ、ミガキ	ナデ	良	石英、雲母、長石	底部にミガキ
57	115	27	3	B-17	縄文土器	深鉢	縄文	底部	-	6.3+	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	浅黄 (2.5Y7/4)	ミガキ	ナデ、条痕	良	雲母、白石粒、輝石	
57	116	27	3	B-18	縄文土器	鉢	縄文	頸部~胴部	-	6.6+	-	灰 (5Y4/1)	橙 (7.5YR7/6)	ミガキ、沈線、磨消縄文	ミガキ	良	長石、石英、雲母、 角閃石、砂粒	
57	117	27	3	B-18	弥生土器	甕	弥生	口縁部	-	2.7+	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	ナデ	ナデ	良好	雲母、長石	
58	118	27	3	B-19 B-20	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	5.0+	-	黄灰 (2.5Y4/1)	黄灰 (2.5Y4/1)	ナデ	ナデ	良	雲母、白色粒	
58	119	27	3	A-20	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	2.8+	-	褐 (7.5YR4/3)	褐 (10YR4/4)	ナデ、X文	ナデ	良	白色粒	
58	120	27	3	A-20	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	2.2+	-	黄褐 (10YR5/6)	黄褐 (2.5Y5/3)	沈線、磨消縄文	ナデ、ミガキ	良	角閃石、石英、雲母	
58	121	27	3	A-20	縄文土器	鉢	縄文	口縁部	-	2.75+	-	褐 (10YR4/4)	黒褐 (2.5Y3/1)	沈線、凹線、ナデ	ミガキ	良	角閃石、雲母、石英	
58	122	27	3	A-20	縄文土器	鉢	縄文	胴部	-	4.1+	-	褐 (10YR4/6)	褐 (7.5YR4/6)	ナデ、沈線、磨消縄文	ナデ	良	長石、白色粒	

表13 上南部遺跡出土土器観察表

挿入No.	図版No.	調査区	出土地点		器種	器形	時期	部位	法量(cm)				色調		調整		焼成	胎土	備考
			報告	調査時					口径	器高	胴径	底径	外面	内面	外面	内面			
58	123	27	3	A-20	縄文土器	高杯形土器	縄文	胴部	-	4.3+	-	黒褐(2.5Y3/1)	灰(7.5Y4/1)	ミガキ	-	良	角閃石	穿孔2穴か?	
58	124	27	3	A-20	不明	不明	不明	底部	-	3.8+	-	褐(10YR4/6)	褐(10YR4/6)	ナデ	ナデ	良	白色粒		

※()書きは復元値、数値の後に+が付くものは残存値

表14 上南部遺跡出土土器観察表

挿入No.	報告No.	図版No.	調査区	出土地点		器種	出土層位	法量(cm)				材質	備考
				報告	調査時			長さ	幅	厚さ	重量(g)		
12	10	19	1	2号竪穴建物	S113	埋土	埋土	3.05+	3.20+	0.40+	5.28	緑泥片岩	石包丁の破片 穿孔部の残存なし。裏面剥落。
12	11	19	1	2号竪穴建物	S113	埋2	被熱石	23.6	9.50	8.90	3245.1	安山岩	側面に直径2.5cmの磨面あり
22	29	20	2	3号竪穴建物	S215	埋1	石鏃	2.30+	1.70+	0.70	1.54	安山岩	先端部、片脚欠損
22	30	20	2	3号竪穴建物	S215	埋1	石匙	3.60	7.70	1.10	18.67	安山岩	表面に自然面、裏面に素材面が残る
31	50	22	2	11号竪穴建物	S206	埋土	砥石	25.10	10.90	5.05	2.000	砂岩	全面使用により形状がくぼむ
34	56	22	2	13号竪穴建物	S202	埋土	敲石	12.6	7.90	6.20	732.9	安山岩	
47	71	24	2	10号土坑	S204	埋3	砥石	10.90+	6.50+	6.25+	396.44	砂岩	
49	76	25	2	P12046			石匙	3.90	4.10	0.80	11.33	安山岩	表裏面ともに素材の面が残る。素材剥片の頭部側に抉りを入れて周辺部に加工を施す
49	77	25	2	B-11・12			石鏃	1.75+	1.25	0.30	0.41	安山岩	先端部わずかに欠損
49	78	25	2	C-14			石鏃	2.55	1.35	0.40	0.85	黒曜石	
49	79	25	2	C-14			石鏃	2.05	1.60	0.30	0.71	安山岩	
49	80	25	2	C-9			石鏃	2.55+	2.60	0.50	1.88	黒曜石	先端部欠損
49	81	25	2	C-9			肩部磨製石斧	7.85+	7.05+	1.80+	129.46	安山岩	基部欠損。左側縁の稜上に薄れ痕が観察される
49	82	25	2	P12059			打製石斧	12.60	5.70	2.35	153.19	安山岩	加工は素材剥片の周辺部を中心としており内部までは及ばない。表面に自然面、裏面に素材の面が残る
55	96	26	3	11号土坑	S302	埋土	石鏃	2.35+	1.90	0.55	1.62	安山岩	先端部をわずかに欠損する
55	97	26	3	11号土坑	S302	埋6	打製石斧	6.20+	5.30+	2.40	111.57	粘板岩?	基部・刃部欠損。表面に自然面が残る
55	98	26	3	11号土坑	S302	埋3	打製石斧	11.50+	6.20+	1.90	137.82	安山岩	刃部欠損。表裏面ともに素材の面が残る
58	125	28	3	P13066			石鏃	1.50+	1.65+	0.30+	0.47	黒曜石	片脚から基部にかけて残存。
58	126	28	3	B-17			石鏃	1.80	1.35	0.35	0.76	安山岩	
58	127	28	3	A-20			石鏃	2.75	1.70	0.60	1.75	黒曜石	先端部にガジリ痕あり
58	128	28	3	一括			石鏃	2.50+	1.75+	0.40	1.02	黒曜石	先端部から片側縁を欠損する。素材剥片の主側面が残る

※()書きは復元値、数値の後に+が付くものは残存値

参考文献

- 熊本市教育委員会 1973 『熊本市東部地区文化財調査報告書』
- 熊本市教育委員会 1979 『下南部遺跡発掘調査報告書』
- 熊本市教育委員会 1979 『熊本市内埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 熊本市教育委員会 1981 『上南部遺跡発掘調査報告書』
- 熊本県教育委員会 1983 『上の原遺跡Ⅰ発掘調査報告書』
- 財団法人多士会館 1986 『黒髪町遺跡』多士会館敷地発掘調査報告
- 熊本県教育委員会 1989 『六地藏遺跡Ⅰ』
- 熊本県教育委員会 1994 『ワクト石遺跡』
- 熊本県教育委員会 2007 『旧馬場楠井手取入口』
- 熊本県教育委員会 2016 『新南部遺跡（10次・11次）・吉原遺跡』
- 熊本県教育委員会 2016 『託麻弓削遺跡群 中江遺跡』
- 熊本市教育委員会 2015 『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集』竹ノ後・芭蕉遺跡群 第4次調査区
- 熊本市教育委員会 2001 『神水遺跡Ⅵ』第5次・第18次調査区発掘調査報告書
- 熊本市教育委員会 2003 『神水遺跡Ⅴ』第13次・第23次・第25次調査区発掘調査報告書
- 新熊本市史編纂委員会 1996 『新熊本市史』史料編 第1巻 考古資料
- 新熊本市史編纂委員会 1998 『新熊本市史』通史編 第1巻 自然 原始・古代
- 宇土市史編纂委員会 2009 『新宇土市史』通史編 第1巻 自然 原始古代
- 阿蘇郡西原村教育委員会 1978 『谷頭遺跡』
- 西健一郎 1982 「熊本県における弥生中期甕棺編年の予察」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』
- 岡崎敬先生退官記念事業会 1987 『東アジアの考古と歴史』（中）岡崎敬先生退官記念論集
- 小郡市史編集委員会 1996 『小郡市史』第1巻 通史編 地理・原始・古代
- 小郡市史編集委員会 2001 『小郡市史』第4巻 資料編 原始・古代
- 溝口孝司 1998 『弥生人のタイムカプセル』「甕棺墓地の移り変わり」福岡市博物館
- 角南聡一郎 2000 『弥生の墓制』—墓制からみた弥生文化の成立— 「弥生時代前期の土器甕棺」
第48回埋蔵文化財研究集会実行委員会
- 橋口達也 2005 『甕棺と弥生時代年代論』雄山閣
- 池田朋生 2006 「熊本の縄文時代住居跡から見た定住化の様相」『研究紀要第6集』熊本県立装飾古墳館
- 肥後考古学会・長崎県考古学会合同大会 2011 『環有明海の交流—台付甕をめぐる諸問題—』
- 肥後考古会 2014 『肥後考古』第19号 富田紘一会長古稀記念号

写真图版



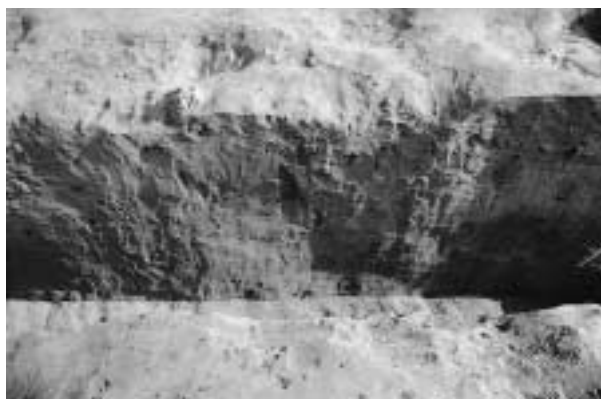
1区 遺構検出状況①（東から）



遺構検出状況②（東から）



1 Tr. A-A' 土層断面①（南から）



1 Tr. A-A' 土層断面②（南から）



1 Tr. A-A' 土層断面③（南から）



1 Tr. A-A' 土層断面④（南から）



1号竪穴建物(S107)土層断面（北西から）



1号竪穴建物(S107)貯蔵穴土層断面（北から）

図版2



1区 1号竪穴建物(S107)完掘状況(東から)



2号竪穴建物(S113)土層断面(西から)



2号竪穴建物(S113)遺物出土状況(北から)



2号竪穴建物(S113)炉土層断面(北から)



2号竪穴建物(S113)完掘状況(北から)



円形周溝(S108)遺物出土状況①(北から)



円形周溝(S108)遺物出土状況②(西から)



円形周溝(S108)土層断面①(西から)



1区 円形周溝(S108)土層断面② (東から)



円形周溝(S108)完掘状況 (西から)



1号溝(S112)土層断面① (西から)



1号溝(S112)土層断面② (西から)



1号溝(S112)完掘状況 (西から)



2号溝(S106)土層断面 (東から)



2号溝(S106)完掘状況 (東から)



1号土坑(S115)土層断面 (東から)

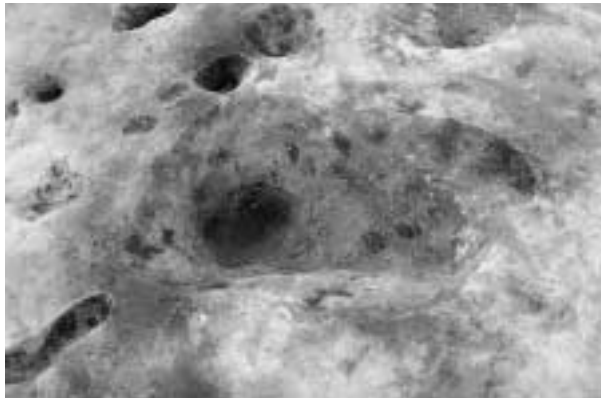
図版4



1区 1号土坑(S115)完掘状況(北から)



2号土坑(S102)土層断面(北から)



2号土坑(S102)完掘状況(南から)



3号土坑(S104)土層断面(北から)



3号土坑(S104)完掘状況(西から)



1区調査区完掘状況①(北西から)



1区調査区完掘状況②(西から)



1区調査区完掘状況③(西から)



2区 遺構検出状況①（東から）



遺構検出状況②（東から）



遺構検出状況③（東から）



遺構検出状況④（北から）



2 Tr. A-A' 土層断面①（西から）



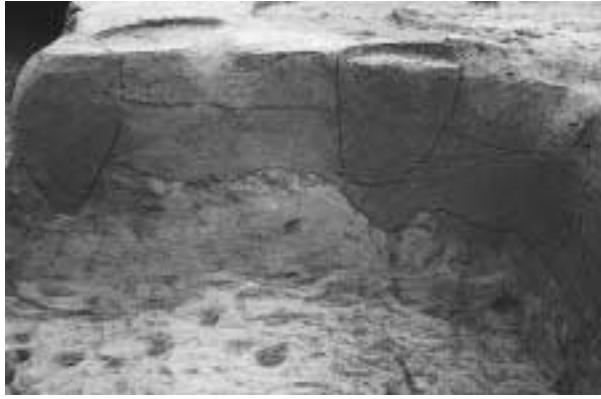
2 Tr. A-A' 土層断面②（南から）



2 Tr. A-A' 土層断面③（西から）



2 Tr. A-A' 土層断面④（東から）



2区 3 Tr. A-B土層断面 (南から)



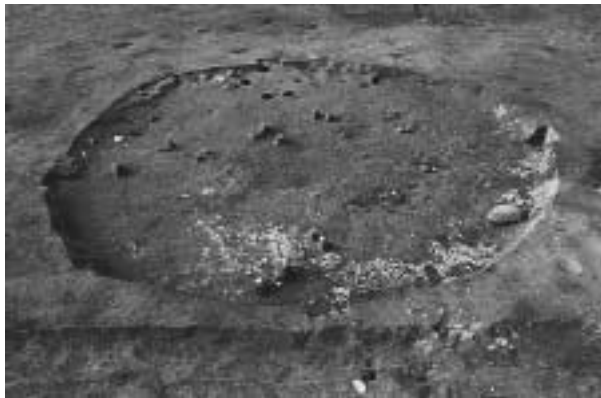
3 Tr. B-C土層断面 (西から)



3号竪穴建物(S215)土層断面① (東から)



3号竪穴建物(S215)土層断面② (東から)



3号竪穴建物(S215)遺物出土状況 (東から)



3号竪穴建物(S215)炉土層断面① (東から)



3号竪穴建物(S215)炉土層断面② (西から)



4号竪穴建物(S222)土層断面 (東から)



2区 4号竪穴建物(S222)完掘状況(西から)



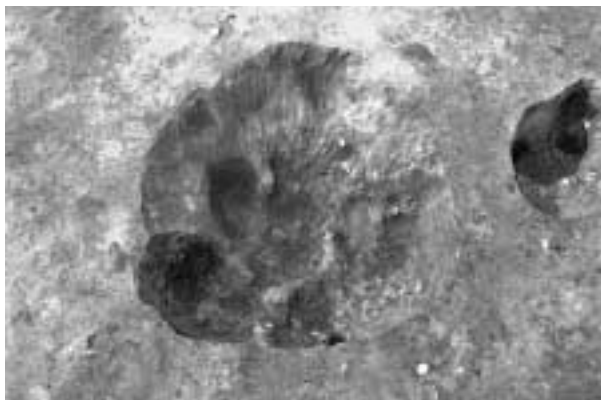
5号竪穴建物(S220)検出状況(東から)



5号竪穴建物(S220)完掘状況(東から)



6号竪穴建物(S218)貯蔵穴土層断面(北から)



6号竪穴建物(S218)貯蔵穴完掘状況(東から)



6号竪穴建物(S218)完掘状況(北から)



7号竪穴建物(S209)土層断面(南から)



7号竪穴建物(S209)検出状況(東から)



2区 7号竪穴建物(S209)土層断面(南から)



7号竪穴建物(S209)貯蔵穴遺物出土状況(東から)



7号竪穴建物(S209)完掘状況(北から)



8号竪穴建物(S208)土層断面(南から)



8号竪穴建物(S208)遺物出土状況(北から)



8号竪穴建物(S208)完掘状況(北から)



9号竪穴建物(S207)土層断面(南から)



9号竪穴建物(S207)遺物出土状況(北から)



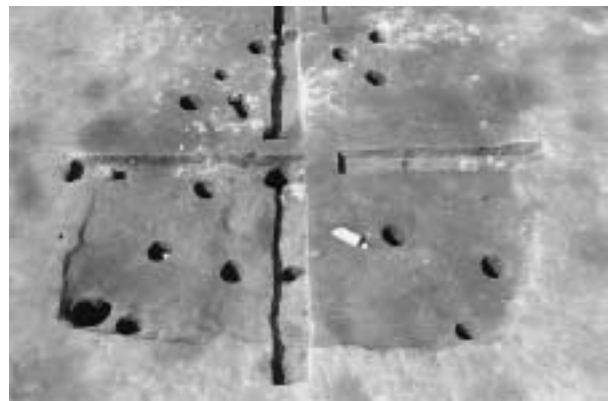
2区 9号竪穴建物(S207)完掘状況(北から)



10号竪穴建物(S205)炉土層断面(南から)



10号竪穴建物(S205)完掘状況(南から)



11号竪穴建物(S206)遺物出土状況(東から)



11号竪穴建物(S206)炉土層断面(西から)



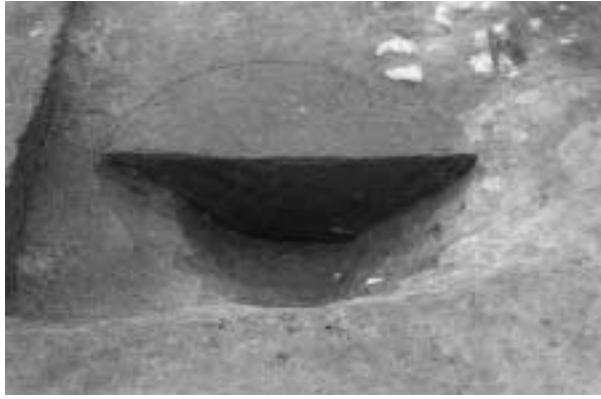
11号竪穴建物(S206)完掘状況(北から)



12号竪穴建物(S203)土層断面(東から)



12号竪穴建物(S203)炉土層断面(西から)



2区 12号竪穴建物(S203)貯蔵穴土層断面(東から)



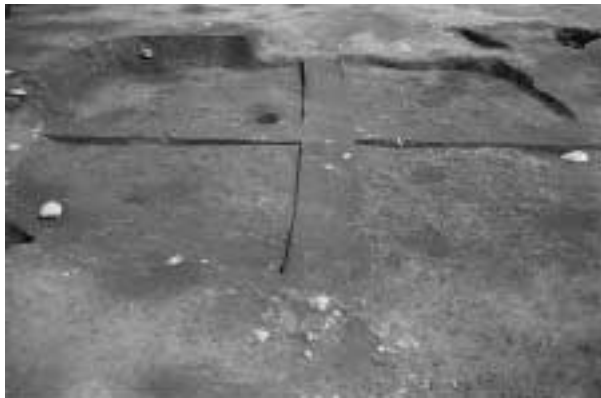
12号竪穴建物(S203)完掘状況(南から)



13号竪穴建物(S202)貯蔵穴土層断面(西から)



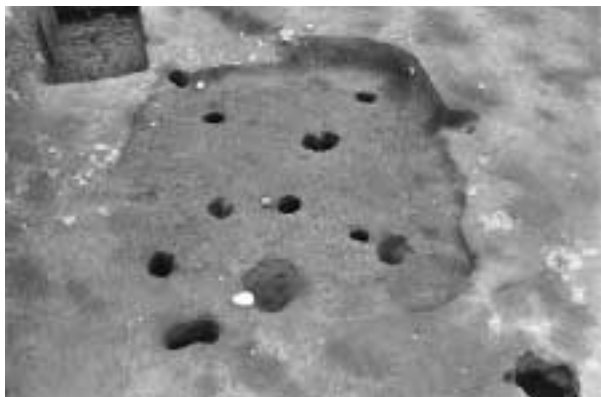
13号竪穴建物(S202)完掘状況(東から)



14号竪穴建物(S201)土層断面(南から)



14号竪穴建物(S201)貯蔵穴土層断面(東から)



14号竪穴建物(S201)完掘状況(東から)



1号甕棺墓(S230)検出状況(西から)



2区 1号甕棺墓(S230)土層断面(西から)



1号甕棺墓(S230)検出状況(西から)



1号甕棺墓(S230)甕棺出土状況(西から)



1号甕棺墓(S230)完掘状況(西から)



2号甕棺墓(S228)検出状況(西から)



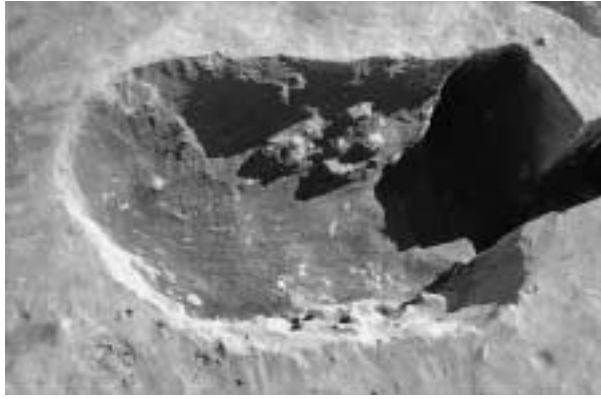
2号甕棺墓(S228)土層断面(北から)



2号甕棺墓(S228)甕棺出土状況①(北西から)



2号甕棺墓(S228)甕棺出土状況②(東から)



2区 2号甕棺墓(S228)完掘状況(北西から)



3号甕棺墓(S229)土層断面(西から)



3号甕棺墓(S229)甕棺出土状況①(南から)



3号甕棺墓(S229)甕棺出土状況②(北から)



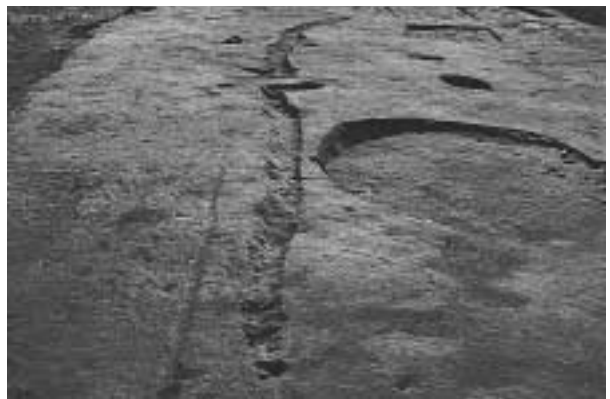
3号甕棺墓(S229)甕棺出土状況③(東から)



3号甕棺墓(S229)完掘状況(西から)



3号溝(S216)土層断面(南から)



3号溝(S216)完掘状況(北から)



2区 4号溝(S217)土層断面(西から)



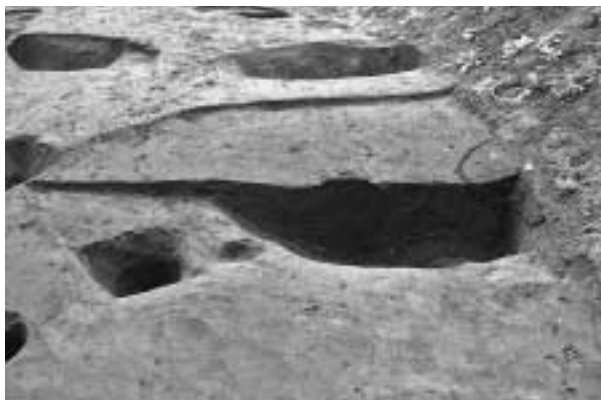
4号溝(S217)完掘状況(西から)



5号溝(S214)土層断面(北から)



5号溝(S214)完掘状況(北から)



4号土坑(S231)土層断面(北から)



4号土坑(S231)完掘状況(東から)



5号土坑(S232)土層断面(東から)



5号土坑(S232)完掘状況(北から)



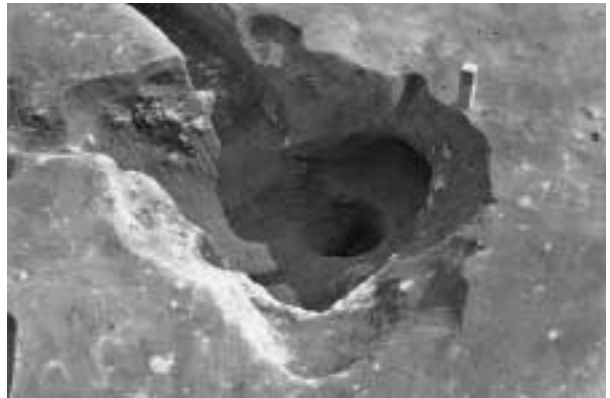
2区 6号土坑(S219)遺物出土状況(東から)



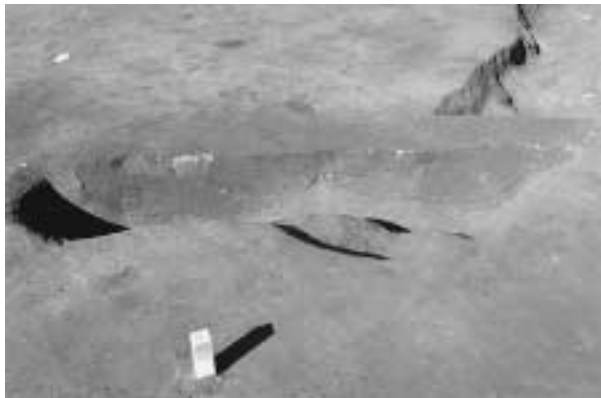
6号土坑(S219)完掘状況(東から)



7号土坑(S233)土層断面(西から)



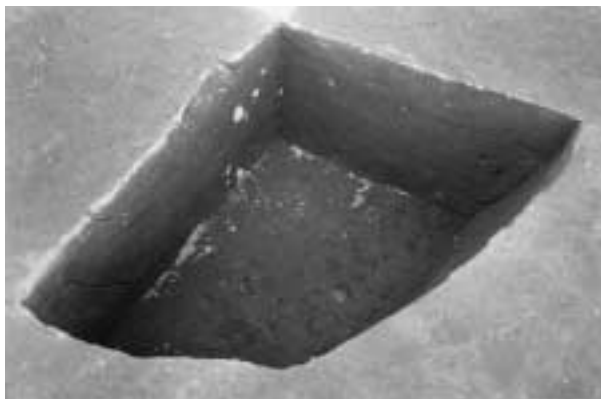
7号土坑(S233)完掘状況(西から)



8号土坑(S221)土層断面(南から)



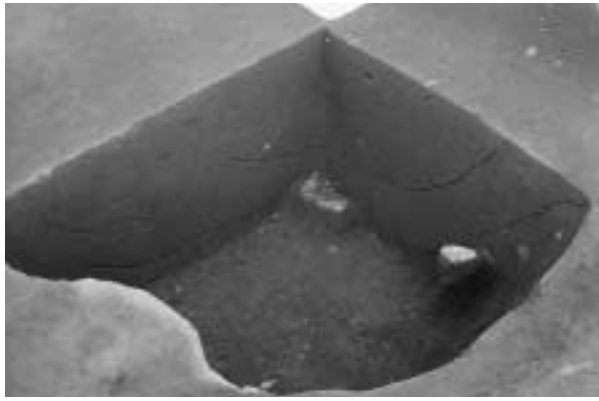
8号土坑(S221)完掘状況(南から)



9号土坑(S210)土層断面(南から)



9号土坑(S210)完掘状況(南から)



2区 10号土坑(S204)土層断面(東から)



10号土坑(S204)完掘状況(北から)



2区調査区完掘状況①(西から)



2区調査区完掘状況②(西から)



2区調査区完掘状況③(西から)



2区調査区完掘状況④(西から)



2区作業の様子①(2016年2月17日)



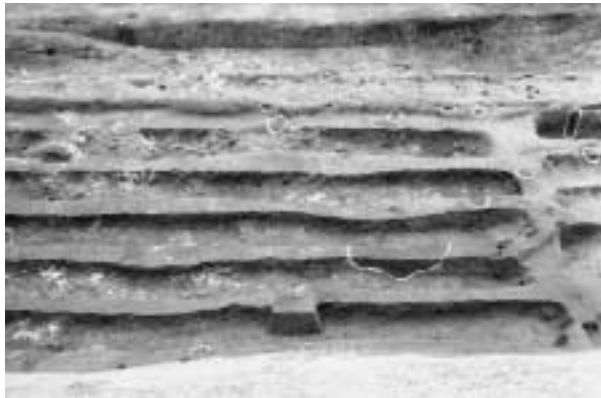
2区作業の様子②(2016年2月17日)



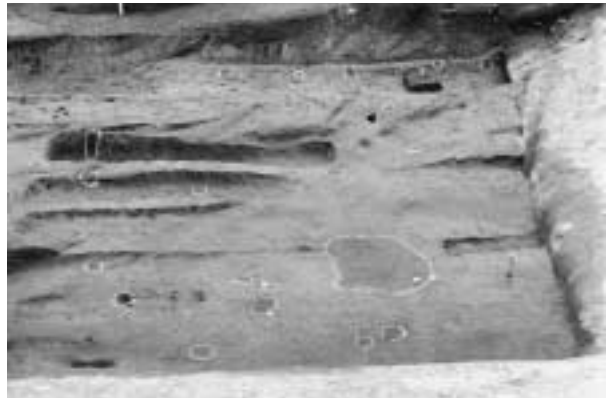
3区 遺構検出状況① (西から)



遺構検出状況② (西から)



遺構検出状況③ (西から)



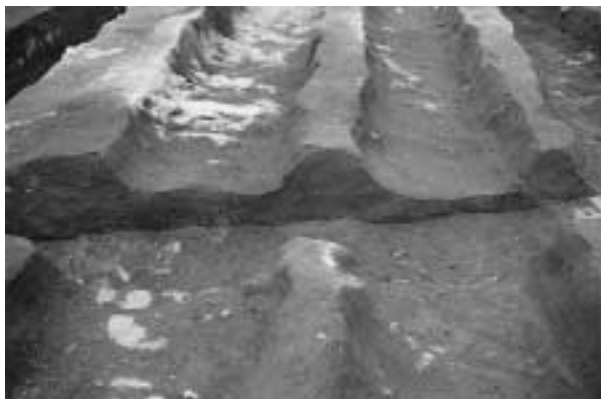
遺構検出状況④ (西から)



4 Tr. A-A' 土層断面 (南から)



5 Tr. B-B' 土層断面① (南から)



5 Tr. B-B' 土層断面② (南から)



5 Tr. B-B' 土層断面③ (南から)



3区 5 Tr. B-B' 土層断面④ (南から)



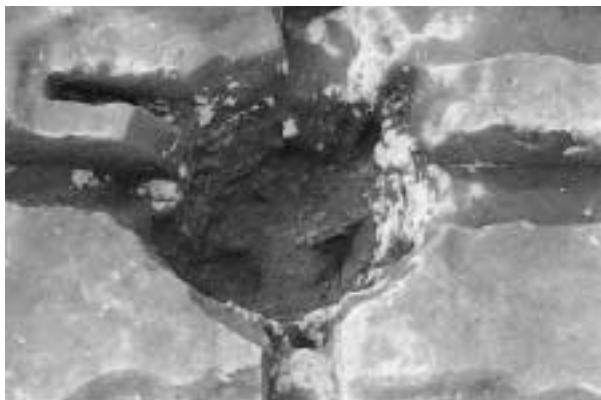
11号土坑(S302)土層断面 (東から)



11号土坑(S302)遺物出土状況上層① (東から)



11号土坑(S302)遺物出土状況② (南から)



11号土坑(S302)完掘状況 (東から)



12号土坑(S304)土層断面 (東から)



12号土坑(S304)完掘状況 (東から)



13号土坑(S301)検出状況 (西から)



3区 13号土坑(S301)土層断面 (西から)



13号土坑(S301)遺物出土状況 (西から)



3区調査区完掘状況① (東から)



3区調査区完掘状況② (東から)



3区調査区完掘状況③ (東から)



3区調査区完掘状況④ (東から)



夏の現場説明会 (2015年8月9日)



秋の現場説明会 (2015年10月24日)

1区1号豎穴建物



2号豎穴建物



円形周溝



2号溝



1号土坑



D・Eグリッド(1)



図版20

1区D・Eグリッド(2)



2区3号竪穴建物



2区4号竖穴建物



5号竖穴建物



6号竖穴建物



7号竖穴建物



8号竖穴建物



图版22

2区9号竖穴建物



10号竖穴建物



11号竖穴建物



12号竖穴建物



13号竖穴建物



2区1号甕棺



3号甕棺



2号甕棺

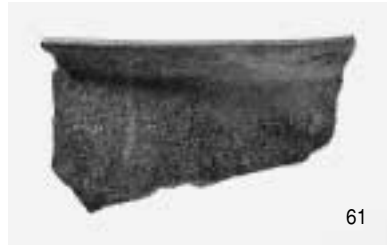


図版24

2区14号竪穴建物



2号甕棺墓



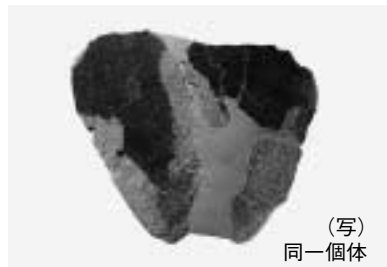
6号土坑



9号土坑



10号土坑



Cグリッド



Pit2069



Pit2047



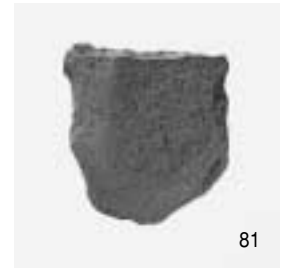
2区Pit2046 Pit2059



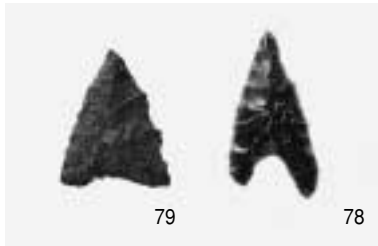
B-11・12グリッド



C-9グリッド



C-14グリッド



Pit2117

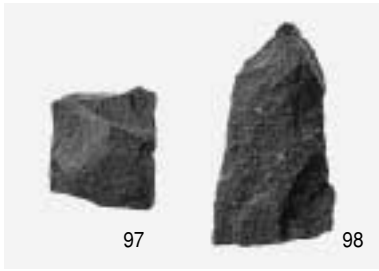


3区11号土坑(1)



図版26

3区11号土坑(2)



13号土坑



B-17グリッド(1)



3区B-17グリッド(2)



B-18グリッド



B-19・20グリッド



A-20グリッド



Pit3049



Pit3059



Pit3077



Pit3072

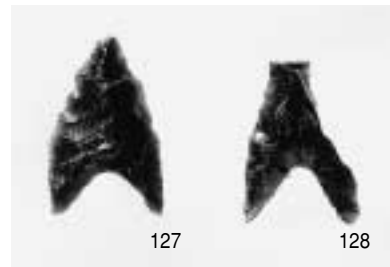
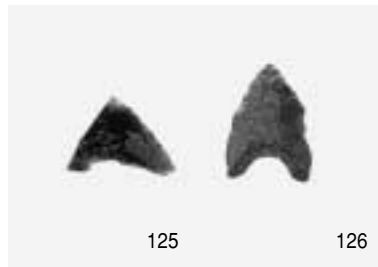


3区一括(1)



図版28

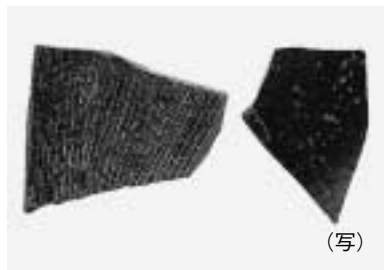
3区一括(2)



3区カクラン(1)



3区カクラン(2)



鉄製品

1区D-2グリッド



2区C-14グリッド



3区カクラン



報告書抄録

ふりがな	かみなべいせき							
書名	上南部遺跡							
副書名	白川河川激甚災害対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財調査報告(4)							
シリーズ名	熊本県文化財調査報告							
シリーズ番号	第326集							
編著者名	尾崎潔久							
編集機関	熊本県教育委員会							
所在地	〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 TEL 096-383-1111(代表)							
発行年月日	2017年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみなべいせき 上南部遺跡	くまもとけん 熊本県 くまもとし 熊本市 ひがしくかみなべちようめ 東区上南部1丁目	43201	685	32°	130°	2015.06.4	718㎡	河川改修 工事
				50′	45′	～	2436㎡	
				13.9″	59.7″	2016.02.29	1560㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
上南部遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代	竪穴建物 14軒 甕棺墓 3基 円形周溝 1条 溝状遺構 5条	縄文土器 弥生土器 打製石斧 磨製石斧 砥石、石鏃 石匙	弥生時代の竪穴建物 14軒 弥生時代の甕棺墓 3基 縄文時代の土坑 1基 弥生時代の土坑 3基			
要約	上南部遺跡の発掘調査では、弥生時代中期～後期の竪穴建物14軒、弥生時代中期の甕棺墓3基が検出され、弥生時代の集落を確認することができた。上南部遺跡において、これまで弥生時代の集落は知られていなかったが、今回の調査で確認されたことは大きな成果である。							

熊本県文化財調査報告 第326集

上南部遺跡

白川河川激甚災害特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)

発行年月日	平成29年 3月24日
編集・発行	熊本県教育委員会 〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6丁目18番 1号
印刷	白木メディア株式会社 〒862-0976 熊本市中央区九品寺 5丁目 9番35号

発 行 者：熊本県教育委員会
所 属：教育庁教育総務局文化課
発行年度：平成28年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第326集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：上南部遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2019年1月15日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL：<http://www.kumamoto-bunho.jp/>